

感染症定期報告の報告状況(2006/1/1~2006/3/31)

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----------|-------|--------------|----------|--------------|------|----------------------|------|----|----|------|-----------------|--|--|
| 1 | 2006/1/10 | 50807 | 株式会社 ベネシス | 人ハプトグロビン | 人ハプト グロビン | 人血液 | 非献血:米 国、献血:日 本 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | パルボウイル ス | Transfusion 2005; 45: 1011-1019 | ウイルスバリデーション試験でのヒトパルボウイルス B19(B19)の感染性の定量的分析のために、B19特異性の LC RT-PCRが開発された。凍結乾燥フィブリノゲンにB19 を添加し乾燥過熱処理(100°C)工程におけるB19の不活化 効果がB19特異性LC RT-PCRを用いて調査された。凍結 乾燥フィブリノゲンの水分含量が乾燥加熱処理における B19の異なる耐性と関係しており、ウイルスにとっては水分 含量が低い方が熱に対して安定と思われる。 |
| | | | | | | | | | | | | A型肝炎 | Transfusion 2005; 45: 1037-1038 | ドイツのワクチン非接種の血液ドナー2人が、エジプトのH AVリスク以外の地域への旅行から帰国後、PCRによるス クリーニング検査でHAV感染が確認された。このことより、 HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められな かった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクが あることを警告している。輸血によるHAV感染防止のため には、HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ド ナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又 は一時的な供血禁止が必要である。今回の事例の感染源 は特定されていないが、宿泊したホテルの1つがヨーロッパ 入旅行者のHAV感染300例以上の感染源であることが後に 判明した。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイル ウイルス | CDC/EID 2005; 11(8): 1294-1296 | 2004年7月にWNV感染の確認された患者の尿からWNV- RNAが検出された初めての事例。 |
| | | | | | | | | | | | | A型肝炎 | Transfusion 2005; 45: 1097-1105 | 市販のRT-PCRの検査ではHAV陰性であった血液ドナー からHAVⅢA型が見つかった。HAVⅢA型を定量的かつ定性 的に確認できるreal-timeRT-PCRキットが開発された。 |
| | | | | | | | | | | | | リケッチア症 | 衛生動物 2005; 56(Suppl): 57 (第 57回日本衛生動物 学会) | 2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因 の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精 査したところ、欧州と共通のRickettsia helvetica(Rh)感染 の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国 ひいては極東アジアでの初確認例である。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|--------------------------------------|--|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | AABB Weekly Report 2005; 11(25): 3 | カナダ Hema-Quebec は vCJD が地域の血液供給を介して伝播することのないように数年前から実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発効する。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更される。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は不適格である。 |
| | | | | | | | | | | | | レンサ球菌感染 | ProMed 20050726-2169 | 四川省で患者24人の死因となった病原性の高いブタの感染症が、最初の患者が入院してから1ヶ月後に同定された。患者らは感染したブタを屠殺したり扱った際にブタ連鎖球菌 Streptococcus suis 2型に感染したと確認された。2005年7月26日現在で感染患者総は117名、死亡率は約25%である。四川省共産党書記官はこの菌はヒト感染を起こさないと述べている。 |
| | | | | | | | | | | | | B型肝炎 | AABB Weekly Report 2005; 11(26): 4-5 | 米国のFDA血液製剤諮問委員会で、HBV DNA陽性、HBc抗体陰性、HBs抗原陰性、又は中和試験で確認されないが、繰り返しHBs抗原陽性であった輸血用の全血および血液成分のドナーは、最低6ヶ月経過した後、個別NATによりHBV DNA陰性、HBc抗体陰性及びHBs抗原陰性であれば再登録できることを合意した。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Nature 2005; 437: 257-261 | 伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | Yomiuri Online 2005年10月3日 | 厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウイルス感染症である西ナイル熱と診断されたと発表した。発熱などの症状がみられたが、すでに回復している。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | J Infect 2005; 51: 91-97 | サウジアラビア Alkhumra 地区で1995年に6人のデング熱のような患者から、ダニ媒介性キャサヌル森林熱ウイルスに非常に類似した新種のフラビウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビア Makkah で2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などを伴い、致死率は25%であった。感染経路はヒツジやヤギの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱と考えられる。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----------|-------|---------|-----------------------|-----------|------|-------------------------|------|----|----|------|------------------|---------------------------------|--|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | Science 2005; 310: 324-326 | 慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイピー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイピーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | | 寄生虫感染 | Transfusion 2005; 45: 1804-1810 | コネチカット州のパベシア流行地及び非流行地の血液ドナーそれぞれ1745例の血清をBabesia microti抗体について調べた。流行地の血清学的陽性血液ドナーは24例(1.4%)で、非流行地の陽性血液ドナー(6例、0.3%)より多かった。また、血清学的陽性の血液ドナー19例のうち10例(53%)がPCRによりBabesia microtiに陽性であった。輸血により本寄生虫血症が伝播するおそれがある。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | J Virol 2005; 79: 13794-13796 | 慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | WHO 2005年11月17日 | 中国衛生省によると、中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例(9歳少年)は回復したが、もう1例(24歳女性)は死亡した。 |
| 2 | 2006/1/12 | 50808 | 株式会社科薬 | トロンピン | トロンピン | ウシ血液 | ニュージーランド、オーストラリア、アルゼンチン | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 3 | 2006/1/12 | 50809 | 株式会社科薬 | トロンピン | トロンボプラスチン | ブタ肺 | デンマーク | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 4 | 2006/1/12 | 50810 | ワイス株式会社 | ケムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え) | ヒトランスフェリン | ヒト血液 | 米国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 5 | 2006/1/12 | 50811 | ワイス株式会社 | ケムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え) | ヒトγグロブリン | ヒト血液 | フィンランド、スウェーデン | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----------|-------|---------|-----------------------|---------|------|------------------|------|----|----|------|---------|---|---|
| 6 | 2005/1/12 | 50812 | ワイス株式会社 | ゲムツスマブオゾガマイシン(遺伝子組換え) | スキムミルク | ウシ乳 | 米国 | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 炭疽 | ProMED 20050729-0080, 20050805-0030, 20050730-0100, 20050818-0070, 20050730-0130, 20050909-0060, 20050917-0060, 20050918-0050 | 米国の複数の州(ノースダコタ州、サウスダコタ州、ミネソタ州、モンタナ州)におけるウシ炭疽病の報告。 |
| | | | | | | | | | | | | 炭疽 | ProMed 20050729-0070 ProMed 20050812-0110 | カナダ マニトバ州におけるウシ炭疽病の報告。2001年から03年に発生した地域とは別の地域での発生。 |
| | | | | | | | | | | | | BSE | USDA Statement 2005年6月29日 | 米国でBSE疑いの牛が検査でBSE確定診断された。当該牛はテキサス州で生育したおよそ12才の雌牛。加工用として処理施設に搬送時に死亡していた。 |
| 7 | 2006/1/12 | 50813 | ワイス株式会社 | ゲムツスマブオゾガマイシン(遺伝子組換え) | ペプトン | ウシ乳 | オーストラリア、ニュージーランド | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 炭疽 | ProMED 20050729-0080, 20050805-0030, 20050730-0100, 20050818-0070, 20050730-0130, 20050909-0060, 20050917-0060, 20050918-0050 | 米国の複数の州(ノースダコタ州、サウスダコタ州、ミネソタ州、モンタナ州)におけるウシ炭疽病の報告。 |
| | | | | | | | | | | | | 炭疽 | ProMed 20050729-0070 ProMed 20050812-0110 | カナダ マニトバ州におけるウシ炭疽病の報告。2001年から03年に発生した地域とは別の地域での発生。 |
| | | | | | | | | | | | | BSE | USDA Statement 2005年6月29日 | 米国でBSE疑いの牛が検査でBSE確定診断された。当該牛はテキサス州で生育したおよそ12才の雌牛。加工用として処理施設に搬送時に死亡していた。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来 成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正 使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----------|-------|---------|-----------------------|-------------|------|------------------|------|----|----|----------|---------|---|---|
| 8 | 2006/1/12 | 50814 | ワイス株式会社 | ゲムツスマブオソガマイシン(遺伝子組換え) | 加水分解カゼイン | ウシ乳 | オーストラリア、ニュージーランド | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 炭疽 | ProMED 20050729-0080,20050805-0030,20050730-0100, 20050818-0070, 20050730-0130, 20050909-0060, 20050917-0060, 20050918-0050 | 米国の複数の州(ノースダコタ州、サウスダコタ州、ミネソタ州、モンタナ州)におけるウシ炭疽病の報告。 |
| | | | | | | | | | | | | 炭疽 | ProMed 20050729-0070 ProMed 20050812-0110 | カナダ マニトバ州におけるウシ炭疽病の報告。2001年から03年に発生した地域とは別の地域での発生。 |
| | | | | | | | | | | | | BSE | USDA Statement 2005年6月29日 | 米国でBSE疑いの牛が検査でBSE確定診断された。当該牛はテキサス州で生育したおよそ12才の雌牛。加工用として処理施設に搬送時に死亡していた。 |
| 9 | 2006/1/12 | 50815 | ワイス株式会社 | ゲムツスマブオソガマイシン(遺伝子組換え) | ウシ胎児血清 | ウシ血液 | ニュージーランド、米国 | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 炭疽 | ProMED 20050729-0080,20050805-0030,20050730-0100, 20050818-0070, 20050730-0130, 20050909-0060, 20050917-0060, 20050918-0050 | 米国の複数の州(ノースダコタ州、サウスダコタ州、ミネソタ州、モンタナ州)におけるウシ炭疽病の報告。 |
| | | | | | | | | | | | | 炭疽 | ProMed 20050729-0070 ProMed 20050812-0110 | カナダ マニトバ州におけるウシ炭疽病の報告。2001年から03年に発生した地域とは別の地域での発生。 |
| | | | | | | | | | | | | BSE | USDA Statement 2005年6月29日 | 米国でBSE疑いの牛が検査でBSE確定診断された。当該牛はテキサス州で生育したおよそ12才の雌牛。加工用として処理施設に搬送時に死亡していた。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 | |
|----|-----------|-------|--------------------|-------------------------|-------------------------|--------|-----------------------|------|----|----|------|-----------|---|--|--|
| 10 | 2006/1/12 | 50816 | ワイス株式会社 | ゲムツスマブオゾガマイシン(遺伝子組換え) | ウシ血清アルブミン | ウシ血液 | 米国 | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 炭疽 | ProMED 20050729-0080,20050805-0030,20050730-0100, 20050818-0070, 20050730-0130, 20050909-0060, 20050917-0060, 20050918-0050 | 米国の複数の州(ノースダコタ州、サウスダコタ州、ミネソタ州、モンタナ州)におけるウシ炭疽病の報告。 | |
| | | | | | | | | | | | | 炭疽 | ProMed 20050729-0070 ProMed 20050812-0110 | カナダ マニトバ州におけるウシ炭疽病の報告。2001年から03年に発生した地域とは別の地域での発生。 | |
| | | | | | | | | | | | | BSE | USDA Statement 2005年6月29日 | 米国でBSE疑いの牛が検査でBSE確定診断された。当該牛はテキサス州で生育したおよそ12才の雌牛。加工用として処理施設に搬送時に死亡していた。 | |
| 11 | 2006/1/12 | 50817 | ワイス株式会社 | ゲムツスマブオゾガマイシン(遺伝子組換え) | コレステロール | ヒツジ毛 | オーストラリア、ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | | |
| 12 | 2006/1/12 | 50818 | ワイス株式会社 | ゲムツスマブオゾガマイシン(遺伝子組換え) | マウス骨髄腫由来NS0細胞 | マウス骨髄腫 | 不明 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | | |
| 13 | 2006/1/12 | 50819 | 株式会社第一ラジオアイソトープ研究所 | テネチウム大凝集人血清アルブミン(99mTc) | テネチウム大凝集人血清アルブミン(99mTc) | ヒト血液 | 米国 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | トリインフルエンザ | Nature 2005; 437: 1108 | 2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。 | |
| 14 | 2006/1/16 | 50820 | 財団法人化学及血清療法研究所 | 乾燥スルホ化人免疫グロブリン | スルホ化人免疫グロブリンG | ヒト血液 | 米国(ベロニン)、日本(献血ベロニン-I) | 有効成分 | 有 | 有 | 無 | リンパ性脈絡髄膜炎 | GDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2 (2005年5月26日) | 2005年5月米国で、同一ドナー由来の臓器移植患者4名が、移植後、リンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)に感染した痕跡があり、そのうち3名が死亡した。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒト-ヒト感染は、母子の垂直感染以外は知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシピエントにLCMV感染臓器が移植された場合には重篤な症例になることが示唆された。 | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----------|-------|------------|--------|---------|------|-----|------|----|----|------|-------------|---|--|
| | | | | | | | | | | | | リケッチア症 | 第57回日本衛生動物学会大会 2005年6月1-3日 | 2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsia helvetica(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV感染、C型肝炎 | FDA/CBER Guidance for Industry July 2005 | 2005年7月、米国食品薬品局(FDA)生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエンリ-基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合は永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合にはリエントリーする。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | Emerg Infect Dis 2005; 11: 1648-1649 | 2003年米国で、ウエストナイルウイルス(WNV)に感染したカラスの脳の飛散物を目に曝露したヒトが7日後に発症し、核酸増幅法でWNV RNAが検出された。14日目にはWNVに対するIgM抗体が検出された。初めての、結膜からの感染例と思われる。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3 (2005年10月5日) | 2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4例中3例に西ナイルウイルス(WNV)感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。 |
| 15 | 2006/1/16 | 50821 | 日立化成工業株式会社 | ウロキナーゼ | ウロキナーゼ | ヒト尿 | 中国 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | リケッチア症 | 第57回日本衛生動物学会 衛生動物 56(S):57 | 2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsia helvetica(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。 |
| | | | | | | | | | | | | リケッチア症 | 第57回日本衛生動物学会 衛生動物 56(S):57 | 2004年8月に徳島県で日本紅斑熱患者の飼犬からリケッチア感染が確認された。 |
| | | | | | | | | | | | | インフルエンザ | IDWR Japan(感染症週報) 2005年第27週 | インフルエンザの定点医療機関からの発生報告数は、第20週以降減少が続いていたが、第27週になって712(定点あたり報告数0.15)と増加した。 |
| | | | | | | | | | | | | インフルエンザ | IDWR Japan(感染症週報) 2005年第35週 | インフルエンザの定点医療機関からの定点あたりの発生報告数は、0.024と2005年第1週以降では最小を記録している。例年第35~36週前後に最低となることが多く、本年も例年と同様に発生数が最も減少する時期と考えられる。しかしながら、2005年第35週の定点あたり報告数は、過去5年間の同時期と比較すると最も高い値となっている。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----------|-------|--------------|--------------|----------------|------------|-----|------|----|----|------|------------------|---|---|
| | | | | | | | | | | | | E型肝炎 | 日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 922 | 北海道における急性E型肝炎患者を対象とし、E型肝炎ウイルス感染および重症化の危険因子について検討した。急性E型肝炎患者27例中25例(93%)が発症の2週から8週前にブタレバーかホルモンを摂取していた。IV型感染例はIII型より重症であった。また基礎疾患の有無が重症化と密接な関連があった。 |
| | | | | | | | | | | | | マイコプラズマ肺炎 | IDWR Japan(感染症週報) 2005年第39週 | マイコプラズマ肺炎は通年性に発生がみられるが、過去5年間では冬季にピークが見られ、またこの3年間では夏季にも小さなピークがみられている。2005年では過去5年間の同時期と比較して常にその平均値を越える状態が続いており、39週現在の累積報告数は、2000年以降では最高値となっている。 |
| | | | | | | | | | | | | 日本脳炎 | 臨床血液 2005; 46(8): 910 第9回日本ワクチン学会学術集会 要旨集 | 2004年4月28日から5月27日、日本脳炎ウイルス関与が強く示唆される血球貪食症候群6例が広島県のある地域で発生した。日本脳炎ウイルスに関与したウイルス関連血球貪食症候群の報告は初めてである。 |
| | | | | | | | | | | | | マイコプラズマ肺炎 | IDWR Japan(感染症週報) 2005年第40週 | マイコプラズマ肺炎の第40週の定点あたり報告数は2週連続して増加し、0.37となったが、2005年第1週以降では最高値となり、また過去6年間の同週との比較でも最も多かった。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | IDWR Japan(感染症週報) 2005年第40週 | 米国ロサンゼルスにおいて蚊に刺された30歳代男性が2005年9月5日に帰国した。帰国前より倦怠感があり、9月5日から発疹、頭痛、発熱(38.3℃)、腰痛の症状を呈し近医を受信したが症状が改善せず、病院を受診した。ウエストナイルウイルスIgM抗体検査や中和試験、その他の検査の結果、ウエストナイル熱と診断された。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | Am J Trop Med Hyg 2005; 73: 428-434 | 2003年コンゴ共和国の医療機関において、サル痘のヒト-ヒト感染が発生した。ヒトにおけるサル痘の流行を確認した初めての報告である。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。患者のすべてが18歳以下で、1名が死亡、1名に重度の後遺症が認められた。 |
| 16 | 2006/1/20 | 50822 | ヤンセンファーマ株式会社 | ムロモナブーCD3 | ムロモナブーCD3 | マウス腹水 | | 有効成分 | 無 | 無 | 有 | | | |
| 17 | 2006/1/23 | 50823 | 富士製薬工業株式会社 | 下垂体性性腺刺激ホルモン | 精製下垂体性性腺刺激ホルモン | 更年期婦人の尿抽出物 | 中国 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | Eurosurveillance 2005; 10(6) | ポルトガル保健監督局より、検査室結果で判明したポルトガルにおける初のvCJD可能性患者を報告。患者はCJD共同研究グループのvCJDの診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認されている。イギリスへの渡航歴はない。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----------|-------|------------|--------------|--------------|------------|---------|------|----|----|------|------------------|------------------------------|---|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Eurosurveillance 2005; 10(8) | 2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Science 2005; 310: 324-326 | 慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイピー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイピーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | WHO 2005年11月17日 | 中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例(9歳少年)は回復したが、もう1例(24歳女性)は死亡した。 |
| 18 | 2006/1/23 | 50824 | 富士製薬工業株式会社 | 下垂体性性腺刺激ホルモン | 下垂体性性腺刺激ホルモン | 更年期婦人の尿抽出物 | 中国 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Eurosurveillance 2005; 10(6) | ポルトガル保健監督局より、検査室結果で判明したポルトガルにおける初のvCJD可能性患者を報告。患者はCJD共同研究グループのvCJDの診断基準を満たし、イギリス国立CJD監視機構により確認されている。イギリスへの渡航歴はない。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Eurosurveillance 2005; 10(8) | 2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Science 2005; 310: 324-326 | 慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイピー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイピーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | WHO 2005年11月17日 | 中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例(9歳少年)は回復したが、もう1例(24歳女性)は死亡した。 |
| 19 | 2006/1/23 | 50825 | 富士製薬工業株式会社 | ヘパリンナトリウム注射液 | ヘパリンナトリウム | ブタの腸粘膜 | 中国、ブラジル | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----------|-------|---------------|-----------------------|-------------------------|-----------|----------------|------|----|----|------|---------|------------------------------|---|
| 20 | 2006/1/23 | 50826 | 三菱ウェルファーマ株式会社 | アプロチニン製剤 | アプロチニン液 | ウシ肺 | ウルグアイ、ニュージーランド | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 21 | 2006/1/23 | 50827 | 味の素株式会社 | ヘパリンナトリウム注射液 | ヘパリンナトリウム | 健康なブタの腸粘膜 | ブラジル | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | レンサ球菌感染 | IDWR JAPAN (感染症週報) 2005年第32週 | 中国で流行しているブタレンサ球菌感染は8月5日以降新規患者はないと中国衛生部は報告している。ブタのインフルエンザウイルスとニパウイルスの可能性は検査により否定されている。 |
| 22 | 2006/1/23 | 50828 | 持田製薬株式会社 | 日本薬局方 ヘパリンナトリウム注射液 | 日局 ヘパリンナトリウム | ブタ腸粘膜 | フランス | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 23 | 2006/1/23 | 50829 | 持田製薬株式会社 | インターフェロン ベータ | トリブシン | ブタ臍臓 | — | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 24 | 2006/1/23 | 50830 | 持田製薬株式会社 | インターフェロン ベータ | カルボキシペプチダーゼ | ブタ臍臓 | 米国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 25 | 2006/1/23 | 50831 | 持田製薬株式会社 | インターフェロン アルファ(BALL-1) | インターフェロンアルファ(BALL-1) | ヒトリンパ芽球細胞 | 日本 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 26 | 2006/1/23 | 50832 | 持田製薬株式会社 | インターフェロン ベータ | インターフェロンベータ | ヒト線維芽細胞 | 日本 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 27 | 2006/1/23 | 50833 | 持田製薬株式会社 | インターフェロン アルファ(BALL-1) | ウサギ抗血清 | ウサギ血液 | 米国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 28 | 2006/1/23 | 50834 | 持田製薬株式会社 | インターフェロン アルファ(BALL-1) | ハムスターの皮下で増殖させたヒトリンパ芽球細胞 | ハムスター | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 29 | 2006/1/23 | 50835 | 持田製薬株式会社 | インターフェロン ベータ | ウシ血清 | ウシ血液 | ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----------|-------|-------------|-----------------------|-----------------------|--------|------------------|------|----|----|------|------------------|---------------------------------|---|
| 30 | 2006/1/23 | 50836 | 持田製薬株式会社 | インターフェロン アルファ(BALL-1) | ウシ胎仔血清 | ウシ胎仔血液 | オーストラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 31 | 2006/1/23 | 50837 | 持田製薬株式会社 | インターフェロン アルファ(BALL-1) | マウスハイブリドーマ由来モノクロナール抗体 | マウス脾臓 | 英国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 32 | 2006/1/23 | 50838 | 持田製薬株式会社 | インターフェロン ベータ | インスリン | ウシ膵臓 | 米国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 33 | 2006/1/23 | 50839 | アステラス製薬株式会社 | パミテプラゼ(遺伝子組換え) | ウシ血清アルブミン | ウシ血液 | オーストラリア、ニュージーランド | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMED 20050704-0040 | ポルトガルにおける初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の可能性例が報告された。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed 20050802-0060 | スペインにおける初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(疑い)による死亡例が報告された。 |
| | | | | | | | | | | | | 炭疽 | ProMed 20050808-0020 | 中国で12名が炭疽に感染し、うち1名が死亡した。 |
| | | | | | | | | | | | | 結核 | IASR 2005; 26: 225 | ニューヨーク市で2001~2004年に報告された結核4524例のうち、35例がウシ型結核菌であり、うち1例は死亡例であった。聞き取り調査を行った23例中19例にメキシコ産チーズの食歴があった。現在、メキシコ産チーズについてウシ型結核菌の検査を行っている。 |
| | | | | | | | | | | | | 感染 | ProMed 20051012-0010 | 南アフリカで46歳男性がクリミア・コンゴ出血熱に感染し死亡。ウシ屠殺の際に感染したと考えられる。 |
| | | | | | | | | | | | | 炭疽 | ProMED 20051121-0020 | ジンバブエで炭疽によりヒト3名、ウシ130頭が死亡した。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | AABB Weekly Report 2005; 11(41) | 米国における2例目の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病が報告された。 |
| 34 | 2006/1/23 | 50840 | アステラス製薬株式会社 | パミテプラゼ(遺伝子組換え) | トランスフェリン | ウシ血液 | オーストラリア、ニュージーランド | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMED 20050704-0040 | ポルトガルにおける初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の可能性例が報告された。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----------|-------|-------------|-----------------|---------|------|-------------------------|------|----|----|------|------------------|---------------------------------|---|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed 20050802-0060 | スペインにおける初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(疑い)による死亡例が報告された。 |
| | | | | | | | | | | | | 炭疽 | ProMed 20050808-0020 | 中国で12名が炭疽に感染し、うち1名が死亡した。 |
| | | | | | | | | | | | | 結核 | IASR 2005; 26: 225 | ニューヨーク市で2001~2004年に報告された結核4524例のうち、35例がウシ型結核菌であり、うち1例は死亡例であった。聞き取り調査を行った23例中19例にメキシコ産チーズの食歴があった。現在、メキシコ産チーズについてウシ型結核菌の検査を行っている。 |
| | | | | | | | | | | | | 感染 | ProMed 20051012-0010 | 南アフリカで46歳男性がクリミア・コンゴ出血熱に感染し死亡。ウシ屠殺の際に感染したと考えられる。 |
| | | | | | | | | | | | | 炭疽 | ProMED 20051121-0020 | ジンバブエで炭疽によりヒト3名、ウシ130頭が死亡した。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | AABB Weekly Report 2005; 11(41) | 米国における2例目の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病が報告された。 |
| 35 | 2006/1/23 | 50841 | アステラス製薬株式会社 | パミテプラーゼ(遺伝子組換え) | インスリン | ウシ膵臓 | オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、米国 | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMED 20050704-0040 | ポルトガルにおける初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の可能性例が報告された。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed 20050802-0060 | スペインにおける初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(疑い)による死亡例が報告された。 |
| | | | | | | | | | | | | 炭疽 | ProMed 20050808-0020 | 中国で12名が炭疽に感染し、うち1名が死亡した。 |
| | | | | | | | | | | | | 結核 | IASR 2005; 26: 225 | ニューヨーク市で2001~2004年に報告された結核4524例のうち、35例がウシ型結核菌であり、うち1例は死亡例であった。聞き取り調査を行った23例中19例にメキシコ産チーズの食歴があった。現在、メキシコ産チーズについてウシ型結核菌の検査を行っている。 |
| | | | | | | | | | | | | 感染 | ProMed 20051012-0010 | 南アフリカで46歳男性がクリミア・コンゴ出血熱に感染し死亡。ウシ屠殺の際に感染したと考えられる。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----------|-------|-----------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|------------------|------|----|----|------|------------------|--|---|
| | | | | | | | | | | | | 炭疽 | ProMED 20051121-0020 | ジンバブエで炭疽によりヒト3名、ウシ130頭が死亡した。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | AABB Weekly Report 2005; 11(41) | 米国における2例目の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病が報告された。 |
| 36 | 2006/1/23 | 50842 | アステラス製薬株式会社 | パミテプラーゼ(遺伝子組換え) | CHO細胞 | チャイニーズハムスター卵巣細胞 | 該当しない | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 37 | 2006/1/25 | 50843 | ゼリア新薬工業株式会社 | 結核菌熱水抽出物 | 全卵液 | 全卵液 | 日本 | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | トリインフルエンザ | WHO/CSR 2005年7月21日 | インドネシアでトリインフルエンザによるはじめての死亡例が確定した。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | WHO 2005年11月17日 http://www.who.int/csr/don/2005_11_17/en/ | 中国衛生省によると、中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例(9歳少年)は回復したが、もう1例(24歳女性)は死亡した。 |
| 38 | 2006/1/25 | 50844 | ゼリア新薬工業株式会社 | 結核菌熱水抽出物 | 結核菌熱水抽出物 | Z-100原液 | 日本 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 39 | 2006/1/25 | 50845 | ノボルディスクファーマ株式会社 | エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え) | エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え) | エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え) | 該当しない | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 40 | 2006/1/25 | 50846 | ノボルディスクファーマ株式会社 | エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え) | ウシ新生仔血清 | ウシ血液 | ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 41 | 2006/1/25 | 50847 | ノボルディスクファーマ株式会社 | エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え) | ブタ臍臓由来トリプシン | ブタ臍臓(抽出物) | 該当しない | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 42 | 2006/1/25 | 50848 | ノボルディスクファーマ株式会社 | エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え) | ウシ胎仔血清 | ウシ血液 | ニュージーランド、米国又はカナダ | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----------|-------|------------|-------------------------------|----------------------------|--------------|------|------|----|----|------|------------------|--|--|
| 43 | 2006/1/26 | 50849 | 日本オルガン株式会社 | 下垂体性性腺刺激ホルモン① 胎盤性性腺刺激ホルモン② | ①下垂体性性腺刺激ホルモン、②胎盤性性腺刺激ホルモン | ①更年期婦人尿、②妊婦尿 | オランダ | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 44 | 2006/1/26 | 50850 | 日本製薬株式会社 | 乾燥人血液凝固第Ⅷ因子複合体 | 血液凝固第Ⅷ因子複合体 | 人血液 | 日本 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | ウエストナイルウイルス | FDA/CBER Guidance for Industry June 2005 http://www.fda.gov/cber/gdlns/wnvguid.pdf | 2005年6月米国食品薬品局(FDA)生物製剤評価研究センター(CBER)は、輸血によるウエストナイルウイルス伝播リスクに対する手段として供血者から「供血後の疾患の報告」または「受血者におけるWNV感染の報告」に基づく成分の回収隔離に関する改訂勧告を提案した。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Hema-Quebec Press Release 07/12/2005 http://www.hema-quebec.qc.ca/anglais/centredeprese/coms2005/20050706.htm | カナダHema-QuebecはvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように数年前から実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発効する。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更される。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は不適格である。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省 Press Release 2005/0256 2005年7月20日 | 2005年7月、英国当局はvCJDリスク低減予防措置を強化した。後にvCJD発症の3名に供血した約100名はvCJDキャリアの可能性があるので、血液、臓器提供を行わず、手術時等には医師等に通知することが要求された。 |
| | | | | | | | | | | | | 巨型肝炎 | CDR Weekly 2005;15(30) | 2004年イギリス全土の血液センターにより34件の輸血伝播感染症(TTI)の疑い例が報告され、1例のみが輸血による巨型肝炎であると確定された。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | N Engl J Med 2005; 353: 451-459 | 2003年と2004年のアメリカ赤十字のウエストナイルウイルス(WNV)検査プログラムからのデータを分析した。ルーチン検査で540例のドナーがWNV RNAに陽性で、そのうち362例がIgM抗体陰性であり、感染するおそれがあった。核酸増幅検査の迅速な実施により、陽性ドナーの同定がされ、感染性のある成分を除去することができた。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----------|-------|-------------|-----------------|----------------|------|---------------|------|----|----|------|------------------|---|--|
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | N Engl J Med 2005; 353: 460-467 | 米国の血液システム研究所は2003年7月から、ウエストナイルウイルス(WNV)RNA検査のために16検体のミニプールについて核酸増幅試験を開始した。2003年7月1日から10月31日に、677,603供血が同検査を受け、183例が陽性で、検出率は0.027%であった。高発症地域からの供血で、ミニプールテスト陰性であった23,088供血を個別に検査したところ、低レベルのWNV血症30例が検出された。そのうち数例は抗体陰性で感染性があつた。高発症地域での個別検査の必要性が裏付けられた。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | Canadian Blood Service http://www.bloodservices.ca/CentreApps/Internet/UW_V502_MainEngine.nsf/web/ | カナダ血液サービスは、vCJDに関連したドナー規制(英仏滞在累計)および刺青、ピアス、鍼または電気分解治療を行った人、性的背景が不明なパートナーと性的接触を持った人、針で受傷したことのある人でのドナー不適格期間の短縮を決定した。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | Nat Med 2005 ;11: 982-985 | PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 | 英国で外科手術を介したvCJD伝播のリスクを低減させるため、通知活動の次なる段階が開始される。輸血を受けた約50例が追跡調査され、潜在的なvCJD暴露を通知される。これはvCJDキャリアからの血液を輸血され、vCJDを発症した患者が3例報告されたことによる予防措置である。 |
| 45 | 2006/1/26 | 50851 | ZLBベリング株式会社 | ペプシン処理人免疫グロブリンG | ペプシン | ブタの胃 | 米国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 46 | 2006/1/26 | 50852 | ZLBベリング株式会社 | 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ | 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ | ヒト血液 | 米国、ドイツ、オーストリア | 有効成分 | 有 | 有 | 無 | バルボウイルス | Transfusion 2005; 45: 1003-1010 | 血液製剤におけるヒトバルボウイルスB19のNATスクリーニング検査未実施による感染の報告。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----------|-------|---------------|----------------|----------------|----------|--------------------------------|------|----|----|------|-------------|---------------------------------|---|
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | N Engl J Med 2005; 353: 460-467 | 米国の血液システム研究所は2003年7月から、ウエストナイルウイルス(WNV)RNA検査のために16検体のミニプールについて核酸増幅試験を開始した。2003年7月1日から10月31日に、677,603供血が同検査を受け、183例が陽性で、検出率は0.027%であった。高発症地域からの供血で、ミニプールテスト陰性であった23,088供血を個別に検査したところ、低レベルのWNV血症30例が検出された。そのうち数例は抗体陰性で感染性があつた。高発症地域での個別検査の必要性が裏付けられた。 |
| 47 | 2006/1/27 | 50853 | 日本オルガン株式会社 | ダナバロイドナトリウム | ダナバロイドナトリウム | ブタの小腸粘膜 | ベルギー、ドイツ、フランス、スペイン、オーストリア、オランダ | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | レンサ球菌感染 | WHO 2005年8月3日 2005年8月16日 | 2005年6月より、ブタレンサ球菌による感染が中国で拡大した。中国当局は206例中38例が死亡と報道した。2週間後には215名中39名の死亡。ほとんどの患者は感染前に病気のブタを屠殺している。現在のところヒト-ヒト感染の証拠は見つかっていない。 |
| 48 | 2006/1/27 | 50854 | アボット・ジャパン株式会社 | バリビズマブ(遺伝子組換え) | バリビズマブ(遺伝子組換え) | - | ドイツ | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 49 | 2006/1/27 | 50855 | アボット・ジャパン株式会社 | バリビズマブ(遺伝子組換え) | マウスミエローマ細胞 | マウス培養細胞株 | 米国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 50 | 2006/1/27 | 50856 | アボット・ジャパン株式会社 | バリビズマブ(遺伝子組換え) | トランスフェリン | ウシ血液 | ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 51 | 2006/1/27 | 50857 | アボット・ジャパン株式会社 | バリビズマブ(遺伝子組換え) | リボプロテイン | ウシ血液 | 米国、ニュージーランド、オーストラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 52 | 2006/1/27 | 50858 | アボット・ジャパン株式会社 | バリビズマブ(遺伝子組換え) | ウシ血清アルブミン | ウシ血液 | ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 53 | 2006/1/27 | 50859 | アボット・ジャパン株式会社 | バリビズマブ(遺伝子組換え) | 濃縮リビッド | 羊毛 | オーストラリア、ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----------|-------|------------------|----------------------|----------------------|----------------------------------|---------------------------------------|------|----|----|------|---------|----|----|
| 54 | 2006/1/27 | 50860 | グラクソ・スミスクライン株式会社 | A型ボツリヌス毒素 | ウン(心臓、血液、乳、骨格筋、膵臓) | ウン(心臓、血液、乳、骨格筋、膵臓) | 米国、オーストラリア、ニュージーランド、アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイ | 製造工程 | 無 | 無 | 有 | | | |
| 55 | 2006/1/27 | 50861 | グラクソ・スミスクライン株式会社 | A型ボツリヌス毒素 | ヒツジ(血液) | ヒツジ(血液) | 米国、ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 56 | 2006/1/27 | 50862 | グラクソ・スミスクライン株式会社 | A型ボツリヌス毒素 | A型ボツリヌス毒素 | A型ボツリヌス菌 (Clostridium botulinum) | 米国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 57 | 2006/1/27 | 50863 | グラクソ・スミスクライン株式会社 | A型ボツリヌス毒素 | 人血清アルブミン | 人血液 | 米国 | 添加物 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 58 | 2006/1/27 | 50864 | バクスター株式会社 | ルリオクトコグ アルファ(遺伝子組換え) | ルリオクトコグ アルファ(遺伝子組換え) | 遺伝子組換えチャイニーズハムスター卵巣細胞株 | 該当なし | 有効成分 | 無 | 有 | 無 | | | |
| 59 | 2006/1/27 | 50865 | バクスター株式会社 | ルリオクトコグ アルファ(遺伝子組換え) | 人血清アルブミン | 人血漿 | 米国 | 添加物 | 無 | 有 | 無 | | | |
| 60 | 2006/1/27 | 50866 | バクスター株式会社 | ルリオクトコグ アルファ(遺伝子組換え) | ウシ血清アルブミン | ウシ血液 | 米国 | 製造工程 | 無 | 有 | 無 | | | |
| 61 | 2006/1/27 | 50867 | バクスター株式会社 | ルリオクトコグ アルファ(遺伝子組換え) | アプロチニン | ウシ肺 | ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 有 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----------|-------|-----------|----------------------|----------------------------|------|---------|------|----|----|------|---------|----|----|
| 62 | 2006/1/27 | 50868 | バクスター株式会社 | ルリオクトコグ アルファ(遺伝子組換え) | インスリン(抗第Ⅷ因子モノクローナル抗体製造用) | ウシ膵臓 | 米国 | 製造工程 | 無 | 有 | 無 | | | |
| 63 | 2006/1/27 | 50869 | バクスター株式会社 | ルリオクトコグ アルファ(遺伝子組換え) | ウシ胎児血清(抗第Ⅷ因子モノクローナル抗体製造用) | ウシ血液 | オーストラリア | 製造工程 | 無 | 有 | 無 | | | |
| 64 | 2006/1/27 | 50870 | バクスター株式会社 | ルリオクトコグ アルファ(遺伝子組換え) | 培養補助剤(抗第Ⅷ因子モノクローナル抗体製造用-1) | ウシ血液 | 米国 | 製造工程 | 無 | 有 | 無 | | | |
| 65 | 2006/1/27 | 50871 | バクスター株式会社 | ルリオクトコグ アルファ(遺伝子組換え) | 培養補助剤(抗第Ⅷ因子モノクローナル抗体製造用-2) | ウシ肝臓 | 米国又はカナダ | 製造工程 | 無 | 有 | 無 | | | |
| 66 | 2006/1/27 | 50872 | バクスター株式会社 | 人血清アルブミン | 人血清アルブミン | 人血漿 | 米国 | 有効成分 | 無 | 有 | 無 | | | |
| 67 | 2006/1/27 | 50873 | バクスター株式会社 | 人血清アルブミン | ヘパリンナトリウム | ブタ腸 | 中国 | 製造工程 | 無 | 有 | 無 | | | |
| 68 | 2006/1/27 | 50874 | バクスター株式会社 | 活性化プロトロンビン複合体濃縮製剤 | ヘパリンナトリウム | ブタ腸 | 該当なし | 添加物 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----------|-------|-----------|-----------------------|----------------------------|------------|---------------------------|------|----|----|------|---------|----|----|
| 69 | 2006/1/27 | 50875 | バクスター株式会社 | 活性化プロトロンビン複合体濃縮製剤 | 乾燥人血液凝固第Ⅷ因子阻害物質補正活性複合体 | 人血漿 | 米国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 70 | 2006/1/27 | 50876 | バクスター株式会社 | 加熱人血漿たん白 | 人血清アルブミン | 人血漿 | 米国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 71 | 2006/1/30 | 50877 | 大塚製薬株式会社 | インターフェロン アルファ(BALL-1) | インターフェロンアルファ(BALL-1) | ヒトリンパ芽球細胞株 | 日本 | 有効成分 | 無 | 無 | 有 | | | |
| 72 | 2006/1/30 | 50878 | 大塚製薬株式会社 | インターフェロン アルファ(BALL-1) | ウシ胎仔血清 | ウシ血液 | アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 有 | | | |
| 73 | 2006/1/30 | 50879 | 大塚製薬株式会社 | インターフェロン アルファ(BALL-1) | 抗ハムスター胸腺細胞ウサギ抗血清 | ウサギ血液 | アメリカ | 製造工程 | 無 | 無 | 有 | | | |
| 74 | 2006/1/30 | 50880 | 大塚製薬株式会社 | インターフェロン アルファ(BALL-1) | ふ化鶏卵(センダイウイルスを増殖) | 鶏卵 | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 有 | | | |
| 75 | 2006/1/30 | 50881 | 大塚製薬株式会社 | インターフェロン アルファ(BALL-1) | 抗IFN- α モノクローナル抗体 | マウスハイブリドーマ | イギリス | 製造工程 | 無 | 無 | 有 | | | |
| 76 | 2006/1/30 | 50882 | 大塚製薬株式会社 | インターフェロン アルファ(BALL-1) | ウシ乳由来カゼイン(センダイウイルスのポリペプトン) | ウシ乳 | 中国、ホーランド、オーストラリア、ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 有 | | | |
| 77 | 2006/1/30 | 50883 | 大塚製薬株式会社 | インターフェロン アルファ(BALL-1) | ブタ由来酵素(センダイウイルスのポリペプトン) | ブタ臓臓 | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 有 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----------|-------|----------------|--|------------------------|-------|----------|------|----|----|------|-------------|---|---|
| 78 | 2006/1/30 | 50884 | 大塚製薬株式会社 | インターフェロン アルファ(BALL-1) | ハムスター(ヒトリンパ芽球細胞を皮下で増殖) | ハムスター | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 有 | | | |
| 79 | 2006/1/30 | 50885 | 財団法人化学及血清療法研究所 | 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ | アンチトロンビンⅢ | ヒト血液 | 日本 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | リケッチア症 | 第57回日本衛生動物学会大会 2005年6月1-3日 | 2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsia helvetica(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV感染、C型肝炎 | FDA/CBER Guidance for Industry July 2005 | 2005年7月、米国食品薬品局(FDA)生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合は永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合にはリエントリーする。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | Emerg Infect Dis 2005; 11: 1648-1649 | 2003年米国で、ウエストナイルウイルス(WNV)に感染したカラスの脳の飛散物を目に曝露したヒトが7日後に発症し、核酸増幅法でWNV RNAが検出された。14日目にはWNVに対するIgM抗体が検出された。初めての、結膜からの感染例と思われる。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3 (2005年10月5日) | 2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4例中3例に西ナイルウイルス(WNV)感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。 |
| 80 | 2006/2/3 | 50886 | 中外製薬株式会社 | ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末 | スキムミルク | ウシ乳 | 米国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 81 | 2006/2/3 | 50887 | 中外製薬株式会社 | ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末 | 牛肉 | ウシ骨格筋 | オーストラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 82 | 2006/2/3 | 50888 | 中外製薬株式会社 | ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末 | ペプトン粉末 | ウシ乳 | ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|----------|-------|-----------|---|--|-----------------------------------|---|----------|----|----|------|------------------|--|---|
| 83 | 2006/2/3 | 50889 | 中外製薬株式会社 | ストレプトコックス・ピオゲネス (A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末 | Bacto Tedd Hewitt Broth | ウシ心臓、骨格筋、骨髄、脂肪組織、結合組織、乳、ブタ心臓、脾臓、胃 | ウシ: 米国、オーストラリア、ニュージーランド、ブタ: 米国、イタリア、カナダ | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 84 | 2006/2/3 | 50890 | 中外製薬株式会社 | ストレプトコックス・ピオゲネス (A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末 | ストレプトコックスピオゲネス (A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末 | 溶連菌抽出物注射用 | | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 85 | 2006/2/3 | 50891 | 中外製薬株式会社 | エポエチン ベータ(遺伝子組換え) | ヒトインスリン(遺伝子組換え) | ブタ膵臓 | 米国、カナダ | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 86 | 2006/2/3 | 50892 | 中外製薬株式会社 | エポエチン ベータ(遺伝子組換え) | ウシ血清アルブミン(BSA) | ウシ血液 | 米国、カナダ | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 87 | 2006/2/3 | 50893 | あすか製薬株式会社 | 日局カリジノゲナーゼ | カリジノゲナーゼ | ブタ膵臓 | 中国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 88 | 2006/2/9 | 50894 | 持田製薬株式会社 | インターフェロン アルファ(BALL-1) | ふ化鶏卵で増殖させたセンダイウィルス | ふ化鶏卵 | 日本 | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | トリインフルエンザ | CDC 2005年11月7日 http://www.cdc.gov/flu/avian/outbreaks/asia.htm | WHO鳥インフルエンザH5N1型の更新情報。2003年~05年のアジア、ヨーロッパにおけるH5N1型鳥インフルエンザ感染の動物およびヒトでの進展状況。動物では家禽、渡り鳥、ブタ、ネコ科動物での感染が確認されている。 |
| 89 | 2006/2/9 | 50895 | 持田製薬株式会社 | インターフェロン アルファ(BALL-1)①、②、③ インターフェロン ベータ④ | 人血清アルブミン | ヒト血液 | ①②③米国、④日本 | 添加物・製造工程 | 有 | 無 | 無 | レンサ球菌感染 | WHO 2005年8月3日 http://www.who.int/csr/don/2005_08_03/en/index.html | 2005年6月より、ブタレンサ球菌による感染が中国で拡大した。中国当局は206例中38例が死亡と報道した。ほとんどの患者は感染前に病気のブタを屠殺していた。現在のところヒト-ヒト感染の証拠は見つかっていない。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Reuters Foundation Alert Net, Newsdesk 2005年7月29日 | 2005年7月、スペインで初のvCJD感染によると思われる死亡例が報告された。スペイン厚生省によると、確認のため検体は英国のエンバラの専門家へ送られている。患者は神経組織を多く含む動物製品を食べ、動物も汚染された餌を摂取していたと考えられている。この場合の潜伏期間は5年~10年と思われる。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|----------|-------|----------|---|-----------|--------|----------|------|----|----|------|------------------|---|---|
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | Reuters Foudation AlertNet, Newsdesk 2005年8月22日 | スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスを Human bocavirus と命名した。小児病棟540例の小児の検体において17例の病因であった。小児において重症呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | 厚生労働省 平成17年10月3日 | 厚生労働省は2005年10月3日、米国から帰国した男性会社員(30歳代)が、米国で流行中のウエストナイル熱と診断されたと発表した。日本で初のWNV感染例である。この患者は米国で感染した可能性が高い。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | CDC 2005年11月7日 http://www.cdc.gov/flu/avian/outbreaks/asia.htm | WHO鳥インフルエンザH5N1型の更新情報。2003年～05年のアジア、ヨーロッパにおけるH5N1型鳥インフルエンザ感染の動物およびヒトでの進展状況。動物では家禽、渡り鳥、ブタ、ネコ科動物での感染が確認されている。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | AABB Weekly Report 2005; 11 (42) | 2003年1月から2004年6月にかけて中国で41歳の男性が売血をし約18名がHIVに感染、うち3名が死亡した。 |
| 90 | 2006/2/9 | 50896 | 株式会社ベネシス | フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子 | アプロチニン液 | ウシ肺 | 米国、ウルグアイ | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 91 | 2006/2/9 | 50897 | 株式会社ベネシス | 人血清アルブミン 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ 人ハプトグロビン 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子 | ヘパリン | ブタ小腸粘膜 | 中国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 92 | 2006/2/9 | 50898 | 株式会社ベネシス | ウロキナーゼ | 精製ウロキナーゼ液 | 人尿 | 中国 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | A型肝炎 | Transfusion 2005; 45: 1097-1105 | 市販のRT-PCRの検査ではHAV陰性であった血液ドナーからHAVⅢA型が見つかった。HAVⅢA型を定量的かつ定性的に確認できるreal-timeRT-PCRキットが開発された。 |
| | | | | | | | | | | | | リケッチア症 | 衛生動物 2005; 56(Suppl): 57 (第57回日本衛生動物学会) | 2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsia helvetica(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | AABB Weekly Report 2005; 11(25): 3 | カナダ血液サービスは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更する予定である。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は不適格である。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|--------------------------------------|---|
| | | | | | | | | | | | | レンサ球菌感染 | ProMed 20050726-2169 | 四川省で患者24人の死因となった病原性の高いブタの感染症が、最初の患者が入院してから1ヶ月後に同定された。患者らは感染したブタを屠殺したり扱った際にブタ連鎖球菌Streptococcus suis 2型に感染したと確認された。2005年7月26日現在で感染患者総は117名である。四川省共産党書記官はこの菌はヒトヒト感染を起こさないと述べている。 |
| | | | | | | | | | | | | B型肝炎 | AABB Weekly Report 2005; 11(26): 4-5 | 米国のFDA血液製剤諮問委員会で、HBV DNA陽性、HBc抗体陰性、HBs抗原陰性、又は中和試験で確認されないが、繰り返しHBs抗原陽性であった輸血用の全血および血液成分のドナーは、最低6ヶ月経過した後に個別NATによりHBV DNA陰性、HBc抗体陰性及びHBs抗原陰性であれば再登録できることを合意した。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | Nature 2005; 437: 257-261 | 伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | Yomiuri Online 2005年10月3日 | 厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウイルス感染症である西ナイル熱と診断されたと発表した。発熱などの症状がみられたが、すでに回復している。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | J Infect 2005; 51: 91-97 | サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人のデング熱のような患者から、ダニ媒介性キャサヌル森林熱ウイルスに非常に類似した新種のフラビウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビアMakkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などを伴い、致死率は25%であった。感染経路はヒツジやヤギの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱と考えられる。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | Science 2005; 310: 324-326 | 慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイビー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイビーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|----------|-------|--------------------|-------------------|-------------------|------|-----|------|----|----|------|------------------|--------------------------------------|--|
| | | | | | | | | | | | | 寄生虫感染 | Transfusion 2005; 45: 1804-1810 | コネチカット州のハベシア流行地及び非流行地の血液ドナーそれぞれ1745例の血清をBabesia microti抗体について調べた。流行地の血清学的陽性血液ドナーは24例(1.4%)で、非流行地の陽性血液ドナー(6例、0.3%)より多かった。また、血清学的陽性の血液ドナー19例のうち10例(53%)がPCRによりBabesia microtiに陽性であった。輸血により本寄生虫血症が伝播するおそれがある。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | J Virol 2005; 79: 13794-13796 | 慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | WHO/CSR 2005年11月17日 | 中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例は回復したが、もう1例は死亡した。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434 | 米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソーム型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | | クロストリジウム感染 | N Engl J Med 2005; 353: 2433-2441 | 米国において、毒性、抗菌薬耐性、あるいはその両方が高まったClostridium difficileの新菌株の出現により、関連疾患の発生率と重症度が上昇している可能性が示唆されている。2000年から2003年に本菌関連疾患の集団発生が起きた8医療施設から得た本菌の分離株187株を、2001年以前の分離株データベースと比較した。その結果、全施設の分離株で同定された最近のBI/NAP1株は、ガチフロキサシンとモキシフロキサシンに耐性を示すことが明らかとなった。 |
| 93 | 2006/2/9 | 50899 | 株式会社第一ラジオアイソトープ研究所 | ヨウ化人血清アルブミン(131I) | ヨウ化人血清アルブミン(131I) | ヒト血液 | 日本 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | トリインフルエンザ | Nature 2005; 437: 1108 | 2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----------|-------|----------------|--------------|----------------|------------|---------|------|----|----|------|-------------|--|--|
| 94 | 2006/2/13 | 50900 | 大日本住友製薬株式会社 | コンドロイチン硫酸鉄 | コンドロイチン硫酸ナトリウム | ウシの軟骨(気管) | 米国、メキシコ | 添加物 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 95 | 2006/2/13 | 50901 | 大日本住友製薬株式会社 | 酢酸ソマトレリン | 人血清アルブミン | 人血液 | 米国 | 添加物 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 96 | 2006/2/14 | 50902 | 日本ケミカルリサーチ株式会社 | ミリモステム | ヒト血清アルブミン | ヒト血液 | 日本 | 添加物 | 有 | 無 | 無 | ウイルス感染 | PNAS 2005; 102: 12891-12896 | スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスを Human bocavirus と命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | Emerg Infect Dis 2005; 11: 1648-1649 | 2003年米国で、ウエストナイルウイルス(WNV)に感染したカラスの脳の飛散物を目に曝露したヒトが7日後に発症し、核酸増幅法でWNV RNAが検出された。14日目にはWNVに対するIgM抗体が検出された。初めての、結膜からの感染例と思われる。 |
| 97 | 2006/2/14 | 50903 | 日本ケミカルリサーチ株式会社 | ミリモステム | ミリモステム | ヒト尿 | 中国、台湾 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | レンサ球菌感染 | ProMed 20050727-0010 | 中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。 |
| | | | | | | | | | | | | レンサ球菌感染 | WHO 2005年8月3日 http://www.who.int/csr/don/2005_08_03/en/index.html | 2005年6月より、ブタレンサ球菌による感染が中国で拡大した。中国当局は206例中38例が死亡と報道した。ほとんどの患者は感染前に病気のブタを屠殺していた。現在のところヒト-ヒト感染の証拠は見つかっていない。 |
| | | | | | | | | | | | | レンサ球菌感染 | WHO 2005年8月16日 | 2005年6月より、中国で拡大していたブタ連鎖球菌によるヒトへの感染拡大は8月以降減少してきている。保健省は今回のアウトブレイクが大規模で致死性が高いことについてさらに検討を要すると述べている。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | WHO 2005年11月17日 | 中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例(9歳少年)は回復したが、もう1例(24歳女性)は死亡した。 |
| 98 | 2006/2/14 | 50904 | 日研化学株式会社 | 下垂体性性腺刺激ホルモン | 下垂体性性腺刺激ホルモン | ヒト(閉経期婦人)尿 | 中国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 99 | 2006/2/15 | 50905 | 三共エール | ダルテパリンナトリウム | 血液凝固阻止剤 | 豚小腸 | 中華人民共和国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | レンサ球菌感染 | WHO 2005年8月3日 http://www.who.int/csr/don/2005_08_03/en/index.html | 2005年6月より、ブタレンサ球菌による感染が中国で拡大した。中国当局は206例中38例が死亡と報道した。ほとんどの患者は感染前に病気のブタを屠殺していた。現在のところヒト-ヒト感染の証拠は見つかっていない。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|-------------|-----------|------------------|--|-----|------|----|----|------|------------------|---|--|
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | ProMed 20051224-0094 | 2005年12月15日現在、中国の30の省および自治区のうち9つの地区で、さらにニワトリ、アヒル、ガチョウにおけるインフルエンザ流行が続いている。政府は1年間に飼育される140億全ての家禽類にワクチン接種を行うことを決めた。 |
| 100 | 2006/2/15 | 50906 | 旭化成ファーマ株式会社 | チソキナーゼ | チソキナーゼ | ヒト胎児肺細胞 | 米国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 101 | 2006/2/15 | 50907 | デンカ生研株式会社 | 発疹チブスワクチン | 卵黄囊 | ニワトリの受精卵 | | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 102 | 2006/2/15 | 50908 | 興和株式会社 | チソキナーゼ | チソキナーゼ | ヒト胎児の肺に由来する正常二倍体線維芽細胞 | 米国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 103 | 2006/2/15 | 50909 | 興和株式会社 | チソキナーゼ | 人血清アルブミン | ヒト血清 | 日本 | 添加物 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 104 | 2006/2/15 | 50910 | 興和株式会社 | チソキナーゼ | ウシ血清 | ウシ血液 | 米国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 105 | 2006/2/15 | 50911 | 興和株式会社 | チソキナーゼ | ペプトン | ブタの胃 | 米国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 106 | 2006/2/15 | 50912 | 興和株式会社 | チソキナーゼ | 抗チソキナーゼモノクローナル抗体 | マウスミエロマ細胞及びマウス抗チソキナーゼ抗体産生脾臓細胞から作製したハイブリドーマ | 米国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 107 | 2006/2/17 | 50913 | 株式会社日本生物製剤 | ヒト胎盤抽出物 | ヒト胎盤抽出物 | ヒト胎盤 | 日本 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | Hema-Quebec Press Release 07/12/2005 http://www.hema-quebec.qc.ca/anglais/centredepresse/coms2005/20050706.htm | カナダ Hema-Quebec は vCJD が地域の血液供給を介して伝播することのないように数年前から実施されていた規制を緩和した。緩和は2005年7月6日より発効する。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更される。加えて1997年以降の英国およびフランスへの訪問は西欧での滞在期間の累計に含まなくなる。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は不適格である。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来 成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正 使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|-------------|------|-----|------|----|----|----------|------------------|--|---|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省 Gateway reference 5238 2005年7月 http://www.dh.gov.uk/assetRoot/04/11/53/12/04115312.pdf | ドナーが変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の潜伏期にある場合に、血液および血液製剤のレシピエントが感染しているリスクを評価する現在の分析法についての専門家向け文書が掲載されている。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省 Press Release 2005/0256 2005年7月20日 | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病を後で発症した3名に対し献血を提供した約100名に、献血、組織および臓器提供を行わず、手術などの場合に特別な措置を講ずるよう医療専門家に通知することを要請。これにより伝播リスクを低減する。 |
| | | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ヤコブ病 | カナダ Public Health Agency of Canada/ CJD-SS 2005年9月1日 http://www.phac-aspc.gc.ca/hcai-iamss/cjd-mcj/cjdss-ssmcj/stats_e.html | 2005年7月1日現在、CJD-SSに報告のされたCJDの疑い症例照会数(2005年:48例)、CJD-SSに報告されたCJDの死亡数(2005年:散発性2例)、州ごとのCJD症例数、CJD-SSに報告されたCJDの死亡率(2004年:1.1)などについて記載。 |
| | | | | | | | | | | | | B型肝炎 | CDC/NCID 2005年 7月14日 http://www.cdc.gov/ncidod/diseases/hepatitis/spotlights/glucose.htm | 糖尿病患者へのケア手順を対象にした具体的な感染管理アドバイス(糖尿病看護手順と技術、手の衛生管理状態と手袋、医学的管理、トレーニングと監督)を掲載。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | 英国保健省 Publications 2005 年7月28日 | 1998年に発行したガイドランスの差し替えおよび患者への告知に関する最新のアドバイス。HIV感染のリスクの現在の評価、血液媒介ウイルス感染症管理および暴露傾向にある処置に関する一般原則などが掲載。 |
| | | | | | | | | | | | | 肝炎 | CDR Weekly 2005; 15(30) | 2005年第1四半期に報告された肝炎感染者数。2005年1月～3月の年齢別および性別の症例数を記載。 |
| | | | | | | | | | | | | E型肝炎 | CDR Weekly 2005; 15(30) | 英国の血液センターが報告した、輸血を介した伝播が疑われる感染症症例。34件中E型肝炎1件のみが輸血を介して伝播した感染症と確定。ドナーが献血23日後に黄疸を発症。保管サンプルで、HEV RNA陽性確認。赤血球輸血を受けたレシピエント(男、65才)は2ヵ月後にHEV RNA・HEV IgM陽性。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | CDR Weekly 2005; 15(30) | 2005年6月末までの英国における新規HIV感染診断症例の感染経路、年齢、診断年、感染地域表などが記載。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|--|---|
| | | | | | | | | | | | | HIV | ProMed 2005年7月26日 | 情報源: Science Daily, United Press International, 7月26日。新型ヒト免疫不全ウイルス(HIV)株の感染源である患者を特定。コネチカット州Norwalkの開業医Dr. Blickは、この患者CT01は2種類の薬剤でコントロールされ安定しているため、多剤耐性株の出現と警戒された先の警報は大きすぎた可能性を指摘。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | 財団法人血液製剤調査機構News(海外編) 2005年7月29日 | 2005年7月27日、FDAは「HIV-1とHCVのためのNAT:検査、製剤の処置および供血禁止と再開」と題する業界向けガイダンス(案)を発表。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省 Press Release 2005年8月1日 | 英国のvCJD症例の概要。月間統計(2005年8月1日現在):vCJD診断確定死亡例 107例、可能性死亡症例 43例、生存中の可能性症例 7例。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | HPS Weekly Report 39(2005/30): 169-172 | 2004年に22988名の静脈薬物使用の有無、地域別、ホモセクシュアル、男女別でのHIV陽性症例数および有病率などの調査結果。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | HPS Weekly Report 39(2005/30): 162-169 | 2005年4月1日から2005年6月30日までの四半期に、NHSスコットランド研究所から、新規HIV陽性者113例、AIDS症例18例、AIDS死亡7例が報告された。 |
| | | | | | | | | | | | | BSE | ProMed 20050729-0030 | 米国で3例目のBSE発生疑いの牛が発現。EUではTSE規制の見直し。日本での発生原因についての発表内容。 |
| | | | | | | | | | | | | BSE | ProMed 20050804-0120 | 8月3日、アイオワ州のU.S. Department of Agriculture's National Veterinary Services Laboratories(NVSL)は、7月27日の中間検査の結果、BSE陰性であると発表。英国WeybridgeにあるVeterinary Laboratories Agencyでの検査結果も陰性。検査続行中。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | ProMed 20050802-0060 | ・英国での約100名の献血者へのCJD関連の処置。・スペインでの1例目のvCJD(疑い)患者発生。7月29日死亡。現在、スコットランド・エディンバラの専門家へ検査確定のための検体を送付。 |
| | | | | | | | | | | | | リンパ性脈絡髄膜炎 | CDC/MMWR 2005; 54(32): 799-801 | 共通のドナーから臓器移植を受けた患者4例におけるヒトリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス感染症(LCMV,げっ歯類によって媒介される)に感染した重症症例4例の組織病理学的所見、感染源の追跡。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|--|---|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | J Gen Virol 2005; 86: 2393-2399 | 新規洗浄処理、ラジオ波カスープラズマ法によりヒトにおける全プリオン疾患の伝播機会を減少させる可能性が示された。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | HPS Weekly Report 39(2005/32): 181 | 1995年～2005年7月29日までの英国におけるクロイツフェルト病の確定例および可能性例の調査表: vCJD確定例死亡総数は150例。 |
| | | | | | | | | | | | | BSE | HPS Weekly Report 39(2005/32): 181 | 30カ月齢を超えた牛の有効なBSE検査システムが現在開発中。2004年12月に、高齢のウシでも、検査で陰性であった場合にフードチェーンへ入ることが許可されるようになった。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV感染、C型肝炎 | オーストラリア Department of Health and Ageing/ TGA/TGO No. 73 2005年6月8日 http://www.tga.gov.au/docs/html/tgo/tgo73.htm | 臍帯血由来の造血前駆細胞は国際基準(第2版, 2001年7月付け)の要件に合致している必要があること、母親の血液サンプルが臍帯血提供直後と180日後以降HIV-1とHCV陰性である場合に製造可。 |
| | | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ヤコブ病 | 血液製剤調査機構 Today's News (海外編) 2005年8月 | Idaho Department of Health and Welfareは自然発生したクロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)症例と思われるクラスタの調査中。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | カナダ Canadian Blood Services 2005年8月15日 http://www.bloodservICES.ca/CentreApps/INTERNET/UW_V502_M_AinEngine.nsf/page/E_NR2005-08-15_New+Deferrals?OpenDocument | カナダ血液サービスは、vCJDに関連したドナー規制(英仏滞在累計)および刺青、ピアス、鍼または電気分解治療を行った人、性的背景が不明なパートナーと性的接触を持った人、針で受傷したことのある人でのドナー不資格期間の短縮を決定。 |
| | | | | | | | | | | | | C型肝炎 | CDR Weekly 2005; 15(34) | 2004年には、C型肝炎8090例が報告され、2003年と比べて増加。症例の大部分(65%)は25～44才で、男女比は2.2:1。 |
| | | | | | | | | | | | | A型肝炎 | CDR Weekly 2005; 15(34) | 2004年にHealth Protection Agency Centre for InfectionsへされたA型ウイルス肝炎に関する報告は627例で、2003年と比較して36%減少した。大部分(51%)は年齢が15～44才の成人で、66%が男性であった。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|--|--|
| | | | | | | | | | | | | E型肝炎 | ProMed 20050823-0110 | 東部チャドの村でE型肝炎流行により少なくとも50名が死亡。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Nat Med 2005; 11: 982-985 | PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。 |
| | | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省 Press Release 2005/0310 2005年9月5日 | 2005年9月2日現在の2005年のCJD診断確定例および可能性例の総死亡例数-41(散发例35, 医原性1, 家族性2, GSS(Gerstmann-Straussler-Scheinker syndrome)1, vCJD2) |
| | | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ヤコブ病 | カナダ Public Health Agency of Canada http://www.phac-aspc.gc.ca/hcai-iamss/cjd-mcj/cjdss-ssmcj/stats_e.html | 2005年11月1日現在、CJD-SSに報告されたCJD疑い症例照会数(2005年:55例), CJD死亡数(2005年:散发性2例, 計2例, 1994年~2005年:計259例), 州ごとのCJD症例数, CJD-SSに報告されたCJDの死亡率。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed 20050906-0090 | 1)英国保健省vCJD病月例統計-2005年9月2日。2)エジンバラ大学の研究チームが手術器具から異常プリオンを除去するより効果的な方法を開発。3)スペイン保健省はスペインでのvCJD患者発見を報告した。4)BSEの根本的な感染源として、70年代に南アジアから輸入された肥料および飼料用の原料の一部に、プリオン病に感染していた遺体の人骨やヒトの組織が含まれていた可能性。BSEの複数の専門家からは疑念提示。 |
| | | | | | | | | | | | | 肝炎 | ProMed 20050903-0030 | ロシアのVologda地区で33名が肝炎で入院したが、小児が半数。粗悪な飲用水が感染流行の原因。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | 朝鮮日報 2005年9月6日 | 韓国でHIV陽性ドナーの血液が輸血やアルブミン・グロブリンの製造(現在両方とも市場にある)に利用。政府当局は韓国赤十字は問題に気づいていながら厚生省に未報告。公衆は可能性のある危険について通知されていないと述べた。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | HPS Weekly Report 2005; 39: 198 | 「TSEロードマップ」(各種の伝達性海綿状脳症(TSEs)が食物連鎖に入るのを防ぐために計画された規制の将来的に起こりうる改正の概要を記載)が欧州委員会によって発表された。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|--|--|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | オーストラリア Department of Health and Ageing/TGA 2005年9月21日 http://www.tga.gov.au/docs/pdf/euguide/emea/041001rev2.pdf | 導入されるEUガイドライン(ヒトおよび動物用医薬品を介した伝達性海綿状脳症(TSE)原因物質のリスクを最小限にするためのガイダンス覚書(EMA/410/01 Rev.2))が追加され、更新されている。 |
| | | | | | | | | | | | | A型肝炎 | ProMed 20050916-0040 | Nizhniy Novgorod地域で、A型肝炎患者増加中。ロシア保健局により感染源が特定され、流行を制圧のため市民に、衛生習慣を順守し、飲料水を煮沸消毒するよう勧告した。 |
| | | | | | | | | | | | | HTLV | 血液製剤調査機構 Today's News (海外編) 2005年9月 | 1995年HTLV-1を含む輸血を受けた英国の手術患者が75万ポンドを支給された。国立血液サービス(NBS)は2002年にHTLVの検査を開始し、米国はその数年前から検査実施。手術後、HTLV関連脊髄障害が発現し、症状により離職。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省 Press Releases 2005/0337 2005年10月3日 | 死亡症例数、生存中のvCJD可能性症例数、vCJD確定例および可能性例の総数(死亡例および生存例)。9月30日現在の2005年のCJD総死亡例数-48。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | カナダ Public Health Agency of Canada/ Infectious Diseases News Brief 2005年9月30日 http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb3905_e.html | LA郡Department of Health Servicesによる調査の結果から、成人用映画業界従事者における職業的に獲得したHIV感染症例4例について記載。成人用映画業界におけるHIVおよびSTD予防措置の改善の必要性を強調。 |
| | | | | | | | | | | | | A型肝炎 | CCDR 2005; 31(19): 197-205 | カナダでのA型肝炎ウイルス感染状況。A型肝炎ウイルス暴露前予防、暴露後予防およびアウトブレイク管理、疫学、結論などが記載。 |
| | | | | | | | | | | | | E型肝炎 | IDWR Japan(感染症週報) 2005年第38週 | 日本でのE型肝炎発生状況。E型肝炎は輸入感染症と考えられていたが、現在症例の大半が国内感染であり、E型肝炎ウイルスはわが国にも土着していることが示唆。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|---|--|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | FDA/CBER 2005年10月11日 http://www.fda.gov/cber/advisory/tse/tse1005.htm | 2005年10月31日開催予定の伝達性海綿状脳症(TSE)諮問委員会の議題などについて記載。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | CDR Weekly 2005; 15(41) | 2004年の英国でのHIV感染の概況 |
| | | | | | | | | | | | | A型肝炎 | CDR Weekly 2005; 15(41) | 英国Dorset州において男性と性交渉を持つ男性におけるA型肝炎のアウトブレイクが確認された。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | CDC/MMWR 2005; 54(RR09): 1-17 | HIVの職業的伝播のリスク、暴露後の予防治療に対する抗レトロウイルス剤、抗レトロウイルス剤の毒性および薬物相互作用、抗レトロウイルス剤に対する耐性、米国の病院における職業的HIV暴露管理と暴露後の予防治療の実態、HIV暴露後治療などに関するガイドラインが記載。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | FDA/CBER 2005年10月25日 http://www.fda.gov/cber/advisory/bp/bp1105.htm | 11月3日-4日開催予定のBlood Products Advisory Committee (BPAC)の会合予告。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | CDR Weekly 2005; 15(43) | 2005年9月末までの英国における新規HIV感染診断症例の感染経路、年齢、診断年、感染地域表などが記載されている。HIV診断累計総数74977件。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | CDR Weekly 2005; 15(43) | 英国Health Protection Agencyは「Shooting Up」英国の注射による薬物使用者(IDUs)における感染症:第3版」を発行。英国でのIDUsにおけるHIV感染症の有病率は近年増加の様様。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | HPS Weekly Report 2005; 39(2005/42): 222-229 | 2005年第3四半期にNHSスコットランド研究所は新規HIV陽性104名登録。HIV陽性者累積総数4516例。臨床医よりAIDS症例4例報告、AIDSによる2例死亡確認。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | HPS Weekly Report 2005; 39(2005/42): 229 | スコットランド全域の泌尿器科受診者におけるHIV有病率のデータ。男性と性交渉を持つ男性の有病率は2.4%。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|---|---|
| | | | | | | | | | | | | 感染 | HPS Weekly Report 2005; 39(2005/43): 239 | Health Protection AgencyなどHPSは「Shooting Up-英国の注射による薬物使用者における感染症(第3版)」を発表。B型・C型肝炎に加え、A型肝炎、創傷ボツリヌスおよび破傷風などのアウトブレイクが見られることなどを記載。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | 血液製剤調査機構 Today's News (海外編) 2005年11月 | 感染性のあるプリオンの感染で異常プリオンへの感染予防となることが示唆されている。また神経培養細胞アッセイ系で、CJD感染予防に免疫系細胞が不要なことを確認。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | FDA/CBER 2005年10月31日 http://www.fda.gov/cber/advisory/tse/tse1005.htm | 米FDAのTSE諮問委員会は10月31日に会合を開き、ヒト血漿製剤における変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)のリスク評価について議論。委員会はTSE感染のリスク評価に役立つ研究に関する採決を行い、感染性プリオン濾過に用いられるフィルターの血液製剤での異常プリオンタンパクの除去はできるが、十分ではないと考えられ、FDAの表示案承認。 |
| | | | | | | | | | | | | 感染 | MHRA Safety information 2005年11月24日 | 米国の組織調達会社BioMedical Tissue Servicesがヒト死体組織ドナーを不適切にスクリーニングし、記録も残していないことが明らかとなる。問題の組織は回収されたが、少数の製品は英国に輸出。全例が追跡可能な少数の患者に移植されていた。その追跡調査の詳細。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省 Press Releases 2005/0389 2005年11月7日 | 2005年11月4日現在のクロイツフェルト・ヤコブ病月間統計:vCJD確定例および可能性例の総数(死亡例および生存例):158例。 |
| | | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省 Press Releases 2005/0384 2005年11月 | 1990年5月~2004年12月31日までの期間について調査が行われ、散発性、変異型(vCJD)、医原性のCJDの臨床サーベイランスにおけるユニットの研究の概要を述べている。また報告は、変異型および散発性CJDについて可能性のあるリスクファクターに関する研究の詳細なども含んでいる。 |
| | | | | | | | | | | | | E型肝炎 | CDR Weekly 2005; 15(45) | Health Protection AgencyはWelsh National Public Health Serviceらと共同で、HEV非流行地域に無関係な感染患者の地域的、臨床的、分子疫学的特徴に関する研究を完了。対象感染者は英国のブタのHEV株、遺伝子型3型に感染。本所見からE型肝炎はイングランドおよびウェールズに固有の型であることが示唆。 |
| | | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ヤコブ病 | CDR Weekly 2005; 15(45) | 2004年9月~2005年2月に、手術用具を介してCJDへ暴露した可能性のある事例38件がCJD Incidents Panelに報告されたこと、National Anonymous Tonsil Archiveなどについて記載されている。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来 成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正 使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|-------------|------|-----|------|----|----|----------|--------------------------|--|---|
| | | | | | | | | | | | | BSE | HPS Weekly Report 2005; 39(2005/44): 244 | 2005年11月7日にスコットランドで30か月齢以上のウシのBSE検査の導入が開始された。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病 | ProMed 20051109- 0040 | 英国海綿状脳症諮問委員会10月19日声明文。「BSEがヒトの伝染性海綿状脳症から由来したという仮説」に関する議論の要約。ProNAS掲載の新しいスクレイピー病原体は、耐性プリオン蛋白(PrP)遺伝子型のヒツジ個体に感染しうると論文の紹介。News@nature.com, 11月3日号に、ヒツジの炎症のある乳腺には、異常プリオン蛋白が確認された報告意義を解説した記事など。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | CDC Media Relations 2005年11 月17日 http://www.cdc.gov/od/oc/media/pressrel/fs051117.htm | 米国33州における2001年～2004年のHIV感染症集計。HIV感染症157252例。CDCは州別、人種別、生活習慣別のHIV感染症の動向を分析。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病 | 英国保健省 Press Releases 2005/0404 2005 年11月17日 | 2005年7月の声明に続いて、外科手術を介したvCJD伝播のリスクの可能性を低減させるための予防措置が拡大。後にvCJDを発現した3例に投与されていた血液を輸血された約50名が追跡され、vCJDへの暴露の可能性を通知される予定。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | WHO http://www.who.int/mediacentre/news/releases/2005/un-aids_who/en/index.html | WHOがHIV伝播は依然として増加。流行を減速させるためより一層のHIV予防の取り組みが必要と提言。成人でのHIV感染率は、特定の国々でコンドームの使用増加などの感染予防行動の変化が重要な役目を果たして低減。ケニア、ジンバブエ、カリブ海地域の数カ国は、ここ数年HIV感染率低減。2005年新規感染症例は500万例。全世界では推定4030万人がHIV感染者として生活。東欧・中央アジア・東アジア、サハラ以南のアフリカで増加。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | CDC/MMWR Weekly 2005; 54(46): 1188 | 1987年-2003年の米国における男女別のHIV感染症の年齢調整死亡率(10万人当たり)に関する情報が記載されている。1999年-2003年に、男性ではわずかではあるがHIV/AIDS死亡率の着実な低下がみられ、女性における死亡率には変化がみられなかった。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | CDC/MMWR Weekly 2005; 54(46): 1177 | 2003年、カンボジアBanteay Meanchey県保健当局は、CDCおよび米Agency for International Development (USAID)と共同で、HIV感染者の結核健診増進のためのパイロット計画を開始した。本計画の最初の14か月間のデータの、CDCによる分析と評価結果についての概要報告。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|---|---|
| | | | | | | | | | | | | HIV | CDR Weekly 2005; 15(47) | 世界エイズデー(12月1日)に先立って発行されたUnited Nations Programme on HIV/AIDS(UNAIDS)およびWHOによる共同報告では、世界的なHIVの流行の規模および影響が増加していることおよびこれらの傾向を反転させようとする努力における介入の重要性および可能性が強調されている。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | NHS National Services Scotland http://www.show.scotnhs.uk/scieh/infectious/infransmitted.html | 『Setting the Scene』(スコットランドにおける性感染症(HIV感染症を含む)―2004年, 2005年11月発行)および『Mapping the Issues』(英国におけるHIV感染症および他の性感染症―2005年, 2005年11月発行)が発行された。これらの報告書はウェブサイトで閲覧可能。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed 20051120-0050 | フォークランド諸島で、異型スクレイビー(atypical scrapie)と呼ばれる病型と確認された、初のスクレイビー症例が発生。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | CDC Media Relations 2005年12月1日 http://www.cdc.gov/od/oc/media/presrel/r051201.htm | AIDSが流行して25年近くが経ち、米国はHIVに対する戦いにおいて複雑な課題に向き合い続けている。米国のHIV感染者は100万人以上、世界的では約4000万人。米国HIV感染者の1/4は感染に気づいておらず、毎年推定4万人の新規感染が発生。最新のCDC調査により、HIV母子感染の予防は劇的に成功しつつある。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | HPS Weekly Report 2005; 39(2005/47): 259 | 2005年1月～11月、スコットランドで360例の新規HIV感染者が確認。スコットランドにおけるHIV伝播の多くはMSMIに限定されていることが確認された。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | HPS Weekly Report 2005; 39(2005/47): 259 | 2004年のSTI/HIV疫学的データに関する2つの新たな報告(英国全体に関連する「Mapping the Issues」、スコットランドのみについての「Setting the Scene」)が発行。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | カナダ Public Health Agency of Canada http://www.phac-aspc.gc.ca/publicat/aids-sida/haic-vsac0605/pdf/haic-vsac0605.pdf | カナダにおけるHIV/AIDS関連統計などについて記載。また暴露カテゴリー別(血液/血液製剤暴露等)のHIV検査陽性報告数および割合などについて記載。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|--|---|
| | | | | | | | | | | | | HIV | カナダ Public Health Agency of Canada http://www.phac-aspc.gc.ca/publicat/epiu-aepi/epi-1205/pdf/epi_updates05_e.pdf | カナダでのHIV流行国出身者に関するHIV/AIDS流行の最新情報。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | 血液製剤調査機構 Today's News (海外編) 2005年11月 | 米国に住む英国人男性がvCJDと診断された。本症例は1980年代～1990年代半ば(BSE感染高リスク期に一致)に英国に在住していたことからこの時期に感染し、偶然、米国内で発症しただけと考えられる。 |
| | | | | | | | | | | | | A型肝炎 | ProMed 20051203-0080 | 2005年9月17日～24日、トルコに旅行して、4人がA型肝炎に感染、10月12日～20日の間に発病。感染源は、リゾート施設内の開放型コンテナのアイスクリームとドライフルーツと考えられ、遺伝子型解析で1B型と確認された。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | SFGate.com 2005年12月3日 | 中国で、HIV感染との認識がなかった男性が、2003年1月～2004年6月に15回売血を行った。HIVに感染した血液(明らかに1回も検査されていない)は、輸血を必要とした患者25名に投与された。 |
| | | | | | | | | | | | | C型肝炎 | CDR Weekly 2005; 15(50) | Health Protection Agencyが発行。イングランドにおけるC型肝炎の有病率、サーベイランスと調査、認識の増加、静注薬物使用者(IDUs)に焦点を当てた予防策などが記載。 |
| | | | | | | | | | | | | C型肝炎 | HPS Weekly Report 2005; 39(2005/49): 267 | 2005年12月13日、感染した血液製剤に関連したC型肝炎に関する情報が発表された。2005年2月、スコットランド保健相が、血友病協会のスコットランド代表との会議までに資料を作成するよう依頼。情報はScottish Executive Health Departmentへの連絡により入手可能。 |
| | | | | | | | | | | | | C型肝炎 | HPS Weekly Report 2005; 39(2005/49): 267 | 2004年に、以前に診断されていない血液因子の投与に関連した症例1例が報告された。2005年6月30日現在、C型肝炎抗体陽性症例は計19422例で、スコットランドの人口約300人に1人がC型肝炎抗体陽性。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|---------------|---|--|
| | | | | | | | | | | | | HIV | HPS Weekly Report 2005; 39(2005/49): 267 | European Monitoring Centre for Drugs and Drug Addictionの最新年間報告。ヨーロッパでは、静注薬物使用者は新規AIDS患者に占める最も大きなカテゴリーではなく、異性愛者がHIV拡大の最大勢力になっていることなどが記載。 |
| | | | | | | | | | | | | B型肝炎 | CDC/MMWR 2005; 54(RR16): 1-23 | B型肝炎ウイルス感染症の拡大を阻止するための戦略、更新事項、B型肝炎予防法、予防接種スケジュールとその結果、ワクチンの安全性などについて記載。定期的な幼児および思春期での予防接種が非常に効果的であったことが判明。 |
| | | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ヤコブ病 | CDR Weekly 2005; 15(51) | CJD Incidents Panel (CJD事例委員会)の年次報告第4版、およびフレームワーク文書発表。2003年9月～2004年8月に54件が報告。20件は輸血が関係。医療行為を介したCJDへの暴露の可能性の管理に関する委員会のアドバイスの基準を記述している。 |
| | | | | | | | | | | | | 感染 | CDR Weekly 2005; 15(51) | 2004年は全献血血液につきHIV抗体、C型肝炎抗体、ヒト細胞白血病ウイルス抗体、B型肝炎ウイルス表面抗原(HBsAg)、HCV RNA、梅毒抗体に対する検査実施。一部の血液はB型肝炎コア抗原に対する抗体検査なども実施。2004年に、英イングランド・ウェールズの献血のうち227件がウイルス感染マーカー陽性。45%がHCV関連、42%がHBV関連。イングランド・ウェールズの献血液におけるHbsAg、抗HIV抗体の年間感染率は安定し、ヨーロッパに比べると低い。 |
| | | | | | | | | | | | | A型肝炎 | ProMed 20060111-0066 | ニュージーランドChristchurchでA型肝炎流行。生の食物が流行の原因の可能性。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV感染、C型肝炎 | オーストラリア Department of Health and Ageing/TGA 2006年1月3日 http://www.tga.gov.au/docs/pdf/tgo/tgo74.pdf | Therapeutic Goods Order No. 74: 血液成分に関する基準。血液・血液成分は1980年-1996年に英国に累計6か月以上滞在または居住者をドナーとした血液・血液成分を製造してはいけない。血液・血液成分はNATを用いた検査でHIV-1、HCV陰性である血液からのみ製造すること等などについて記載。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|------------|--|--|------------------|------------------|----------------------|----|----|------|-------------|--------------------------------------|--|
| 108 | 2006/2/17 | 50914 | 日本製薬株式会社 | 加熱人血漿たん白① 人血清アルブミン(20%)② 人血清アルブミン(25%)③ 乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン④ トロンビン⑤、⑥ 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ⑦、⑧ 人免疫グロブリン⑨ 乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体⑩ | ヘパリン | ブタ腸粘膜 | ブラジル | ①～⑨製造工程 ⑩添加物・製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 109 | 2006/2/17 | 50915 | 日本メジック株式会社 | 診断薬 | ガラクトシル人血清アルブミンジェチレントリアミン五酢酸テクネチウム(99mTc) | 生物学的製剤基準人血清アルブミン | 日本 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | ウエストナイルウイルス | Emerg Infect Dis 2005; 11: 1648-1649 | 2003年米国で、ウエストナイルウイルス(WNV)に感染したカラスの脳の飛散物を目に曝露したヒトが7日後に発症し、核酸増幅法でWNV RNAが検出された。14日目にはWNVに対するIgM抗体が検出された。初めての、結膜からの感染例と思われる。 |
| 110 | 2006/2/22 | 50916 | 三共株式会社 | フィブリノリジン、デオキシリボヌクレアーゼ | デオキシリボヌクレアーゼ | 牛の臍臓 | ニュージーランド | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 111 | 2006/2/22 | 50917 | 三共株式会社 | フィブリノリジン、デオキシリボヌクレアーゼ | フィブリノリジン | 牛の血漿 | ニュージーランド | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 112 | 2006/2/22 | 50918 | 麒麟麦酒株式会社 | エポエチンアルファ(遺伝子組換え) | ウシ胎児血清 | ウシ胎児血清 | オーストラリア、ニュージーランド | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 炭疽 | ProMed 20050729-0080 | 米国ノースダコタ州当局は2005年7月28日現在、8郡内の56施設で炭疽症例を確認している。今年の夏季中に炭疽により死亡した家畜の頭数はまだ明らかになっていないが、現時点で200頭を越えていると推測している。症例が発生している種は、ウシ、ウマ、バイソン、飼育されているシカ類、ヒツジ、ラマである。 |
| | | | | | | | | | | | | 炭疽 | ProMed 20050729-0080 | 米国ノースダコタ州では2005年7月28日現在まで炭疽発生が続いており、特に州南東部の被害が大きく、James and Cheyenne River排水地区沿いを中心に50施設以上で発生している。感染は従来から認められてきているが、今回のように多発するのは初めてである。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------|-------------------|-----------------|-----------------|------|------|----|----|------|-----------------|--|---|
| | | | | | | | | | | | | 炭疽 | ProMed 20050818-0070 | 米国サウスダコタ州獣医官 Sam Holland から提供されたデータおよび情報。2005年7月18日に牛とバイソンの群れで炭疽症例が診断されて、今年の炭疽シーズンが始まった。それ以後、牛とバイソン合わせて330頭が死亡した。 |
| | | | | | | | | | | | | BSE | USDA Statement Release No.0336.05 2005年8月30日 http://usda.gov | 米農務省 (USDA) の動物衛生検査部およびFDA は2005年6月にBSE検査で陽性となったウシに関する調査を終了した。調査期間中、このウシが飼育されていた同群のウシ計67頭をBSE検査したが全て陰性であった。現在までに米国では過去14ヶ月間に45万頭以上が検査され、2頭のみがBSE陽性と確認された。 |
| | | | | | | | | | | | | 炭疽 | ProMed 20050917-0060 | 米国モンタナ州北東部の牧場で炭疽によりウシ37頭が死亡した。問題の牧場は2005年9月15日現在隔離されている。 |
| | | | | | | | | | | | | ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染 | OIE Disease Information 19(2) 2006年1月12日 http://www.oie.int/eng/info/hebdo/AI_S_36.HTM | 米国における小水疱性口内炎に関するFollow-up report No.27 (2005年12月19日から31日まで)。新規アウトブレイクは、コロラド州デルタ郡の農場で、ウシにおける疑い例は222例、発症例は3例である。 |
| | | | | | | | | | | | | 狂犬病 | ProMed 20060102-0040 | 米国オクラホマ州にて、2005年12月4日～19日に販売した未殺菌の乳製品を飲用して狂犬病に曝露される危険性が発生した。狂犬病に感染したウシからのミルクが混入していたためである。これまでに、45名がワクチン接種を受けている。 |
| 113 | 2006/2/22 | 50919 | 麒麟麦酒株式会社 | エポエチンアルファ(遺伝子組換え) | チャイニーズハムスター卵巣細胞 | チャイニーズハムスター卵巣細胞 | 該当なし | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | リンパ性脈絡髄膜炎 | CDC/MMWR 2005; 54(dispatch): 1-3 2005年8月12日 | ペットのげっ歯類に関連したヒトリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染のリスクを最小化するための暫定的ガイドランスを更新した。今回の更新は、ペットのハムスターからLCMVが感染したドナーからの臓器を移植されたレシピアント4例中3例がLCMVで死亡したことを受けたものである。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------|-------------------|---------|-------------|-------------|------|----|----|------|-----------|---|--|
| 114 | 2006/2/22 | 50920 | 麒麟麦酒株式会社 | エボエチンアルファ(遺伝子組換え) | トリブシン | ブタ臓臓由来トリブシン | アメリカ合衆国、カナダ | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | トリインフルエンザ | ProMed 20050725-0020 | 2005年7月25日、インドネシア当局は同国でのH5N1型インフルエンザによる初のヒト死亡例をうけ、犠牲者の居住していた近隣のブタの処分を決定した。 |
| | | | | | | | | | | | | レンサ球菌感染 | ProMed 20050727-0070 | 四川省で患者24人の死因となった病原性の高いブタの感染症が、最初の患者が入院してから1ヶ月後に同定された。患者らは感染したブタを屠殺したり扱った際にブタ連鎖球菌Streptococcus suis 2型に感染したと確認された。2005年7月26日現在で感染患者総数は117名、死亡率は約25%である。四川省共産党書記官はこの菌はヒトヒト感染を起こさないと述べている。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | OIE Disease Information 18(31) 2005年8月5日 http://www.oie.int/eng/info/hebdo/AI_S_59.HTM | インドネシアにおける高病原性トリインフルエンザに関する Follow-up report(2005年6月24日から8月1日まで)。2005年6月24日から7月7日に医療施設を受診した肺炎を伴う一家族3例の情報を入手した。3例とも死亡した。患者の近隣地域のアヒル、ブタなどを検査したところ、トリインフルエンザ陽性例が検出された。 |
| | | | | | | | | | | | | レンサ球菌感染 | Infectious Diseases Weekly Report Japan 2005年第32週 | 2005年6月頃から発生している中国でのブタレンサ球菌流行について。現時点では中国衛生部によると215名がブタヒト感染し、うち39名が死亡していると報告している。これまでの調査ではヒトヒト感染の証拠は見られていない。今回の流行が最近の流行と比較してこれほど大規模であったのかについては更なる調査を必要とする。 |
| | | | | | | | | | | | | レンサ球菌感染 | Science 2005; 309: 1308-1309 | WHOが中国でのブタ由来の感染病について調査した。中国衛生部の報告によると中国四川省で流行した感染症は2005年7月中旬がピークで、同年8月5日以降は新たな感染例はない。ブタは600頭以上が死亡し、ヒトでは感染例204例のうち38例が死亡した。ほぼ全ての患者が、病気のブタとの接触があった。ヒトとブタの検体を調べたところ、Streptococcus suis serotype 2の存在が確認され、その他の細菌やウイルスは認められなかった。当局によるとヒトからヒトへの伝播は見られなかった。WHOによると、新しい変異型か毒性の強い2型serotypeかは今のところ明らかではない。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|--------------|---|-----------------|-------|---------------|------|----|----|------|-----------------|---|---|
| | | | | | | | | | | | | レンサ球菌感染 | カナダ Public Health Agency of Canada/ Infectious Diseases News Brief 2005年10月28日 http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb4305_e.html | 2005年10月24日、香港の健康保護センターは Streptococcus suisと確定診断された症例報告を受けた。最近の旅行歴がない43歳男性で、10月13日に入院し、同日死亡した。2005年の香港における12番目の感染例である。 |
| | | | | | | | | | | | | ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染 | OIE Disease Information 18(44) 2005年11月4日 http://www.oie.int/eng/info/hebd/AI_S_46.HTM | 米国における小水疱性口内炎に関するFollow-up report No.23(2005年10月23日から30日)。コロラド州、ユタ州およびワイオミング州の計8農場から新規のアウトブレイクが報告された。 |
| 115 | 2006/2/22 | 50921 | ZLBベアリング株式会社 | 人血清アルブミン 人免疫グロブリンG 破傷風抗毒素 フィブリノゲン加第XIII因子 ペプシン処理人免疫グロブリンG 乾燥濃縮人アンチトロンビンIII | ヘパリン ナトリウム | ブタ腸粘膜 | 中国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 116 | 2006/2/22 | 50922 | ZLBベアリング株式会社 | 人G1-インアクチベーター | 人G1-インアクチベーター | ヒト血液 | 米国、ドイツ、オーストリア | 有効成分 | 有 | 有 | 無 | ウエストナイルウイルス | N Engl J Med 2005; 353: 460-467 | 米国の血液システム研究所は2003年7月から、ウエストナイルウイルス(WNV)RNA検査のために16検体のミニプールについて核酸増幅試験を開始した。2003年7月1日から10月31日に、677,603供血が同検査を受け、183例が陽性で、検出率は0.027%であった。高発症地域からの供血で、ミニプールテスト陰性であった23,088供血を個別に検査したところ、低レベルのWNV血症30例が検出された。そのうち数例は抗体陰性で感染性があった。高発症地域での個別検査の必要性が裏付けられた。 |
| 117 | 2006/2/22 | 50923 | ZLBベアリング株式会社 | ペプシン処理人免疫グロブリンG | ペプシン処理人免疫グロブリンG | ヒト血液 | 米国、ドイツ、オーストリア | 有効成分 | 有 | 有 | 無 | ウエストナイルウイルス | N Engl J Med 2005; 353: 460-467 | 米国の血液システム研究所は2003年7月から、ウエストナイルウイルス(WNV)RNA検査のために16検体のミニプールについて核酸増幅試験を開始した。2003年7月1日から10月31日に、677,603供血が同検査を受け、183例が陽性で、検出率は0.027%であった。高発症地域からの供血で、ミニプールテスト陰性であった23,088供血を個別に検査したところ、低レベルのWNV血症30例が検出された。そのうち数例は抗体陰性で感染性があった。高発症地域での個別検査の必要性が裏付けられた。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|---------------|------------------------|-----------|-----------|-----|------|----|----|------|---------|-----------------------------------|---|
| 118 | 2006/2/23 | 50924 | 味の素株式会社 | ヘパリンカルシウム | ヘパリンカルシウム | 健康なブタの腸粘膜 | 中国 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | レンサ球菌感染 | IDWR JAPAN (感染症週報) 2005年第32週 | 中国で流行しているブタレンサ球菌感染は8月5日以降新規患者はないと中国衛生部は報告している。ブタのインフルエンザウイルスとニパウイルスの可能性は検査により否定されている。 |
| 119 | 2006/2/24 | 50925 | シェリング・プラウ株式会社 | インターフェロナルファ-2b(遺伝子組換え) | 人血清アルブミン | 人血液 | 米国 | 添加物 | 有 | 無 | 無 | C型肝炎 | Ann Intern Med 2005; 142: 898-902 | 2000年3月から2001年12月までにクリニックを訪れた患者で医療行為によるHCV感染疑いを調査した結果。発生はシリンジの再利用によると考えられた。 |
| | | | | | | | | | | | | 感染 | ProMed 20050719-0010 | 2005年の前半中に小児4名を含む70名のライム病(新種ボレリアによる感染症)に感染したとUdmurtiya共和国感染症病院当局が発表した。一方、小児2名を含むダニ媒介性脳炎患者17名が同共和国内で2005年前半に報告された。 |
| | | | | | | | | | | | | E型肝炎 | CDR Weekly 2005;15(30) | 2004年イギリス全土の血液センターにより34件の輸血伝播感染症(TTI)の疑い例が報告され、1例のみが輸血によるE型肝炎であると確定された。 |
| | | | | | | | | | | | | デング熱 | ProMed 20050723-0020 | 2005年7月、シンガポールでデング熱が劇的に増加し、1週当たり300例を超えた。2005年4月時点では週あたり125例。 |
| | | | | | | | | | | | | デング熱 | ProMed 20050819-0020 | 2005年ベトナム政府より、過去1ヶ月間に南部のメコンデルタ地方でデング熱患者5500名を確認し、今年の総患者数は15500名以上となり、うち17名が死亡と発表。 |
| | | | | | | | | | | | | C型肝炎 | Transplantation 2005; 80: 320-325 | 1992年から2003年で肺移植にあたりHBcAb(+)またはHCV-Ab(+)の移植片を移植された患者の調査をしたところ、HBcAb(+)レシピエント群29名はウイルス性肝炎発症もなく全員が生きているが、HCV-Ab(+)レシピエント群3名は全員からHCV-RNAが検出され、うち1名は22ヶ月で肝不全のため死亡した。肺移植後のHCV-Ab(+)移植片のウイルス感染リスクは高いかもしれない。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|---------|---|---|
| | | | | | | | | | | | | HTLV | AIDS Res Hum Retroviruses 2005; 21: 521-526 | ブラジル都市内の一族でのHTLV-2の水平感染及び垂直感染について。初発症例は献血血液のスクリーニングで検出された。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | AABB Weekly Report 2005; 11(32) | 韓国においてHIVに汚染されている血液が輸血および血液製品の製造に用いられていることが判明した。 |
| | | | | | | | | | | | | デング熱 | ProMed 2005090-0020 | シンガポール当局によると2005年9月時点でデング熱患者が増加しており、島での最高に達した2004年同時期に比べて2倍近い数である。8名の死亡も報告されている。 |
| | | | | | | | | | | | | マラリア | J Trop Pediatr 2005; 51: 219-22 | ナイジェリアの先天的マラリアの臨床的発現率、胎盤中のマラリア寄生虫の有病率についての調査結果。胎盤中のマラリアと先天的マラリアには強い相関関係がみられた。新生児では臨床症状はあまり発現しなかった。 |
| | | | | | | | | | | | | C型肝炎 | J Med Virol 2005; 77: 70-76 | 1997年から2000年の期間で、フランスの血液透析におけるHCV感染発生率の前向き調査の結果。1323名中9名の患者が同じユニットで同シフト間の透析中に感染患者からHCV感染したことが明らかになった。 |
| | | | | | | | | | | | | HTLV | 臨床血液 2005; 46: 952 | 2004年2月、ATLVリンパ腫型再発期にATLV陽性HLA一致同胞より骨髄移植を施行された後、同年7月にATLV急性型を発症した男性の報告事例。ATLV細胞はドナー由来であった。 |
| | | | | | | | | | | | | HTLV | AABB Weekly Report 2005; 11(35) | 英国国立血液サービス(NBS)は2002年にHTLVの検査を開始した。米国はそれより何年も前からHTLVの検査を行っていた。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------------|---------------|----------|------|-----|------|----|----|------|------------------|--|---|
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | CDC/MMWR 2005; 54: 1021-1023 | 2005年9月、CDCによると、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシipient4名中3名にWNV感染が確認されたと報告。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。 |
| | | | | | | | | | | | | 感染 | Pediatr Infect Dis J 2005; 24: 744-745 | 2例の超未熟児が先天性Candida glabrata感染により死亡した。胎盤と臍帯には肉眼で見えるカンジダ結節はなかった。Candida albicansではない種によるカンジダ感染は壊死性の病巣をあまり産生しないため、肉眼で見える結節がないからといってカンジダ感染を除外するべきではない。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | HPS Weekly Report 2005; 39 | 2005年1月～11月にスコットランドにおいて新規に360例のHIV感染者が確認された。これは2004年1月～12月の数字に近く1985年に診断検査が開始されてから以降最も高い記録となるかもしれない。症例の大部分は異性愛者の男性であった。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | AABB Weekly Report 2005; 11(41) | 2005年7月、英国のCJD incident Panelによると英国の輸血を受けた約50名がvCJDに曝露した可能性があり、まもなく医師の診断を受けるよう通知される予定。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | AABB Weekly Report 2005; 11(41) | 2003年1月から2004年6月までに中国で15回の売血をしていた男性からの輸血で約18名がHIVに感染し、うち3名が死亡した。 |
| 120 | 2006/2/27 | 50926 | 財団法人化学及血清療法研究所 | 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子 | 血液凝固第Ⅷ因子 | ヒト血液 | 日本 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | リケツチア症 | 第57回日本衛生動物学会大会 2005年6月1-3日 | 2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsia helvetica(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国ひいては極東アジアでの初確認例である。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV感染、C型肝炎 | FDA/CBER Guidance for Industry July 2005 | 2005年7月、米国食品薬品局(FDA)生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合ハリエントリーする。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|--------------------|---|----------|-------|-------------------------------|------------------------|----|----|------|-------------|---|---|
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | Emerg Infect Dis 2005; 11: 1648-1649 | 2003年米国で、ウエストナイルウイルス(WNV)に感染したカラスの脳の飛散物を目に曝露したヒトが7日後に発症し、核酸増幅法でWNV RNAが検出された。14日目にはWNVに対するIgM抗体が検出された。初めての、結膜からの感染例と思われる。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3 (2005年10月5日) | 2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4例中3例に西ナイルウイルス(WNV)感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。 |
| 121 | 2006/2/28 | 50927 | 財団法人 化学及血清療法研究所 | 乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン | 初代腎臓培養細胞 | ウサギ腎臓 | | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 122 | 2006/2/28 | 50928 | 財団法人 化学及血清療法研究所 | 乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン | ラクトアルブミン | ウシ乳 | ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 123 | 2006/2/28 | 50929 | 財団法人 化学及血清療法研究所 | 乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 組織培養不活化狂犬病ワクチン | 血清 | ウシ血液 | アメリカ、 ニュージーランド、 オーストラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 有 | | | |
| 124 | 2006/2/28 | 50930 | 財団法人 化学及血清療法研究所 | 乾燥細胞培養痘そうワクチン① 乾燥弱毒生風しんワクチン② 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン③ 組織培養不活化狂犬病ワクチン④ | 筋アデニル酸 | ウマ肉 | | ①、④製造工程 ②、③添加物・製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------------------------|--|-----------------------------|---------|---------------------------|------------------------------------|----|----|------|-----------------|---|--|
| 125 | 2006/2/28 | 50931 | 財団法人 化学及血 清療法研 究所 | 乾燥細胞培養痘そうワクチン① 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド② 沈降破傷風トキソイド③ ジフテリア破傷風混合トキソイド④ ジフテリアトキソイド⑤ コレラワクチン⑥ 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン⑦、⑧ 破傷風トキソイド⑨ | ペプトン | ブタ胃 | | ①添加物 ②～⑨製 造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 126 | 2006/2/28 | 50932 | 財団法人 化学及血 清療法研 究所 | 乾燥細胞培養痘そうワクチン① 乾燥弱毒生風しんワクチン② 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン③ 組織培養不活化狂犬病ワクチン④ | コレステ ロール | ヒツジ毛 | ニュージ ーランド、オ ーストラリア | ①、④製 造工程 ②、③添 加物・製 造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 127 | 2006/2/28 | 50933 | 財団法人 化学及血 清療法研 究所 | 乾燥細胞培養痘そうワクチン インフルエンザHAワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチ ン インフルエンザワクチン | ラクトビオ ン酸エリ スロマイ シン | ウシ乳 | アメリカ、カ ナダ、ニュー ジーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 128 | 2006/3/1 | 50934 | 川崎三鷹 製薬株式 会社 | 胎盤性性腺刺激ホルモン | 胎盤性性 腺刺激ホ ルモン | ヒト尿 | 中国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 129 | 2006/3/2 | 50935 | 持田製薬 株式会社 | 日本薬局方 注射用胎盤性性腺刺 激ホルモン | 注射用凍 結乾燥製 剤 | ヒト(妊婦)尿 | 中国 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | ウイルス感染 | Reuters Foudation AlertNet, Newsdesk 2005年8月22日 | スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスを Human bocavirus と命名した。小児病棟540例の小児の検体において17例の病因であった。小児において重症呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイル ウイルス | 厚生労働省 平成 17年10月3日 | 厚生労働省は2005年10月3日、米国から帰国した男性会社員(30歳代)が、米国で流行中のウエストナイル熱と診断されたと発表した。日本で初のWNV感染例である。この患者は米国で感染した可能性が高い。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|---|--|
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | Emerg Infect Dis 2005; 11: 1294-1296 | 2004年米国で、WNV性脳炎発症8日後の65歳患者から採取した尿検体からWNV RNAが検出された。しかし、その後の尿検体からは検出されなかった。血液中の中和抗体が尿へのWNV排泄を阻害しているのかもしれない。今後WNV感染患者の尿検体検査時期を検討する必要がある。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | Science 2005; 310: 324-326 | 慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイピー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイピーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | CDC 2005年11月7日 http://www.cdc.gov/flu/avian/outbreaks/asia.htm | WHO鳥インフルエンザH5N1型の更新情報。2003年～05年のアジア、ヨーロッパにおけるH5N1型鳥インフルエンザ感染の動物およびヒトでの進展状況。動物では家禽、渡り鳥、ブタ、ネコ科動物での感染が確認されている。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | 厚生労働省 平成18年1月10日 http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html | 平成17年6月以降、高病原性鳥インフルエンザが確認された茨城県及び埼玉県内の養鶏場の従業員等及び防疫業者の一部に対し、感染症の有無を確認するために健康状態及びウイルス検査を実施したが、インフルエンザ様症状を示す者はなく、PCR検査によるウイルス遺伝子検査の結果はすべて陰性であった。また、血清中和抗体検査では、第1回抗体検査と第2回抗体検査との間で4倍以上の抗体価上昇が15例で見られた。全体としては353名中77名が陽性と判定された。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | WHO/CSR 2006年1月19日 http://www.who.int/csr/don/2006_01_19/en/index.html | 中国衛生省はH5N1型トリインフルエンザウイルスによるヒト感染例をさらに1例確定した。この患者は四川省在住の35歳女性で、家禽選別者として働いていたが、発症9日目に死亡した。この症例は中国における9例目の確定診断例で、そのうち6例が死亡している。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----------|-------|-----------|--------------------|--------------|------------|---------|------|----|----|------|------------------|---|---|
| 130 | 2006/3/2 | 50936 | 持田製薬株式会社 | 下垂体性性腺刺激ホルモン | 下垂体性性腺刺激ホルモン | ヒト(閉経期婦人)尿 | 中国 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | トリインフルエンザ | 厚生労働省 平成18年1月10日 http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html | 平成17年6月以降、高病原性鳥インフルエンザが確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等及び防疫業者の一部に対し、感染症の有無を確認するために健康状態及びウイルス検査を実施したが、インフルエンザ様症状を示す者はなく、PCR検査によるウイルス遺伝子検査の結果はすべて陰性であった。また、血清中和抗体検査では、第1回抗体検査と第2回抗体検査との間で4倍以上の抗体価上昇が15例で見られた。全体としては353名中77名が陽性と判定された。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | WHO 2006年1月19日 http://www.who.int/csr/don/2006_01_19/en/index.html | 中国衛生省はH5N1型トリインフルエンザウイルスによるヒト感染例をさらに1例確定した。この患者は四川省在住の35歳女性で、家禽選別者として働いていたが、発症9日目に死亡した。この症例は中国における9例目の確定診断例で、そのうち6例が死亡している。 |
| 131 | 2006/3/2 | 50937 | 持田製薬株式会社 | 日本薬局方 ヘパリンナトリウム注射液 | 日局 ヘパリンナトリウム | ブタ腸粘膜 | フランス | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 132 | 2006/3/3 | 50938 | あすか製薬株式会社 | 日局胎盤性性腺刺激ホルモン | 胎盤性性腺刺激ホルモン | ヒト尿 | 中国・ブラジル | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Neurology 2005; 64(Suppl1); A100 | サウジアラビアで初のvCJD患者の報告された。患者は牛肉を食べ、海外渡航歴として1995年にフランス2週間、98年に米国1年間、英国4日間の滞在歴があった。臨床的、神経病理組織学的、遺伝子学的にvCJDと確定診断された。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | The Australian online 2005年10月20日 http://www.theaustralian.news.co.au/common/story_page | インドネシアで、感染症病院の医師が、男性1名とその息子1名、ならびに幼児1名がトリインフルエンザ感染の疑いがあると発表した。同国でのトリインフルエンザによる死亡例は公式には3例であるが、H5N1ウイルスによると疑われる死亡例は、少なくともさらに6例はいる。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | WHO 2005年11月17日 http://www.who.int/csr/don/2005_11_17/en/ | 中国衛生省によると、中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例(9歳少年)は回復したが、もう1例(24歳女性)は死亡した。インドネシア衛生省は、さらに2例のH5N1型トリインフルエンザ感染者を確定した。2例とも危篤である。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----------|-------|------------|---|---------|------|------------------|------|----|----|------|-----------|--|--|
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | WHO 2006年1月5日 http://www.who.int/csr/don/2006_01_05/en/ | トルコ保健省は、H5型ウイルスによるトリインフルエンザに感染した初めてのヒト2例を確認した。14歳の少年と、その姉である15歳の少女で、両症例とも死亡した。当局によると1月1日以来、この2例を含め11例の患者が同様の症状で入院している。当局の要請により、WHOなどからの専門家チームがトルコに派遣された。 |
| 133 | 2006/3/6 | 50939 | 武田薬品工業株式会社 | 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド コレラワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素 | ウシ肉水 | ウシ肉 | オーストラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 134 | 2006/3/6 | 50940 | 武田薬品工業株式会社 | 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素 | カザミアシンド | ウシの乳 | ニュージーランド、オーストラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 135 | 2006/3/6 | 50941 | 武田薬品工業株式会社 | 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥痘そうワクチン 沈降精製百日せきワクチン コレラワクチン ジフテリアトキソイド ワイル病秋やみ混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 | ポリペプトン | ウシの乳 | ニュージーランド・中国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----------|-------|------------|--|-------------|-------|------------------|------|----|----|------|---------|-------------------------------|---|
| 136 | 2006/3/6 | 50942 | 武田薬品工業株式会社 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン 弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン | ラクトアルブミン水解物 | ウシの乳 | ニュージーランド、オーストラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 137 | 2006/3/6 | 50943 | 武田薬品工業株式会社 | 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素 | ウシ心臓透析外液 | ウシ心臓 | オーストラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 138 | 2006/3/6 | 50944 | 武田薬品工業株式会社 | インフルエンザHAワクチン | 発育鶏卵 | 発育鶏卵 | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 139 | 2006/3/6 | 50945 | 武田薬品工業株式会社 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン | ニワトリ胚細胞 | ニワトリ胚 | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 140 | 2006/3/6 | 50946 | 武田薬品工業株式会社 | 乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素 | ペブシン | ブタ胃 | アメリカ合衆国 | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | E型肝炎 | 日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 922 | 北海道における急性E型肝炎患者を対象とし、E型肝炎ウイルス感染および重症化の危険因子について検討した。急性E型肝炎患者27例中25例(93%)が発症の2週から8週前にブタレバーかホルモンを摂取していた。IV型感染例はIII型より重症であった。また基礎疾患の有無が重症化と密接な関連があった。 |
| 141 | 2006/3/6 | 50947 | 武田薬品工業株式会社 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン | トリブシン | ブタ膵臓 | アメリカ合衆国、カナダ | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | E型肝炎 | 日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 922 | 北海道における急性E型肝炎患者を対象とし、E型肝炎ウイルス感染および重症化の危険因子について検討した。急性E型肝炎患者27例中25例(93%)が発症の2週から8週前にブタレバーかホルモンを摂取していた。IV型感染例はIII型より重症であった。また基礎疾患の有無が重症化と密接な関連があった。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----------|-------|------------|--|-------------|------|---|------|----|----|------|---------|----|----|
| 142 | 2006/3/6 | 50948 | 武田薬品工業株式会社 | 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素 | バクトカン トン | ウシの乳 | ニュージーランド、アメリカ合衆国、オーストラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 143 | 2006/3/6 | 50949 | 武田薬品工業株式会社 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン① 乾燥弱毒生風しんワクチン② 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン③ 日本脳炎ワクチン④、⑤ 乾燥日本脳炎ワクチン⑥ 弱毒生風しんワクチン⑦ 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン⑧ | ウシ血清 | ウシ血液 | ①～③アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア、④～⑥ニュージーランド、⑦アメリカ、⑧ニュージーランド、オーストラリア、 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 144 | 2006/3/6 | 50950 | 武田薬品工業株式会社 | 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素 | スキムミルク | ウシの乳 | アメリカ、日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 145 | 2006/3/6 | 50951 | 武田薬品工業株式会社 | 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素 | ウシ肝臓 | ウシ肝臓 | オーストラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 146 | 2006/3/6 | 50952 | 武田薬品工業株式会社 | 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 | ウマ血清 | ウマ血液 | ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 147 | 2006/3/6 | 50953 | 武田薬品工業株式会社 | 痘そうワクチン 乾燥痘そうワクチン | ウシ皮膚 | ウシ皮膚 | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|------------|---|----------------|----------|------|------|----|----|------|-----------|-----------------------------------|---|
| 148 | 2006/3/6 | 50954 | 武田薬品工業株式会社 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふかぜワクチン 弱毒風しんワクチン | 筋アデニール酸 | ウマ筋肉 | アメリカ | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 149 | 2006/3/6 | 50955 | 武田薬品工業株式会社 | ウイルス病秋やみ混合ワクチン | ウサギ血清 | ウサギ血液 | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 150 | 2006/3/6 | 50956 | 武田薬品工業株式会社 | 乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素 | ウマ免疫グロブリン | ウマ血清 | 日本 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 151 | 2006/2/15 | 50957 | デンカ生研株式会社 | 発疹チフスワクチン | 卵黄囊 | ニワトリの受精卵 | | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 152 | 2006/3/8 | 50958 | 東和薬品株式会社 | 塩化マンガン・硫酸亜鉛配合剤 | コンドロイチン硫酸ナトリウム | 魚類の軟骨抽出物 | アメリカ | 添加物 | 有 | 無 | 無 | インフルエンザ | GDC/MMWR 2006; 55(02): 44-46 | 近年、世界的にA型インフルエンザウイルスの間でアダマンチン耐性率が有意に増加し、米国でも2003年から2004年のインフルエンザシーズンには1.9%だった耐性率が、2004年から2005年のシーズンには11%に増加した。一方、ノイラミニダーゼ阻害薬に対する耐性は世界的にまれである。米国は2005年から2006年の残りのインフルエンザシーズンにはインフルエンザにアダマンチンを使用しないように勧告した。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | Lancet 2006; 367: 84 | 中国本土で初めて、A型トリインフルエンザウイルス(H5N1)のヒト感染症例が確認された。2005年10月8日に発症した12歳少女は、9日後に死亡した。弟の9歳少年は発症したが、回復した。村では家禽が9月から死に始めており、患者の家でも飼っていたことから、家禽からのウイルス感染とみられる。 |
| | | | | | | | | | | | | インフルエンザ | N Engl J Med 2005; 353: 2667-2672 | オセルタミビル治療中のベトナム人患者8例中2例から、オセルタミビルに対する高度耐性をもたらしノイラミダーゼのアミノ酸置換を伴うA型インフルエンザ(H5N1)ウイルスが分離された。この2例の患者は死亡した。生き残った患者では治療中、ウイルス値は急速に検出できないレベルにまで減少した。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|----------|-------|--------------|------------------------|----------|--------|-----------------------|------|----|----|------|------------------|---------------------------------|--|
| 153 | 2006/3/9 | 50959 | 日本シェーリング株式会社 | インターフェロンベータ-1b(遺伝子組換え) | 人血清アルブミン | 人血液 | アメリカ | 添加物 | 有 | 無 | 無 | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | HPS Weekly Report 2005; 39: 189 | 英国保健省はvCJD罹患率を割り出すために、保存されている虫垂および扁桃検体を検査した。その結果、vCJD罹患率は10-30歳で100万人当たり46-692例であると見積られた。この値は臨床例からの推定値よりはるかに大きかった。 |
| 154 | 2006/3/9 | 50960 | 日本ビーシー製造株式会社 | 精製ツベルクリン | 乳糖 | ウシ乳 | オランダ、ベルギー、ドイツ、ルクセンブルク | 添加物 | 有 | 無 | 無 | BSE | Vet Rec 2005; 157: 206 | 6月齢の雌ヒツジ30頭にBSEウシの脳5gを経口投与し、6ヶ月後に、同月齢のBSE脳非投与のヒツジ20頭と、一つの群れとして生活させ、自然交配させ、出産させた。投与群では30頭のうち24頭が投与後65日から1056日の間に死亡した。2003年に生まれた2頭の子羊はBSEで死亡した。子羊の母親2頭は臨床症状を呈した。ヒツジにおいてBSEが、子宮内や出産前後に伝播しうることが初めて確認された。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | J Neurosci 2005; 25: 7944-7949 | シカやヘラジカのプリオン病である慢性消耗病(CWD)のヒトへの伝播性をトランスジェニックマウスを用いて調べた。ヘラジカまたはヒトのPrPを発現するようにしたトランスジェニックマウスにヘラジカCWDプリオンを脳室内接種したところ、前者(シカ化マウス)は26例中25例が発病したが、後者(ヒト化マウス)は51例全てが発病しなかった。ヒトがシカのCWDに感染する危険性は極めて低いと思われる。 |
| 155 | 2006/3/9 | 50961 | 日本ビーシー製造株式会社 | 精製ツベルクリン | 全卵 | ニワトリの卵 | 日本 | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | トリインフルエンザ | Science 2005; 309: 1206 | 2005年5月4日、中国西部の青海省青海湖の鳥の島で数羽のトリが死んでいるのが発見され、6月末までに1000羽以上の野鳥が罹患した。病理所見はH5N1型トリインフルエンザに感染した家禽と同じであり、複数のH5N1型トリインフルエンザウイルスが分離され、香港2004年分離株と密接な関連が認められた。渡り鳥のH5N1型トリインフルエンザ感染は潜在的な世界的脅威である。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | Virology 2005; 339: 101-109 | 2003年に中国から日本に輸入されたアヒル肉から、遺伝型が特異なH5N1型インフルエンザウイルスが分離された。この分離株はニワトリには高病原性を示したが、マウスには示さなかった。しかし、一度このウイルスに感染させたマウスの脳から分離したウイルスは、アミノ酸置換が起こっており、病原性を増加させた。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|-----------|-------------------------------|---|
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | J Virol 2005; 79: 11788-11800 | 2004年にアジアでヒトから分離されたトリインフルエンザH5N1ウイルスは、マウスおよびフェレットで高い致死率を示したが、トリから分離されたH5N1ウイルスは高い致死率を示さなかった。フェレットにおいて、2004年ヒト分離H5N1ウイルスは、1997年ヒト分離H5N1ウイルスと比べ、症状の急速な悪化、高い致死率を示した。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | Nature 2005; 437: 1108 | 2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。 |
| | | | | | | | | | | | | インフルエンザ | Science 2005; 310: 77-80 | 1918年に大流行したインフルエンザ(スペイン風邪)ウイルスの病原性を調べるため、当時インフルエンザで死亡した患者の肺組織から1918ウイルスRNAを再現した。1918ウイルスはマウスおよびニワトリ胚で致死性を示し、ヒト気管支上皮細胞で高成長型表現型を示した。 |
| | | | | | | | | | | | | インフルエンザ | Science 2005; 310: 28-29 | 米国の研究チームは、1918年に大流行したインフルエンザ(スペイン風邪)で死亡した患者の肺組織から1918ウイルスを復活させた。1918ウイルスはマウスおよびニワトリ胚で致死性を示し、ヒト気管支上皮細胞で高成長型表現型を示した。1918ウイルスの増殖機構を調べることにより、新しい抗ウイルス薬の開発に役立つであろう。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | 動物衛生研究成果情報 2004; 4: 7-8 | 2004年1月に、日本で発生した高病原性トリインフルエンザから分離されたウイルスを遺伝学的ならびに病原学的に解析した。分離ウイルスは韓国分離株と同じ遺伝子型に属し、タイやベトナム分離株とは異なること、またニワトリに対し高病原性であることが明らかになった。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|---------------|---------------------------------------|------------|------------|----------|------|----|----|------|-----------|---|--|
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | 獣医畜産新報 2005; 1011: 849-852 | 現在アジアを汚染しているH5N1ウイルスは、1996年に中国広東省のガチョウ農場で最初に発見されて以来、この10年間に多くの動物種に対して病原性を高め、また宿主域を広めている。ニワトリ、水鳥(カモ、サギなど)、留鳥(カラス、スズメなど)、哺乳類(マウス、ネコ、ヒトなど)に対する病原性の推移について述べた。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | 鶏病研究会報 2005; 41(増刊号): 9-16 | アジア各国で発生している高病原性トリインフルエンザの現時点での防疫対策は感染個体の殺処分と移動制限による封じ込めである。しかし、ゲノム解読、ナノテクノロジー等による研究の積み重ねは、確実にインフルエンザ対策に貢献していることは間違いないと考えられる。 |
| 156 | 2006/3/10 | 50962 | 日本シェーリング株式会社 | レビパリンナトリウム | レビパリンナトリウム | ブタ小腸粘膜 | 中華人民共和国 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | レンサ球菌感染 | WHO 2005年8月16日 http://www.wpro.who.int/media_centre/news/news_20050816.htm | 2005年8月16日現在、中国四川省におけるブタでのStreptococcus suis流行に関連した疾病はヒトで215例発生し、そのうち39例が死亡した。流行のピークは2005年7月の第2週から第4週であった。病気のブタに接触したことが感染の原因とみられ、ヒトからヒトへの感染はなかったと思われる。更なる調査中である。 |
| 157 | 2006/3/10 | 50963 | アボット・ジャパン株式会社 | レビパリンナトリウム | レビパリンナトリウム | ブタ小腸粘膜ヘパリン | 中国 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | レンサ球菌感染 | WHO 2005年8月16日 http://www.wpro.who.int/media_centre/news/news_20050816.htm | 2005年8月16日現在、中国四川省におけるブタでのStreptococcus suis流行に関連した疾病はヒトで215例発生し、そのうち39例が死亡した。流行のピークは2005年7月の第2週から第4週であった。病気のブタに接触したことが感染の原因とみられ、ヒトからヒトへの感染はなかったと思われる。更なる調査中である。 |
| 158 | 2006/3/10 | 50964 | 株式会社ベネシス | ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン①、② 人免疫グロブリン③ | 人免疫グロブリンG | 人血液 | ①日本、②③米国 | 有効成分 | 有 | 有 | 無 | B型肝炎 | AABB Weekly Report 2005; 11(26): 4-5 | 米国のFDA血液製剤諮問委員会で、HBV DNA陽性、HBc抗体陰性、HBs抗原陰性、又は中和試験で確認されないが、繰り返しHBs抗原陽性であった輸血用の全血および血液成分のドナーは、最低6ヶ月経過した後に個別NATによりHBV DNA陰性、HBc抗体陰性及びHBs抗原陰性であれば再登録できることを合意した。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|---------------------------------|---|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Nature 2005; 437: 257-261 | 伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | Yomiuri Online 2005年10月3日 | 厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウイルス感染症である西ナイル熱と診断されたと発表した。発熱などの症状がみられたが、すでに回復している。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | J Infect 2005; 51: 91-97 | サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人のデング熱のような患者から、ダニ媒介性キャサヌル森林熱ウイルスに非常に類似した新種のフラビウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビアMakkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などを伴い、致死率は25%であった。感染経路はヒツジやヤギの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱と考えられる。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Science 2005; 310: 324-326 | 慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイビー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイビーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | | 寄生虫感染 | Transfusion 2005; 45: 1804-1810 | コネチカット州のバベシア流行地及び非流行地の血液ドナーそれぞれ1745例の血清をBabesia microti抗体について調べた。流行地の血清学的陽性血液ドナーは24例(1.4%)で、非流行地の陽性血液ドナー(6例、0.3%)より多かった。また、血清学的陽性の血液ドナー19例のうち10例(53%)がPCRによりBabesia microtiに陽性であった。輸血により本寄生虫血症が伝播するおそれがある。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------|---|----------|------|------------|---------|----|----|------|------------------|--------------------------------------|--|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | J Virol 2005; 79: 13794-13796 | 慢性消耗病(CWD)感染ミュールシカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | WHO/CSR 2005年11月17日 | 中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例は回復したが、もう1例は死亡した。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434 | 米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソーム型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | | クロストリジウム感染 | N Engl J Med 2005; 353: 2433-2441 | 米国において、毒性、抗菌薬耐性、あるいはその両方が高まったClostridium difficileの新菌株の出現により、関連疾患の発生率と重症度が上昇している可能性が示唆されている。2000年から2003年に本菌関連疾患の集団発生が起きた8医療施設から得た本菌の分離株187株を、2001年以前の分離株データベースと比較した。その結果、全施設の分離株で同定された最近のBI/NAP1株は、ガチフロキサシンとモキシフロキサシンに耐性を示すことが明らかとなった。 |
| 159 | 2006/3/10 | 50965 | 株式会社ベネシス | 人血清アルブミン①、②、③ 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子④ 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子⑤ | 人血清アルブミン | 人血液 | ①②④⑤日本、③米国 | 有効成分添加物 | 有 | 有 | 無 | B型肝炎 | AABB Weekly Report 2005; 11(26): 4-5 | 米国のFDA血液製剤諮問委員会で、HBV DNA陽性、HBc抗体陰性、HBs抗原陰性、又は中和試験で確認されないが、繰り返しHBs抗原陽性であった輸血用の全血および血液成分のドナーは、最低6ヶ月経過した後に個別NATによりHBV DNA陰性、HBc抗体陰性及びHBs抗原陰性であれば再登録できることを合意した。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|---------------------------------|---|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Nature 2005; 437: 257-261 | 伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | Yomiuri Online 2005年10月3日 | 厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウイルス感染症である西ナイル熱と診断されたと発表した。発熱などの症状がみられたが、すでに回復している。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | J Infect 2005; 51: 91-97 | サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人のデング熱のような患者から、ダニ媒介性キヤサヌル森林熱ウイルスに非常に類似した新種のフラビウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビアMakkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などを伴い、致死率は25%であった。感染経路はヒツジやヤギの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱と考えられる。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Science 2005; 310: 324-326 | 慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイビー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイビーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | | 寄生虫感染 | Transfusion 2005; 45: 1804-1810 | コネチカット州のバベシア流行地及び非流行地の血液ドナーそれぞれ1745例の血清をBabesia microti抗体について調べた。流行地の血清学的陽性血液ドナーは24例(1.4%)で、非流行地の陽性血液ドナー(6例、0.3%)より多かった。また、血清学的陽性の血液ドナー19例のうち10例(53%)がPCRによりBabesia microtiに陽性であった。輸血により本寄生虫血症が伝播するおそれがある。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------|---------------|----------|------|-----|------|----|----|------|------------------|--------------------------------------|--|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | J Virol 2005; 79: 13794-13796 | 慢性消耗病(CWD)感染ミールシカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | WHO/CSR 2005年11月17日 | 中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例は回復したが、もう1例は死亡した。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434 | 米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソーム型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | | クロストリジウム感染 | N Engl J Med 2005; 353: 2433-2441 | 米国において、毒性、抗菌薬耐性、あるいはその両方が高まったClostridium difficileの新菌株の出現により、関連疾患の発生率と重症度が上昇している可能性が示唆されている。2000年から2003年に本菌関連疾患の集団発生が起きた8医療施設から得た本菌の分離株187株を、2001年以前の分離株データベースと比較した。その結果、全施設の分離株で同定された最近のBI/NAPI株は、ガチフロキサシンとモキシフロキサシンに耐性を示すことが明らかとなった。 |
| 160 | 2006/3/10 | 50966 | 株式会社ベネシス | 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子 | 血液凝固第Ⅷ因子 | 人血液 | 日本 | 有効成分 | 有 | 有 | 無 | B型肝炎 | AABB Weekly Report 2005; 11(26): 4-5 | 米国のFDA血液製剤諮問委員会、HBV DNA陽性、HBc抗体陰性、HBs抗原陰性、又は中和試験で確認されないが、繰り返しHBs抗原陽性であった輸血用の全血および血液成分のドナーは、最低6ヶ月経過した後に個別NATによりHBV DNA陰性、HBc抗体陰性及びHBs抗原陰性であれば再登録できることを合意した。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|---------------------------------|--|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Nature 2005; 437: 257-261 | 伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | Yomiuri Online 2005年10月3日 | 厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性社員が米国で流行中のウイルス感染症である西ナイル熱と診断されたと発表した。発熱などの症状がみられたが、すでに回復している。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | J Infect 2005; 51: 91-97 | サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人の Dengue 熱のような患者から、ダニ媒介性キャサヌル森林熱ウイルスに非常に類似した新種のフラビウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビアMakkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などを伴い、致死率は25%であった。感染経路はヒツジやヤギの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱と考えられる。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Science 2005; 310: 324-326 | 慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイビー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイビーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | | 寄生虫感染 | Transfusion 2005; 45: 1804-1810 | コネチカット州のバベシア流行地及び非流行地の血液ドナーそれぞれ1745例の血清をBabesia microti抗体について調べた。流行地の血清学的陽性血液ドナーは24例(1.4%)で、非流行地の陽性血液ドナー(6例、0.3%)より多かった。また、血清学的陽性の血液ドナー19例のうち10例(53%)がPCRによりBabesia microtiに陽性であった。輸血により本寄生虫血症が伝播するおそれがある。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|-------------------|--|---------|-------|------------------------|------|----|----|------|------------------|--------------------------------------|--|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | J Virol 2005; 79: 13794-13796 | 慢性消耗病(CWD)感染ミュールシカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | WHO/CSR 2005年 11月17日 | 中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例は回復したが、もう1例は死亡した。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434 | 米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソーム型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | | クロストリジウム感染 | N Engl J Med 2005; 353: 2433-2441 | 米国において、毒性、抗菌薬耐性、あるいはその両方が高まったClostridium difficileの新菌株の出現により、関連疾患の発生率と重症度が上昇している可能性が示唆されている。2000年から2003年に本菌関連疾患の集団発生が起きた8医療施設から得た本菌の分離株187株を、2001年以前の分離株データベースと比較した。その結果、全施設の分離株で同定された最近のBI/NAP1株は、ガチフロキサシンとモキシフロキサシンに耐性を示すことが明らかとなった。 |
| 161 | 2006/3/10 | 50967 | 財団法人 阪大微生物病研究会 | 破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド | ウシの肝臓 | ウシの肝臓 | 日本、米国、オーストラリア、ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来 成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正 使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|-------------------|--|----------------------------|---------------|---|------|----|----|----------|---------|----|----|
| 162 | 2006/3/10 | 50968 | 財団法人 阪大微生物病研究会 | 破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワク チン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイ ド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド | ビーフ ハートイ ンフュー ジョン | ウシの心臓 | インド、オー ストラリア、 ニュージー ランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 163 | 2006/3/10 | 50969 | 財団法人 阪大微生物病研究会 | 破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワク チン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイ ド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド 沈降破傷風トキソイド | ウシ肉エ キス | ウシの肉、 骨、脂肪 | 日本、ブラ ジル、イン ド、米国、 オーストラ リア、ニュ ージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 164 | 2006/3/10 | 50970 | 財団法人 阪大微生物病研究会 | 破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワク チン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイ ド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド コレラワクチン 沈降破傷風トキソイド | スキムミ ルク | ウシの乳 | 米国、オー ストラリア、 ニュージー ランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 165 | 2006/3/10 | 50971 | 財団法人 阪大微生物病研究会 | 百日せきワクチン 破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワク チン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイ ド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド コレラワクチン | ポリペプ ト ン | ウシの乳 | ニュージー ランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|-------------------|------------------------------|------------------------------|------|------------|------|----|----|------|-----------|--|---|
| 166 | 2006/3/10 | 50972 | 財団法人 阪大微生物病研究会 | インフルエンザワクチン インフルエンザHAワクチン | 尿膜腔液 | 発育鶏卵 | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 167 | 2006/3/10 | 50973 | 財団法人 阪大微生物病研究会 | 発疹チフスワクチン | 卵黄囊 | 発育鶏卵 | 製造中止品 目 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 168 | 2006/3/13 | 50974 | 日本赤十字社 | 乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン | ペプシン | ブタ胃 | 米国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 169 | 2006/3/13 | 50975 | 日立化成工業株式会社 | | アレルギー性疾患患者から抽出、精製した抗アレルギー性物質 | ヒト尿 | 日本 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | E型肝炎 | 日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 922 | 北海道における急性E型肝炎患者を対象とし、E型肝炎ウイルス感染および重症化の危険因子について検討した。急性E型肝炎患者27例中25例(93%)が発症の2週から8週前にブタレバーかホルモンを摂取していた。IV型感染例はIII型より重症であった。また基礎疾患の有無が重症化と密接な関連があった。 |
| | | | | | | | | | | | | マイコプラズマ肺炎 | IDWR JAPAN (感染症週報) 2005年 第39週 | マイコプラズマ肺炎は通年性に発生がみられるが、過去5年間では冬季にピークが見られ、またこの3年間では夏季にも小さなピークがみられている。2005年では過去5年間の同時期と比較して、常にその平均値を超える状態が続いており、第39週現在の累積報告数は、2000年以降では最高値となっている。 |
| | | | | | | | | | | | | 日本脳炎 | 臨床血液 2005; 46: 910 第9回日本ワクチン学会学術集会 要旨集87 | 2004年4月28日から5月27日初診で日本脳炎ウイルス関与が強く示唆される血球貪食症候群6例が広島県のある地域で発生した。日本脳炎ウイルスに関連したウイルス関連血球貪食症候群の報告は初めてである。 |
| | | | | | | | | | | | | マイコプラズマ肺炎 | IDWR JAPAN (感染症週報) 2005年 第40週 | マイコプラズマ肺炎の第40週の定点あたり報告数は2週連続して増加し、0.37となったが2005年第1週以降では最高値となり、また、過去6年間の同週との比較でも最も多かった。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|-------------|-------------------------------------|---|
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | IDWR JAPAN (感染症週報) 2005年第40週 | 米国ロスアンゼルスにおいて蚊に刺された30歳代男性が2005年9月5日に帰国した。帰国前夜より倦怠感があり、9月5日から発疹、頭痛、発熱(38.3°C)、腰痛の症状を呈し近医を受診したが症状が改善せず、川崎市立川崎病院を受診した。ウエストナイルウイルスIgM抗体検査や中和試験、その他の検査の結果ウエストナイル熱と診断された。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | Am J Trop Med Hyg 2005; 73: 428-434 | 2003年コンゴ共和国の医療機関において、サル痘のヒトヒト感染が発生した。ヒトにおけるサル痘の流行を確認した初めての報告である。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。患者のすべてが18歳以下で、1名が死亡、1名に重度の後遺症が認められた。 |
| | | | | | | | | | | | | レプトスピラ症 | 第88回日本細菌学会関東支部総会一般演題4-2 | 動物取り扱い業者の従業員2名がレプトスピラ症と診断され、原因究明を行った。その結果、取り扱っていた輸入アメリカモモンガが原因であった。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | IDWR JAPAN (感染症週報) 2005年第51週、52週合併号 | トルコ保健省はH5型トリインフルエンザウイルス感染患者2名を確認した。1例目は東部の14歳の少年、2例目はこの少年の姉(15歳)で2名とも死亡した。患者らは鶏との濃密な接触があった。アジア以外では初のトリインフルエンザウイルスによる患者報告である。 |
| | | | | | | | | | | | | 寄生虫感染 | 第37回日本小児感染症学会総会・学術大会 2005年11月11-12日 | 平成16年8月に長野県での水泳合宿で、千葉県の子童45例がクリプトスポリジウム感染と診断された。感染者が使用した千葉県のプールから同菌が検出され、2例が発症した。プールを介しての2次感染が起こったと考えられた。プールが感染経路と考えられる日本で初めての報告である。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | IDWR JAPAN (感染症週報) 2006年第2週 | トルコの国立インフルエンザセンターは新たにトリインフルエンザ患者を確認し、2006年1月16日時点で患者数は20例(内死亡4例)となった。ウイルス解析により、ウイルスの遺伝子配列に3箇所の変異を確認した。この変異のうちの少なくとも2箇所はウイルスがヒトへの感染しやすいように働く可能性があるとして指摘している。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|------------|----------------------|-----------|------|---------------------------|------|----|----|------|----------|--------------------------------------|---|
| | | | | | | | | | | | | インフルエンザ | IDWR JAPAN (感染症週報) 2006年第3週 | 2003年に始まった一連のH5N1インフルエンザの国別確定症例数と死亡数。感染地域が徐々に拡大し、ヒトへの感染報告数も徐々に増加している。 |
| | | | | | | | | | | | | インフルエンザ | IDWR Japan(感染症週報) 2006年第4週 | 2006年第4週のインフルエンザの定点あたり報告数は32.4(報告数151,878例)となり増加が続いている。分離報告の殆どはA型(99.7%)である。流行は西日本から東日本に広がりがつある。今後患者数が増加する可能性があり、注意を要する。 |
| 170 | 2006/3/15 | 50976 | 東菱薬品工業株式会社 | ヘモコアグラゼ | ヘモコアグラゼ | 蛇毒 | ブラジル | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 171 | 2006/3/15 | 50977 | 東菱薬品工業株式会社 | 幼牛血液抽出物 | ソルコセリル | 幼牛血液 | オーストラリア、ニュージーランド | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | ウイルス感染 | Emerg Infect Dis 2005; 11: 1848-1853 | げっ歯類がハンタウイルスの感染源と考えられていたが、それ以外の感染ルートがあることが示唆された。2002年にアルゼンチンで発生したハンタウイルス肺症候群(HPS)の患者13例について分析した。その結果、前兆期またはその後の短期間に、ウイルスのヒトからヒトへの伝播が起こったと考えられた。 |
| | | | | | | | | | | | | ロタウイルス陽性 | Virus Res 2005; 113: 73-80 | 2004年2月にハンガリーで、1つの群れのウサギ60羽が急性腸炎で死亡した。その原因を詳しく調べたところ、新しい家兎ロタウイルスP[22]が同定された。 |
| | | | | | | | | | | | | E型肝炎 | J Clin Microbiol 2005; 43: 3042-3048 | 韓国でヒトから分離したHEVは、ブタのHEVと92.9-99.2%のヌクレオチド相同性があった。また日本株およびUS株とアミノ酸配列で97.9-99.6%の相同性があった。韓国の人口の11.9%は抗HEV IgGを持っていると考えられ、韓国でHEV感染が広がる可能性が示唆された。 |
| 172 | 2006/3/17 | 50978 | 日本臓器製薬株式会社 | ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液 | ウサギ皮膚 | ウサギ | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 173 | 2006/3/17 | 50979 | 日本臓器製薬株式会社 | ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液 | 漿尿膜 | 発育鶏卵 | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 174 | 2006/3/17 | 50980 | 日本臓器製薬株式会社 | ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液 | カゼイン性ペプトン | ブタ臓臓 | 日本、カナダ | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 175 | 2006/3/17 | 50981 | 日本臓器製薬株式会社 | ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液 | カゼイン性ペプトン | ウシ乳 | ポーランド、中国、オーストラリア、ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------------------|---|----------------------|-------------------|----------|------|----|----|------|-----------|---|---|
| 176 | 2006/3/17 | 50982 | 日本臓器製薬株式会社 | ワクチニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液 | ワクチニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液 | ワクチニアウイルス接種家兔炎症皮膚 | 日本 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 177 | 2006/3/17 | 50983 | 株式会社フジモト・ダイアグノスティックス | ワクチニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液 | ワクチニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液 | 日本白色種家兔皮膚抽出液 | 中国 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | リケッチア症 | 第54回日本感染症学会東日本地方会総会2005年10月27日 | 急性Q熱54例に関して、患者背景、推定感染経路、臨床像を解析した。病型は肺炎28例、気管支炎6例、上気道炎12例、肝炎4例、不明熱3例、リンパ節炎1例で、死亡例はなかった。発症前に動物と接触した例は76%で、イヌ、ネコが多数を占めていたが、ウシ、ウサギ、シカ、ニワトリ、インコ、野鳥との接触例がみられた。 |
| 178 | 2006/3/17 | 50984 | 味の素株式会社 | パルナバリンナトリウム注射液 | パルナバリンナトリウム | 健康なブタの腸粘膜 | 中国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 179 | 2006/3/20 | 50985 | 社団法人北里研究所 | 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン | ウマ脱繊維血 | ウマ血液 | ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 180 | 2006/3/20 | 50986 | 社団法人北里研究所 | 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド | ウマ血清 | ウマ血液 | 米国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 181 | 2006/3/20 | 50987 | 社団法人北里研究所 | 日本脳炎ワクチン | マウス脳乳液 | マウス脳 | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 182 | 2006/3/20 | 50988 | 社団法人北里研究所 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン | ニワトリ胚初代培養細胞 | 孵化鶏卵 | 日本、米国 | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | トリインフルエンザ | 厚生労働省 平成18年1月10日 http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html | 平成17年6月以降、高病原性鳥インフルエンザが確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等及び防疫業者の一部に対し、感染症の有無を確認するために健康状態及びウイルス検査を実施したが、インフルエンザ様症状を示す者はなく、PCR検査によるウイルス遺伝子検査の結果はすべて陰性であった。また、血清中和抗体検査では、第1回抗体検査と第2回抗体検査との間で4倍以上の抗体価上昇が15例で見られた。全体としては353名中77名が陽性と判定された。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来 成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正 使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|---------------|----------------------------------|-------------|------|--------------|------|----|----|----------|-----------|---|---|
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | CDC 2006年1月10日 http://www.cdc.gov/flu | 2003年末から2004年の初めにアジアの8カ国(カンボジア、中国、インドネシア、日本、ラオス、韓国、タイ、ベトナム)において家禽で鳥インフルエンザH5N1が流行し、100万羽以上の鳥が死亡または処分された。その後、マレーシア、モンゴル、ロシア、トルコ、ルーマニア、ウクライナでも家禽での鳥インフルエンザH5N1感染が報告されている。1997年以降、鳥インフルエンザウイルスのヒトでの感染例が報告されている。2006年1月7日現在、鳥インフルエンザH5N1のヒトでの感染例は、カンボジア、中国、インドネシア、タイ、ベトナム、トルコで報告され、WHOによると2004年1月以降で140例以上になる。現在、H5N1ワクチンが開発中である。 |
| 183 | 2006/3/20 | 50989 | 社団法人 北里研究所 | インフルエンザHAワクチン①、② インフルエンザワクチン③ | 発育鶏卵 | 発育鶏卵 | ①②日本、 ③不明 | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | トリインフルエンザ | 厚生労働省 平成18年1月10日 http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html | 平成17年6月以降、高病原性鳥インフルエンザが確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等及び防疫業者の一部に対し、感染症の有無を確認するために健康状態及びウイルス検査を実施したが、インフルエンザ様症状を示す者はなく、PCR検査によるウイルス遺伝子検査の結果はすべて陰性であった。また、血清中和抗体検査では、第1回抗体検査と第2回抗体検査との間で4倍以上の抗体価上昇が15例で見られた。全体としては353名中77名が陽性と判定された。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | CDC 2006年1月10日 http://www.cdc.gov/flu | 2003年末から2004年の初めにアジアの8カ国(カンボジア、中国、インドネシア、日本、ラオス、韓国、タイ、ベトナム)において家禽で鳥インフルエンザH5N1が流行し、100万羽以上の鳥が死亡または処分された。その後、マレーシア、モンゴル、ロシア、トルコ、ルーマニア、ウクライナでも家禽での鳥インフルエンザH5N1感染が報告されている。1997年以降、鳥インフルエンザウイルスのヒトでの感染例が報告されている。2006年1月7日現在、鳥インフルエンザH5N1のヒトでの感染例は、カンボジア、中国、インドネシア、タイ、ベトナム、トルコで報告され、WHOによると2004年1月以降で140例以上になる。現在、H5N1ワクチンが開発中である。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来 成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正 使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|-------------------|---|-------------|-------|--|------|----|----|----------|--------------------------|--|---|
| 184 | 2006/3/20 | 50990 | 社団法人 北里研究 所 | 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイ ド | ヒツジ血 清 | ヒツジ血液 | 米国 | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 変異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病 | Nat Med 2005; 11: 1137-1138 | イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPmp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がることが示された。 |
| 185 | 2006/3/20 | 50991 | 社団法人 北里研究 所 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン | コレステ ロール | ヒツジ毛 | ニュージ ーランド、オ ーストラリア | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 変異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病 | Nat Med 2005; 11: 1137-1138 | イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPmp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がることが示された。 |
| 186 | 2006/3/20 | 50992 | 社団法人 北里研究 所 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン① 乾燥弱毒生風しんワクチン② 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン③ | 乳糖 | ウシ乳 | ①ニュー ジーランド・ 米国②③ ニュージ ーランド | 添加物 | 有 | 無 | 無 | 狂犬病 | CDC 2005年12月23 日 http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies | 2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧めた。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|-----------|--|---------------|------|--------------------|------|----|----|------|---------|--|---|
| | | | | | | | | | | | | クローン病 | World J Microbiol Biotechnol 2005; 21: 1175-1179 | 渡航歴のない中国のクローン病患者の腸組織に Mycobacterium avium subspecies paratuberculosisが存在するかを調べた。手術の際に得られた腸組織をPCRにより調べたところ、クローン病患者13例中9例(69.2%)および癌患者14例中2例(14.3%)が本菌に陽性であり、クローン病は本菌と有意な関連があることが示された。中国では牛乳の生産と消費が増加しており、クローン病も増加していることから、乳牛および牛乳における本菌の調査が必要である。 |
| 187 | 2006/3/20 | 50993 | 社団法人北里研究所 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン① 乾燥弱毒生風しんワクチン② 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン③ | ウシ胎児血清、新生仔牛血清 | ウシ血液 | ①③ニュージーランド③オーストラリア | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 狂犬病 | GDC 2005年12月23日 http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies | 2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧告した。 |
| | | | | | | | | | | | | クローン病 | World J Microbiol Biotechnol 2005; 21: 1175-1179 | 渡航歴のない中国のクローン病患者の腸組織に Mycobacterium avium subspecies paratuberculosisが存在するかを調べた。手術の際に得られた腸組織をPCRにより調べたところ、クローン病患者13例中9例(69.2%)および癌患者14例中2例(14.3%)が本菌に陽性であり、クローン病は本菌と有意な関連があることが示された。中国では牛乳の生産と消費が増加しており、クローン病も増加していることから、乳牛および牛乳における本菌の調査が必要である。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|---------------|---|-----------------|------|--|------|----|----|------|---------|--|--|
| 188 | 2006/3/20 | 50994 | 社団法人 北里研究所 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン | ラクトビオン酸エリスロマイシン | ウシ乳 | ニュージーランド、カナダ、米国 | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 狂犬病 | CDC 2005年12月23日 http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies | 2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧めた。 |
| | | | | | | | | | | | | クローン病 | World J Microbiol Biotechnol 2005; 21: 1175-1179 | 渡航歴のない中国のクローン病患者の腸組織に <i>Mycobacterium avium</i> subspecies <i>paratuberculosis</i> が存在するかを調べた。手術の際に得られた腸組織をPCRにより調べたところ、クローン病患者13例中9例(69.2%)および癌患者14例中2例(14.3%)が本菌に陽性であり、クローン病は本菌と有意な関連があることが示された。中国では牛乳の生産と消費が増加しており、クローン病も増加していることから、乳牛および牛乳における本菌の調査が必要である。 |
| 189 | 2006/3/20 | 50995 | 社団法人 北里研究所 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン | ラクトアルブミン水 解物 | ウシ乳 | ①オーストラリア、ニュージーランド②③オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、米国 | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 狂犬病 | CDC 2005年12月23日 http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies | 2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧めた。 |
| | | | | | | | | | | | | クローン病 | World J Microbiol Biotechnol 2005; 21: 1175-1179 | 渡航歴のない中国のクローン病患者の腸組織に <i>Mycobacterium avium</i> subspecies <i>paratuberculosis</i> が存在するかを調べた。手術の際に得られた腸組織をPCRにより調べたところ、クローン病患者13例中9例(69.2%)および癌患者14例中2例(14.3%)が本菌に陽性であり、クローン病は本菌と有意な関連があることが示された。中国では牛乳の生産と消費が増加しており、クローン病も増加していることから、乳牛および牛乳における本菌の調査が必要である。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|---------------|--|---------|------|----------|------|----|----|------|---------|--|---|
| 190 | 2006/3/20 | 50996 | 社団法人 北里研究所 | コレラワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン | ベプトン | ウシ乳 | 中国、ポーランド | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 狂犬病 | CDC 2005年12月23日 http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies | 2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧告した。 |
| | | | | | | | | | | | | クローン病 | World J Microbiol Biotechnol 2005; 21: 1175-1179 | 渡航歴のない中国のクローン病患者の腸組織に Mycobacterium avium subspecies paratuberculosis が存在するかを調べた。手術の際に得られた腸組織をPCRにより調べたところ、クローン病患者13例中9例(69.2%)および癌患者14例中2例(14.3%)が本菌に陽性であり、クローン病は本菌と有意な関連があることが示された。中国では牛乳の生産と消費が増加しており、クローン病も増加していることから、乳牛および牛乳における本菌の調査が必要である。 |
| 191 | 2006/3/20 | 50997 | 社団法人 北里研究所 | コレラワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン | スキムミルク | ウシ乳 | 米国 | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 狂犬病 | CDC 2005年12月23日 http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies | 2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧告した。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|---------------|---------|--------------------|------|-------------|------|----|----|------|---------|--|--|
| | | | | | | | | | | | | クローン病 | World J Microbiol Biotechnol 2005; 21: 1175-1179 | 渡航歴のない中国のクローン病患者の腸組織に Mycobacterium avium subspecies paratuberculosisが存在するかを調べた。手術の際に得られた腸組織をPCRにより調べたところ、クローン病患者13例中9例(69.2%)および癌患者14例中2例(14.3%)が本菌に陽性であり、クローン病は本菌と有意な関連があることが示された。中国では牛乳の生産と消費が増加しており、クローン病も増加していることから、乳牛および牛乳における本菌の調査が必要である。 |
| 192 | 2006/3/20 | 50998 | 社団法人 北里研究所 | コレラワクチン | ビーフェ キストラク ト | ウシ筋肉 | オーストラ リア | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 狂犬病 | CDC 2005年12月23日 http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies | 2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧めた。 |
| | | | | | | | | | | | | クローン病 | World J Microbiol Biotechnol 2005; 21: 1175-1179 | 渡航歴のない中国のクローン病患者の腸組織に Mycobacterium avium subspecies paratuberculosisが存在するかを調べた。手術の際に得られた腸組織をPCRにより調べたところ、クローン病患者13例中9例(69.2%)および癌患者14例中2例(14.3%)が本菌に陽性であり、クローン病は本菌と有意な関連があることが示された。中国では牛乳の生産と消費が増加しており、クローン病も増加していることから、乳牛および牛乳における本菌の調査が必要である。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|---------------|---------------------------------------|-------------|------|--------------------------|------|----|----|------|---------|--|---|
| 193 | 2006/3/20 | 50999 | 社団法人 北里研究所 | コレラワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン | カザミノ酸 | ウシ乳 | ニュージー ランド、オース トラリア | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 狂犬病 | CDC 2005年12月23 日 http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies | 2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧告した。 |
| | | | | | | | | | | | | クローン病 | World J Microbiol Biotechnol 2005; 21: 1175-1179 | 渡航歴のない中国のクローン病患者の腸組織に Mycobacterium avium subspecies paratuberculosis が存在するかを調べた。手術の際に得られた腸組織をPCRにより調べたところ、クローン病患者13例中9例(69.2%)および癌患者14例中2例(14.3%)が本菌に陽性であり、クローン病は本菌と有意な関連があることが示された。中国では牛乳の生産と消費が増加しており、クローン病も増加していることから、乳牛および牛乳における本菌の調査が必要である。 |
| 194 | 2006/3/20 | 51000 | 社団法人 北里研究所 | コレラワクチン | ウシ心臓 抽出物 | ウシ心臓 | 米国 | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 狂犬病 | CDC 2005年12月23 日 http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies | 2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧告した。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|--------------------|--|---------|----------|------------------|------|----|----|------|-----------|---|--|
| | | | | | | | | | | | | クローン病 | World J Microbiol Biotechnol 2005; 21: 1175-1179 | 渡航歴のない中国のクローン病患者の腸組織に Mycobacterium avium subspecies paratuberculosisが存在するかを調べた。手術の際に得られた腸組織をPCRにより調べたところ、クローン病患者13例中9例(69.2%)および癌患者14例中2例(14.3%)が本菌に陽性であり、クローン病は本菌と有意な関連があることが示された。中国では牛乳の生産と消費が増加しており、クローン病も増加していることから、乳牛および牛乳における本菌の調査が必要である。 |
| 195 | 2006/3/20 | 51001 | 財団法人 化学及血清療法研究所 | インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン | 発育鶏卵 | ニワトリ発育鶏卵 | 日本 | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | トリインフルエンザ | J Infect Dis 2005; 192: 1318-1322 | 1999年から2003年に養鶏場労働者から集めた血清検体983例を分析し、イタリアで流行したインフルエンザの原因となったトリインフルエンザウイルスについて調べた。低病原性トリインフルエンザH7N3ウイルスが流行した2003年に集められた検体の3.8%で抗H7N3抗体および高病原性インフルエンザH7N1に対する抗体である抗H7N1抗体の両方が検出された。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | 厚生労働省 平成18年1月10日 http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html | 平成17年6月以降、高病原性鳥インフルエンザが確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等及び防疫業者の一部に対し、感染症の有無を確認するために健康状態及びウイルス検査を実施したが、インフルエンザ様症状を示す者はなく、PCR検査によるウイルス遺伝子検査の結果はすべて陰性であった。また、血清中和抗体検査では、第1回抗体検査と第2回抗体検査との間で4倍以上の抗体価上昇が15例で見られた。全体としては353名中77名が陽性と判定された。 |
| 196 | 2006/3/20 | 51002 | 財団法人 化学及血清療法研究所 | ウイルス治療血清 | 血清 | ウサギ血液 | | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 197 | 2006/3/20 | 51003 | 財団法人 化学及血清療法研究所 | 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン | カザミン酸 | ウシ乳 | オーストラリア、ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------------------------|---|-----------------------------|--------|---------------------|------|----|----|------|---------|----|----|
| 198 | 2006/3/20 | 51004 | 財団法人 化学及血 清療法研 究所 | 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド コレラワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン 破傷風トキソイド | スキムミ ルク | ウシ乳 | アメリカ | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 199 | 2006/3/20 | 51005 | 財団法人 化学及血 清療法研 究所 | 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ワイル病治療血清 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 破傷風トキソイド | ポリペプ トン | ウシ乳 | 中国、 ニュージ ーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 200 | 2006/3/20 | 51006 | 財団法人 化学及血 清療法研 究所 | 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 破傷風トキソイド | 肝臓 | ウシ肝臓 | オーストラ リア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 201 | 2006/3/20 | 51007 | 財団法人 化学及血 清療法研 究所 | 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド コレラワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 破傷風トキソイド | 肉 | ウシ肉 | オーストラ リア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 202 | 2006/3/20 | 51008 | 財団法人 化学及血 清療法研 究所 | コレラワクチン | ハートイ ンフュー ジョンア ガー | ウシ乳・心臓 | | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 203 | 2006/3/20 | 51009 | 財団法人 化学及血 清療法研 究所 | コレラワクチン | ハートイ ンフュー ジョンブ イヨン | ウシ乳・心臓 | | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 204 | 2006/3/20 | 51010 | 財団法人 化学及血 清療法研 究所 | 乾燥はぶウマ抗毒素 | はぶウマ 抗毒素 | ウマ血液 | 日本 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来 成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正 使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------------------------|---|--------------|-------------|--------------|------|----|----|----------|---------|----|----|
| 205 | 2006/3/20 | 51011 | 財団法人 化学及血 清療法研 究所 | 乾燥まむしウマ抗毒素 | まむしウ マ抗毒素 | ウマ血液 | 日本 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 206 | 2006/3/20 | 51012 | 財団法人 化学及血 清療法研 究所 | 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド ワイル病治療血清 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン | 血清 | ウマ血液 | ニュージ ーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 207 | 2006/3/20 | 51013 | 財団法人 化学及血 清療法研 究所 | 乾燥はぶウマ抗毒素 乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ガスえそ抗毒素 ガスえそウマ抗毒素 乾燥ジフテリア抗毒素 乾燥ボツリヌス抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン | ペプシン | ブタ胃 | アメリカ | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 208 | 2006/3/20 | 51014 | 財団法人 化学及血 清療法研 究所 | ワイル病治療血清 | 肝臓 | モルモット肝 臓 | | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 209 | 2006/3/20 | 51015 | 財団法人 化学及血 清療法研 究所 | ワイル病治療血清 | 血液 | モルモット血 液 | | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 210 | 2006/3/20 | 51016 | 財団法人 化学及血 清療法研 究所 | 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 破傷風トキソイド | ハートエ キス | クジラ心臓 | 捕鯨国:日 本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 211 | 2006/3/20 | 51017 | 財団法人 化学及血 清療法研 究所 | 乾燥はぶウマ抗毒素 | はぶ毒 | ハブ毒素 | 日本 | 原材料 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来 成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正 使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------------------------|--|----------------------------|---|------------------------|---------------------------|----|----|----------|---------|----|----|
| 212 | 2006/3/20 | 51018 | 財団法人 化学及血 清療法研 究所 | 乾燥まむしワマ抗毒素 | まむし毒 | マムシ毒素 | 日本 | 原材料 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 213 | 2006/3/20 | 51019 | 財団法人 化学及血 清療法研 究所 | 乾燥日本脳炎ワクチン①、③ 乾燥弱毒生麻しんワクチン② 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン④ 乾燥弱毒生風しんワクチン⑤ 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン⑥ | 乳糖 | ウシ乳 | ニュージー ランド | ①、③～ ⑥添加物 ②製造工 程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 214 | 2006/3/20 | 51020 | 財団法人 化学及血 清療法研 究所 | 乾燥日本脳炎ワクチン 日本脳炎ワクチン | 脳 | マウス脳 | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 215 | 2006/3/22 | 51021 | 萬有製薬 株式会社 | 肺炎球菌ワクチン | ウサギ脱 繊維血液 | ウサギ血液 | 米国、カナ ダ | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 216 | 2006/3/22 | 51022 | 萬有製薬 株式会社 | 肺炎球菌ワクチン | ハートイ ンフェー ジョン培 地 | ウシ心臓、ウシ 骨格筋、ウシ脂 肪細胞、ウシ骨 髄、ウシ結合組 織 | 米国、カナ ダ、オース トラリア | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 217 | 2006/3/22 | 51023 | 萬有製薬 株式会社 | 肺炎球菌ワクチン | スキムミ ルク | ウシ乳 | 米国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 218 | 2006/3/22 | 51024 | 萬有製薬 株式会社 | 肺炎球菌ワクチン | リボヌクレ アーゼ | ウシ膵臓 | 米国、カナ ダ | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 219 | 2006/3/22 | 51025 | 萬有製薬 株式会社 | 肺炎球菌ワクチン | デオキシ リボヌクレ アーゼ | ウシ膵臓 | 米国、カナ ダ | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 220 | 2006/3/22 | 51026 | 萬有製薬 株式会社 | 肺炎球菌ワクチン | トリプシン | ウシ膵臓 | 米国、カナ ダ | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 221 | 2006/3/22 | 51027 | 萬有製薬 株式会社 | 肺炎球菌ワクチン | 肺炎球菌 莢膜ポリ サッカライ ド | 肺炎球菌莢 膜 | 米国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|-----------|-------------------|-------------|--------|-----|------|----|----|------|------------------|--|---|
| 222 | 2006/3/22 | 51028 | ファイザー株式会社 | ダルテバリンナトリウム | ダルテバリンナトリウム | ブタの腸 | 米国 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | 炭疽 | ProMED 20050906-0060 ProMED 20050902-0050 | ロシアのRostov地域で今年(2005年)3例目のブタ炭疽症例が発見された。このブタは炭疽ワクチン未接種であった。生物学的検査、顕微鏡検査、細菌学検査によって、炭疽菌感染と確定された。 |
| 223 | 2006/3/22 | 51029 | 田辺製薬株式会社 | インプリキシマブ(遺伝子組み換え) | マウス骨髄腫由来細胞 | マウス骨髄腫 | | 製造工程 | 有 | 無 | 有 | 脳症 | J Virol 2005; 79: 11858-11863 | 伝達性ミンク脳症(TME)HY株またはDY株神経外接種後の神経侵入におけるリンパ細網系組織の役割をハムスターを用いて調べた。腹腔内接種後、DY株は脾臓やリンパ節では検出されず、腹腔やリンパ節への接種または経口投与後は臨床症状は観察されなかったが、舌内接種後プリオン病を発症し、舌および舌を神経支配する脳幹神経核で検出された。しかし、脾臓やリンパ節では検出されなかった。一方、HY株はこれらのすべての接種経路により感染した。 |
| | | | | | | | | | | | | BSE | FDA News; P05-68, 2005年10月4日 | 2005年10月4日、FDAは、BSEから消費者をより一層守るため、追加の「狂牛病」セーフガードを提案した。生後30ヶ月以上のウシの脳および脊髄、検査を受けていない全年齢のウシの脳および脊髄、脳および脊髄が除去されていない検査されていないウシの全ての部位などを、使用することを禁止するよう動物飼料規制を改正することを提案している。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Am J Pathol 2005; 167: 1033-1042 | ヒトCaco-2/TC7腸細胞を種々のプリオン株および感染した脳ホモジネートとともに培養した。BSE脳ホモジネートとともに培養すると、感染性ウシプリオンはエンドサイトーシスにより数分以内に腸細胞に取り込まれた。この取り込みは抗37 kDa/67 kDaラミニン受容体(LRP/LR)抗体の前処理により減少したことから、LRP/LRが感染性ウシプリオン受容体と同定された。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/ | 英国で、外科手術を介したvCJD伝播のリスクの可能性を低減させるための予防措置が拡大された。輸血を受けた約50名が追跡され、vCJDへの暴露の可能性が通知される予定である。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------|-------------------|--------------|------|--------|------|----|----|------|------------------|--|---|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | CDR Weekly 2005; 15(51) | 英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。2003年9月1日から2004年8月31日の間に、54例が報告され、そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し、20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し、特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。 |
| | | | | | | | | | | | | 脳症 | New Scientist Breaking News 2006年1月26日 | 正常なシカのプリオンを生成できるトランスジェニックマウスを作成し、マウスの脳に、慢性消耗病(CWD)に感染したシカの脳またはももの筋肉を注射したところ、12から18ヶ月後に脳症を発症した。自然界で感染した動物の肉を食べた動物が感染するかは不明である。 |
| 224 | 2006/3/22 | 51030 | 田辺製薬株式会社 | インプリキシマブ(遺伝子組み換え) | ウシアポトランスフェリン | ウシ血液 | 米国、カナダ | 製造工程 | 有 | 無 | 有 | 脳症 | J Virol 2005; 79: 11858-11863 | 伝達性ミンク脳症(TME)HY株またはDY株神経外接種後の神経侵入におけるリンパ細網系組織の役割をハムスターを用いて調べた。腹腔内接種後、DY株は脾臓やリンパ節では検出されず、腹腔やリンパ節への接種または経口投与後は臨床症状は観察されなかったが、舌内接種後プリオン病を発症し、舌および舌を神経支配する脳幹神経核で検出された。しかし、脾臓やリンパ節では検出されなかった。一方、HY株はこれらのすべての接種経路により感染した。 |
| | | | | | | | | | | | | BSE | FDA News; P05-68, 2005年10月4日 | 2005年10月4日、FDAは、BSEから消費者をより一層守るため、追加の「狂牛病」セーフガードを提案した。生後30ヶ月以上のウシの脳および脊髄、検査を受けていない全年齢のウシの脳および脊髄、脳および脊髄が除去されていない検査されていないウシの全ての部位などを、使用することを禁止するよう動物飼料規制を改正することを提案している。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Am J Pathol 2005; 167: 1033-1042 | ヒトCaco-2/TC7腸細胞を種々のプリオン株および感染した脳ホモジネートとともに培養した。BSE脳ホモジネートとともに培養すると、感染性ウシプリオンはエンドサイトーシスにより数分以内に腸細胞に取り込まれた。この取り込みは抗37 kDa/67 kDaラミニン受容体(LRP/LR)抗体の前処理により減少したことから、LRP/LRが感染性ウシプリオン受容体と同定された。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------|-------------------|---------|------|--------|------|----|----|------|------------------|---|---|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/ | 英国で、外科手術を介したvCJD伝播のリスクの可能性を低減させるための予防措置が拡大された。輸血を受けた約50名が追跡され、vCJDへの暴露の可能性が通知される予定である。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | GDR Weekly 2005; 15(51) | 英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。2003年9月1日から2004年8月31日の間に、54例が報告され、そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し、20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し、特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。 |
| | | | | | | | | | | | | 脳症 | New Scientist Breaking News 2006年1月26日 | 正常なシカのプリオンを生成できるトランスジェニックマウスを作成し、マウスの脳に、慢性消耗病(CWD)に感染したシカの脳またはももの筋肉を注射したところ、12から18ヶ月後に脳症を発症した。自然界で感染した動物の肉を食べた動物が感染するかは不明である。 |
| 225 | 2006/3/22 | 51031 | 田辺製薬株式会社 | インフラキシマブ(遺伝子組み換え) | ウシリポ蛋白質 | ウシ血液 | 米国、カナダ | 製造工程 | 有 | 無 | 有 | 脳症 | J Virol 2005; 79: 11858-11863 | 伝達性ミンク脳症(TME)HY株またはDY株神経外接種後の神経侵入におけるリンパ細網系組織の役割をハムスターを用いて調べた。腹腔内接種後、DY株は脾臓やリンパ節では検出されず、腹腔やリンパ節への接種または経口投与後は臨床症状は観察されなかったが、舌内接種後プリオン病を発症し、舌および舌を神経支配する脳幹神経核で検出された。しかし、脾臓やリンパ節では検出されなかった。一方、HY株はこれらのすべての接種経路により感染した。 |
| | | | | | | | | | | | | BSE | FDA News; P05-68, 2005年10月4日 | 2005年10月4日、FDAは、BSEから消費者をより一層守るため、追加の「狂牛病」セーフガードを提案した。生後30ヶ月以上のウシの脳および脊髄、検査を受けていない全年齢のウシの脳および脊髄、脳および脊髄が除去されていない検査されていないウシの全ての部位などを、使用することを禁止するよう動物飼料規制を改正することを提案している。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------|-------------------|---------|------|----------------|------|----|----|------|------------------|--|---|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Am J Pathol 2005; 167: 1033-1042 | ヒトCaco-2/TC7腸細胞を種々のプリオン株および感染した脳ホモジネートとともに培養した。BSE脳ホモジネートとともに培養すると、感染性ウシプリオンはエンドサイトーシスにより数分以内に腸細胞に取り込まれた。この取り込みは抗37 kDa/67 kDaラミニン受容体(LRP/LR)抗体の前処理により減少したことから、LRP/LRが感染性ウシプリオン受容体と同定された。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/ | 英国で、外科手術を介したvCJD伝播のリスクの可能性を低減させるための予防措置が拡大された。輸血を受けた約50名が追跡され、vCJDへの暴露の可能性が通知される予定である。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | CDR Weekly 2005; 15(51) | 英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。2003年9月1日から2004年8月31日の間に、54例が報告され、そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し、20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し、特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。 |
| | | | | | | | | | | | | 脳症 | New Scientist Breaking News 2006年1月26日 | 正常なシカのプリオンを生成できるトランスジェニックマウスを作成し、マウスの脳に、慢性消耗病(CWD)に感染したシカの脳またはももの筋肉を注射したところ、12から18ヶ月後に脳症を発症した。自然界で感染した動物の肉を食べた動物が感染するかは不明である。 |
| 226 | 2006/3/22 | 51032 | 田辺製薬株式会社 | インフリキシマブ(遺伝子組み換え) | ウシ胎児血清 | ウシ血液 | 米国、カナダ、オーストラリア | 製造工程 | 有 | 無 | 有 | 脳症 | J Virol 2005; 79: 11858-11863 | 伝達性ミンク脳症(TME)HY株またはDY株神経外接種後の神経侵入におけるリンパ細網系組織の役割をハムスターを用いて調べた。腹腔内接種後、DY株は脾臓やリンパ節では検出されず、腹腔やリンパ節への接種または経口投与後は臨床症状は観察されなかったが、舌内接種後プリオン病を発症し、舌および舌を神経支配する脳幹神経核で検出された。しかし、脾臓やリンパ節では検出されなかった。一方、HY株はこれらのすべての接種経路により感染した。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|---|---|
| | | | | | | | | | | | | BSE | FDA News; P05-68, 2005年10月4日 | 2005年10月4日、FDAは、BSEから消費者をより一層守るため、追加の「狂牛病」セーフガードを提案した。生後30ヶ月以上のウシの脳および脊髄、検査を受けていない全年齢のウシの脳および脊髄、脳および脊髄が除去されていない検査されていないウシの全ての部位などを、使用することを禁止するよう動物飼料規制を改正することを提案している。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Am J Pathol 2005; 167: 1033-1042 | ヒトCaco-2/TC7腸細胞を種々のプリオン株および感染した脳ホモジネートとともに培養した。BSE脳ホモジネートとともに培養すると、感染性ウシプリオンはエンドサイトーシスにより数分以内に腸細胞に取り込まれた。この取り込みは抗37 kDa/67 kDaラミニン受容体(LRP/LR)抗体の前処理により減少したことから、LRP/LRが感染性ウシプリオン受容体と同定された。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/ | 英国で、外科手術を介したvCJD伝播のリスクの可能性を低減させるための予防措置が拡大された。輸血を受けた約50名が追跡され、vCJDへの暴露の可能性が通知される予定である。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | CDR Weekly 2005; 15(51) | 英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。2003年9月1日から2004年8月31日の間に、54例が報告され、そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し、20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し、特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。 |
| | | | | | | | | | | | | 脳症 | New Scientist Breaking News 2006年1月26日 | 正常なシカのプリオンを生成できるトランスジェニックマウスを作成し、マウスの脳に、慢性消耗病(CWD)に感染したシカの脳またはももの筋肉を注射したところ、12から18ヶ月後に脳症を発症した。自然界で感染した動物の肉を食べた動物が感染するかは不明である。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来 成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正 使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|--------------|-------------------|---------------|---------------|-----|------|----|----|----------|--------------------------|---|---|
| 227 | 2006/3/22 | 51033 | 田辺製薬 株式会社 | インプリキンマブ(遺伝子組み換え) | ウシ蛋白 加水分解物 | ウシ脾臓、ウ シ血液 | 米国 | 製造工程 | 有 | 無 | 有 | 脳症 | J Virol 2005; 79: 11858-11863 | 伝達性ミンク脳症(TME)HY株またはDY株神経外接種後の神経侵入におけるリンパ細網系組織の役割をハムスターを用いて調べた。腹腔内接種後、DY株は脾臓やリンパ節では検出されず、腹腔やリンパ節への接種または経口投与後は臨床症状は観察されなかったが、舌内接種後プリオン病を発症し、舌および舌を神経支配する脳幹神経核で検出された。しかし、脾臓やリンパ節では検出されなかった。一方、HY株はこれらのすべての接種経路により感染した。 |
| | | | | | | | | | | | | BSE | FDA News; P05-68, 2005年10月4日 | 2005年10月4日、FDAは、BSEから消費者をより一層守るため、追加の「狂牛病」セーフガードを提案した。生後30ヶ月以上のウシの脳および脊髄、検査を受けていない全年齢のウシの脳および脊髄、脳および脊髄が除去されていない検査されていないウシの全ての部位などを、使用することを禁止するよう動物飼料規制を改正することを提案している。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病 | Am J Pathol 2005; 167: 1033-1042 | ヒトCaco-2/TC7腸細胞を種々のプリオン株および感染した脳ホモジネートとともに培養した。BSE脳ホモジネートとともに培養すると、感染性ウシプリオンはエンドサイトーシスにより数分以内に腸細胞に取り込まれた。この取り込みは抗37 kDa/67 kDaラミニン受容体(LRP/LR)抗体の前処理により減少したことから、LRP/LRが感染性ウシプリオン受容体と同定された。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病 | 英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov. uk/PublicationsAnd Statistics/PressRel eases/ | 英国で、外科手術を介したvCJD伝播のリスクの可能性を低減させるための予防措置が拡大された。輸血を受けた約50名が追跡され、vCJDへの暴露の可能性が通知される予定である。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病 | CDR Weekly 2005; 15(51) | 英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。2003年9月1日から2004年8月31日の間に、54例が報告され、そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し、20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し、特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------|-------------------|-----------|------|--------|------|----|----|------|------------------|--|---|
| | | | | | | | | | | | | 脳症 | New Scientist Breaking News 2006年1月26日 | 正常なシカのプリオンを生成できるトランスジェニックマウスを作成し、マウスの脳に、慢性消耗病(CWD)に感染したシカの脳またはももの筋肉を注射したところ、12から18ヶ月後に脳症を発症した。自然界で感染した動物の肉を食べた動物が感染するかは不明である。 |
| 228 | 2006/3/22 | 51034 | 田辺製薬株式会社 | インフリキシマブ(遺伝子組み換え) | ウシ血清アルブミン | ウシ血液 | 米国、カナダ | 製造工程 | 有 | 無 | 有 | 脳症 | J Virol 2005; 79: 11858-11863 | 伝達性ミンク脳症(TME)HY株またはDY株神経外接種後の神経侵入におけるリンパ細網系組織の役割をハムスターを用いて調べた。腹腔内接種後、DY株は脾臓やリンパ節では検出されず、腹腔やリンパ節への接種または経口投与後は臨床症状は観察されなかったが、舌内接種後プリオン病を発症し、舌および舌を神経支配する脳幹神経核で検出された。しかし、脾臓やリンパ節では検出されなかった。一方、HY株はこれらのすべての接種経路により感染した。 |
| | | | | | | | | | | | | BSE | FDA News; P05-68, 2005年10月4日 | 2005年10月4日、FDAは、BSEから消費者をより一層守るため、追加の「狂牛病」セーフガードを提案した。生後30ヶ月以上のウシの脳および脊髄、検査を受けていない全年齢のウシの脳および脊髄、脳および脊髄が除去されていない検査されていないウシの全ての部位などを、使用することを禁止するよう動物飼料規制を改正することを提案している。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Am J Pathol 2005; 167: 1033-1042 | ヒトCaco-2/TC7腸細胞を種々のプリオン株および感染した脳ホモジネートとともに培養した。BSE脳ホモジネートとともに培養すると、感染性ウシプリオンはエンドサイトーシスにより数分以内に腸細胞に取り込まれた。この取り込みは抗37 kDa/67 kDaラミニン受容体(LRP/LR)抗体の前処理により減少したことから、LRP/LRが感染性ウシプリオン受容体と同定された。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------|-------------------|---------|------|-------------------------|------|----|----|------|------------------|---|---|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/ | 英国で、外科手術を介したvCJD伝播のリスクの可能性を低減させるための予防措置が拡大された。輸血を受けた約50名が追跡され、vCJDへの暴露の可能性が通知される予定である。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | GDR Weekly 2005; 15(51) | 英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。2003年9月1日から2004年8月31日の間に、54例が報告され、そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し、20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し、特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。 |
| | | | | | | | | | | | | 脳症 | New Scientist Breaking News 2006年1月26日 | 正常なシカのプリオンを生成できるトランスジェニックマウスを作成し、マウスの脳に、慢性消耗病(CWD)に感染したシカの脳またはももの筋肉を注射したところ、12から18ヶ月後に脳症を発症した。自然界で感染した動物の肉を食べた動物が感染するかは不明である。 |
| 229 | 2006/3/22 | 51035 | 田辺製薬株式会社 | インフリキシマブ(遺伝子組み換え) | ウシインスリン | ウシ膵臓 | 米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド | 製造工程 | 有 | 無 | 有 | 脳症 | J Virol 2005; 79: 11858-11863 | 伝達性ミンク脳症(TME)HY株またはDY株神経外接種後の神経侵入におけるリンパ細網系組織の役割をハムスターを用いて調べた。腹腔内接種後、DY株は脾臓やリンパ節では検出されず、腹腔やリンパ節への接種または経口投与後は臨床症状は観察されなかったが、舌内接種後プリオン病を発症し、舌および舌を神経支配する脳幹神経核で検出された。しかし、脾臓やリンパ節では検出されなかった。一方、HY株はこれらのすべての接種経路により感染した。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|---|---|
| | | | | | | | | | | | | BSE | FDA News; P05-68, 2005年10月4日 | 2005年10月4日、FDAは、BSEから消費者をより一層守るため、追加の「狂牛病」セーフガードを提案した。生後30ヶ月以上のウシの脳および脊髄、検査を受けていない全年齢のウシの脳および脊髄、脳および脊髄が除去されていない検査されていないウシの全ての部位などを、使用することを禁止するよう動物飼料規制を改正することを提案している。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Am J Pathol 2005; 167: 1033-1042 | ヒトCaco-2/TC7腸細胞を種々のプリオン株および感染した脳ホモジネートとともに培養した。BSE脳ホモジネートとともに培養すると、感染性ウシプリオンはエンドサイトーシスにより数分以内に腸細胞に取り込まれた。この取り込みは抗37 kDa/67 kDaラミニン受容体(LRP/LR)抗体の前処理により減少したことから、LRP/LRが感染性ウシプリオン受容体と同定された。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/ | 英国で、外科手術を介したvCJD伝播のリスクの可能性を低減させるための予防措置が拡大された。輸血を受けた約50名が追跡され、vCJDへの暴露の可能性が通知される予定である。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | CDR Weekly 2005; 15(51) | 英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。2003年9月1日から2004年8月31日の間に、54例が報告され、そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し、20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し、特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。 |
| | | | | | | | | | | | | 脳症 | New Scientist Breaking News 2006年1月26日 | 正常なシカのプリオンを生成できるトランスジェニックマウスを作成し、マウスの脳に、慢性消耗病(CWD)に感染したシカの脳またはももの筋肉を注射したところ、12から18ヶ月後に脳症を発症した。自然界で感染した動物の肉を食べた動物が感染するかは不明である。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------|-------------------|------------------|------------------------------------|-------------------------|------|----|----|------|------------------|---|---|
| 230 | 2006/3/22 | 51036 | 田辺製薬株式会社 | インプリキシマブ(遺伝子組み換え) | インプリキシマブ(遺伝子組換え) | マウス脾臓細胞と骨髄腫細胞を融合した細胞にヒト遺伝子を導入した細胞株 | 米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド | 有効成分 | 有 | 無 | 有 | 脳症 | J Virol 2005; 79: 11858-11863 | 伝達性ミンク脳症(TME)HY株またはDY株神経外接種後の神経侵入におけるリンパ細網系組織の役割をハムスターを用いて調べた。腹腔内接種後、DY株は脾臓やリンパ節では検出されず、腹腔やリンパ節への接種または経口投与後は臨床症状は観察されなかったが、舌内接種後プリオン病を発症し、舌および舌を神経支配する脳幹神経核で検出された。しかし、脾臓やリンパ節では検出されなかった。一方、HY株はこれらのすべての接種経路により感染した。 |
| | | | | | | | | | | | | BSE | FDA News; P05-68; 2005年10月4日 | 2005年10月4日、FDAは、BSEから消費者をより一層守るため、追加の「狂牛病」セーフガードを提案した。生後30ヶ月以上のウシの脳および脊髄、検査を受けていない全年齢のウシの脳および脊髄、脳および脊髄が除去されていない検査されていないウシの全ての部位などを、使用することを禁止するよう動物飼料規制を改正することを提案している。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Am J Pathol 2005; 167: 1033-1042 | ヒトCaco-2/TC7腸細胞を種々のプリオン株および感染した脳ホモジネートとともに培養した。BSE脳ホモジネートとともに培養すると、感染性ウシプリオンはエンドサイトーシスにより数分以内に腸細胞に取り込まれた。この取り込みは抗37 kDa/67 kDaラミニン受容体(LRP/LR)抗体の前処理により減少したことから、LRP/LRが感染性ウシプリオン受容体と同定された。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/ | 英国で、外科手術を介したvCJD伝播のリスクの可能性を低減させるための予防措置が拡大された。輸血を受けた約50名が追跡され、vCJDへの暴露の可能性が通知される予定である。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来 成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正 使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------|---------------------|-------------------------|-----------|-----|------|----|----|----------|--------------------------|--|--|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クローン フェルト・ヤコブ 病 | CDR Weekly 2005; 15(51) | 英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。 2003年9月1日から2004年8月31日の間に、54例が報告され、そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し、20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し、特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。 |
| | | | | | | | | | | | | 脳症 | New Scientist Breaking News 2006年1月26日 | 正常なシカのプリオンを生成できるトランスジェニックマウスを作成し、マウスの脳に、慢性消耗病(GWD)に感染したシカの脳またはももの筋肉を注射したところ、12から18ヶ月後に脳症を発症した。自然界で感染した動物の肉を食べた動物が感染するかは不明である。 |
| 231 | 2006/3/23 | 51037 | 持田製薬株式会社 | インターフェロナルファ(BALL-1) | インターフェロナルファ(BALL-1) | ヒトリンパ芽球細胞 | 日本 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 232 | 2006/3/23 | 51038 | 持田製薬株式会社 | インターフェロナルファ(BALL-1) | ウサギ抗血清 | ウサギ血液 | 米国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 233 | 2006/3/23 | 51039 | 持田製薬株式会社 | インターフェロナルファ(BALL-1) | ふ化鶏卵で増殖させたセンダイウイルス | ふ化鶏卵 | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 234 | 2006/3/23 | 51040 | 持田製薬株式会社 | インターフェロナルファ(BALL-1) | マウスハイブドーマ由来モノクローナル抗体 | マウス脾臓 | 英国 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 235 | 2006/3/23 | 51041 | 持田製薬株式会社 | インターフェロナルファ(BALL-1) | ハムスターの皮下で増殖させたヒトリンパ芽球細胞 | ハムスター | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------|-----------------------------------|-----------|--------|------------------|----------------|----|----|------|------------------|---|--|
| 236 | 2006/3/23 | 51042 | 持田製薬株式会社 | インターフェロンアルファ(BALL-1) | ウシ胎仔血清 | ウシ胎仔血液 | オーストラリア | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | Pro MED 20060218-0030 | クロアチア政府は国内初となるBSE症例を確認したと明らかにした。確定診断のため、ウシ(5歳)の脳検体が英国の研究所に送られた。 |
| 237 | 2006/3/23 | 51043 | 持田製薬株式会社 | 日本薬局方トロンビン | トロンビン | ウシ血液 | ニュージーランド、オーストラリア | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | Pro MED 20060218-0030 | クロアチア政府は国内初となるBSE症例を確認したと明らかにした。確定診断のため、ウシ(5歳)の脳検体が英国の研究所に送られた。 |
| 238 | 2006/3/23 | 51044 | 持田製薬株式会社 | 日本薬局方トロンビン | トロンボプラスチン | ウシ肺 | ニュージーランド、オーストラリア | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | Pro MED 20060218-0030 | クロアチア政府は国内初となるBSE症例を確認したと明らかにした。確定診断のため、ウシ(5歳)の脳検体が英国の研究所に送られた。 |
| 239 | 2006/3/23 | 51045 | 持田製薬株式会社 | 硫酸フラジオマイシン・結晶トリブシン① インターフェロン ベータ② | トリブシン | ウシ膵臓 | ニュージーランド | ①有効成分 ②製造工程 | 有 | 無 | 無 | 変異型クローンフェルト・ヤコブ病 | Pro MED 20060218-0030 | クロアチア政府は国内初となるBSE症例を確認したと明らかにした。確定診断のため、ウシ(5歳)の脳検体が英国の研究所に送られた。 |
| 240 | 2006/3/23 | 51046 | 持田製薬株式会社 | ウロキナーゼ | ウロキナーゼ | ヒト尿 | 中国 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | ウエストナイルウイルス | 厚生労働省 平成17年10月3日 | 厚生労働省は2005年10月3日、米国から帰国した男性会社員(30歳代)が、米国で流行中のウエストナイル熱と診断されたと発表した。日本で初のWNV感染例である。この患者は米国で感染した可能性が高い。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | Emerg Infect Dis 2005; 11: 1294-1296 | 2004年米国で、WNV性脳炎発症8日後の65歳患者から採取した尿検体からWNV RNAが検出された。しかし、その後の尿検体からは検出されなかった。血液中の中和抗体が尿へのWNV排泄を阻害しているのかもしれない。今後WNV感染患者の尿検体検査時期を検討する必要がある。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|---|--|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Science 2005; 310: 324-326 | 慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイビー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイビーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | CDC 2005年11月7日 http://www.cdc.gov/flu/avian/outbreaks/asia.htm | WHO鳥インフルエンザH5N1型の更新情報。2003年～05年のアジア、ヨーロッパにおけるH5N1型鳥インフルエンザ感染の動物およびヒトでの進展状況。動物では家禽、渡り鳥、ブタ、ネコ科動物での感染が確認されている。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | 厚生労働省 平成18年1月10日 http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html | 平成17年6月以降、高病原性鳥インフルエンザが確認された茨城県及び埼玉県内の養鶏場の従業員等及び防疫業者の一部に対し、感染症の有無を確認するために健康状態及びウイルス検査を実施したが、インフルエンザ様症状を示す者はなく、PCR検査によるウイルス遺伝子検査の結果はすべて陰性であった。また、血清中和抗体検査では、第1回抗体検査と第2回抗体検査との間で4倍以上の抗体価上昇が15例で見られた。全体としては353名中77名が陽性と判定された。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | WHO/CSR 2006年1月19日 http://www.who.int/csr/don/2006_01_19/en/index.html | 中国衛生省はH5N1型トリインフルエンザウイルスによるヒト感染例をさらに1例確定した。この患者は四川省在住の35歳女性で、家禽選別者として働いていたが、発症9日目に死亡した。この症例は中国における9例目の確定診断例で、そのうち6例が死亡している。 |
| | | | | | | | | | | | | 細菌感染 | 第75回日本感染症学会西日本地方総会 2005年11月17-18日 | 50年ほど前に人工気胸術を受けた後、慢性被包化膿胸となり、咳、かつ痰が続いていた77歳女性が、発熱および病状の悪化のため緊急入院した。かつ痰検査を行ったところ、抗酸菌が検出され、分離菌はMycobacterium mageritenseと同定された。本症例は日本におけるヒトの本菌感染症の第一例目である。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------------|-------------|-------------|--------|---------|------|----|----|------|-----------|---|---|
| | | | | | | | | | | | | 細菌感染 | J Clin Microbiol 2006; 44: 278-279 | Bartonella alsaticaは野生ウサギに菌血症を引き起こすが、フランスで74歳の心内膜炎の男性患者から本菌が初めて同定された。この患者は3週間の発熱で入院し、弛張熱、喀血性の咳、心雑音、脾腫、下肢水腫などを呈し、大動脈瘤と大動脈弁輪周囲の膿瘍を有した。患者はウサギの飼育を担当していた。本菌は血清学的方法、培養、また大動脈弁切片のPCRにより同定された。 |
| | | | | | | | | | | | | ボツリヌス中毒 | IASR 2006; 27: 46-48 | 2004年12月に呼吸困難、意識障害で入院した9ヶ月の男児の便からE型ボツリヌス毒素とE型ボツリヌス産生性 Clostridium butyricumが検出され、本菌による乳児ボツリヌス症と診断された。感染源検査の結果、患者自宅の風呂排水口から同一の菌が検出された。本症例は日本で初めてのC. butyricumによる乳児ボツリヌス症と考えられる。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | WHO 2006年2月17日 http://www.who.int/csr/don/2006_02_17a/en/index.html | 2005年3月28日から2006年2月12日の間、フランス領レユニオンで1722例のチクングンヤが報告された。数学的モデルからの推計では2005年3月以降、11万人がチクングンヤウイルスに感染した可能性がある。南西インド洋の他の国でも報告があった。チクングンヤは死に至ることは希であるが、WHOは調査団を派遣する計画である。 |
| 241 | 2006/3/23 | 51047 | 伊藤ライフサイエンス株式会社 | ダルテパリンナトリウム | ダルテパリンナトリウム | ブタ小腸粘膜 | 中華人民共和国 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | E型肝炎 | CDR Weekly 2005; 15(45) | 英国保健省はWelsh National Public Health Serviceらと共同で、HEV流行地域への旅行に無関係なHEV感染患者の地域的、臨床的、分子疫学的特徴に関する研究を行った。1996年から2003年の間にE型肝炎と血清学的に診断された186例中、外国旅行に関係していない感染者は17例で、全て英国のブタのHEV株、遺伝子型3型に感染していた。本所見からE型肝炎はイングランドおよびウェールズに固有の型であることが示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | ProMed 20051224-0094 | 中国で30の省および自治区のうち11月中に8地区、12月に1地区の家禽で鳥インフルエンザの流行が続いている。2005年に中国では21の流行があり、144624羽の鳥が死亡し、2110万羽が処分された。WHOによるとヒトへの感染は5例あり、2例が死亡した。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------|-------|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|---|---|
| | | | | | | | | | | | | 感染 | ProMed 20060108-0060 | コンゴの西Kasai州で病死したブタを食べた80人以上が死亡した。肉不足のため、行政がこれを止めることは実質的に不可能である。汚染ブタは高熱と下痢で、数時間で死亡した。原因は不明である。 |
| 242 | 2006/3/23 | 51048 | 日本製薬株式会社 | トロンビン | トロンビン | 人血液 | 日本 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | E型肝炎 | CDR Weekly 2005;15(30) | 2004年イギリス全土の血液センターにより34件の輸血伝播感染症(TTI)の疑い例が報告され、1例のみが輸血によるE型肝炎であると確定された。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | N Engl J Med 2005; 353: 451-459 | 2003年と2004年のアメリカ赤十字のウエストナイルウイルス(WNV)検査プログラムからのデータを分析した。ルーチン検査で540例のドナーがWNV RNAに陽性で、そのうち362例がIgM抗体陰性であり、感染するおそれがあった。核酸増幅検査の迅速な実施により、陽性ドナーの同定がされ、感染性のある成分を除去することができた。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | N Engl J Med 2005; 353: 460-467 | 米国の血液システム研究所は2003年7月から、ウエストナイルウイルス(WNV)RNA検査のために16検体のミニプールについて核酸増幅試験を開始した。2003年7月1日から10月31日に、677,603供血が同検査を受け、183例が陽性で、検出率は0.027%であった。高発症地域からの供血で、ミニプールテスト陰性であった23,088供血を個別に検査したところ、低レベルのWNV血症30例が検出された。そのうち数例は抗体陰性で感染性があった。高発症地域での個別検査の必要性が裏付けられた。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Canadian Blood Service http://www.bloodservices.ca/CentreApps/Internet/UW_V502_MainEngine.nsf/web/ | カナダ血液サービスは、vCJDに関連したドナー規制(英仏滞在累計)および刺青、ピアス、鍼または電気分解治療を行った人、性的背景が不明なパートナーと性的接触を持った人、針で受傷したことのある人でのドナー不適格期間の短縮を決定した。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------|--|----------|------|-------------------------------|------|----|----|------|------------------|---|--|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Nat Med 2005 ;11: 982-985 | PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/ | 英国で外科手術を介したvCJD伝播のリスクを低減させるため、通知活動の次なる段階が開始される。輸血を受けた約50例が追跡調査され、潜在的なvCJD暴露を通知される。これはvCJDキャリアからの血液を輸血され、vCJDを発症した患者が3例報告されたことによる予防措置である。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | CDR Weekly 2006; 16(4) HIV/STIs Reports | 英国におけるHIVおよびAIDSの四半期最新情報(2005年12月末までのデータ)。HIV診断総数は増加を続けており、2005年度は7,700例を越えると予想される。2004年から2005年のHIV診断数増加の大部分は男性と性交渉を持つ男性が占める。現在のところ2005年の新規のAIDS診断数は474例であった。1982年のサーベイランス開始以降の英国での累計はHIV診断数76,850例、AIDS診断数21,898例となった。 |
| 243 | 2006/3/23 | 51049 | 日本製薬株式会社 | 人血清アルブミン(20%)①、②、⑥ 加熱人血漿たん白③、④ 人血清アルブミン(25%)⑤ 人血清アルブミン(5%)⑦ | 人血清アルブミン | 人血液 | ①③⑤日本 ②④現在製造していない ⑥⑦未発売 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | E型肝炎 | CDR Weekly 2005;15(30) | 2004年イギリス全土の血液センターにより34件の輸血伝播感染症(TTI)の疑い例が報告され、1例のみが輸血によるE型肝炎であると確定された。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | N Engl J Med 2005; 353: 451-459 | 2003年と2004年のアメリカ赤十字のウエストナイルウイルス(WNV)検査プログラムからのデータを分析した。ルーチン検査で540例のドナーがWNV RNAに陽性で、そのうち362例がIgM抗体陰性であり、感染するおそれがあった。核酸増幅検査の迅速な実施により、陽性ドナーの同定がされ、感染性のある成分を除去することができた。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|-------------------|--|--|
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | N Engl J Med 2005; 353: 460-467 | 米国の血液システム研究所は2003年7月から、ウエストナイルウイルス(WNV)RNA検査のために16検体のミニプールについて核酸増幅試験を開始した。2003年7月1日から10月31日に、677,603供血が同検査を受け、183例が陽性で、検出率は0.027%であった。高発症地域からの供血で、ミニプールテスト陰性であった23,088供血を個別に検査したところ、低レベルのWNV血症30例が検出された。そのうち数例は抗体陰性で感染性があつた。高発症地域での個別検査の必要性が裏付けられた。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クローンツフェルト・ヤコブ病 | Canadian Blood Service http://www.bloodservices.ca/CentreApps/Internet/UW_V502_MainEngine.nsf/web/ | カナダ血液サービスは、vCJDに関連したドナー規制(英仏滞在累計)および刺青、ピアス、鍼または電気分解治療を行った人、性的背景が不明なパートナーと性的接触を持った人、針で受傷したことのある人でのドナー不適格期間の短縮を決定した。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クローンツフェルト・ヤコブ病 | Nat. Med 2005 ;11: 982-985 | PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイビー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クローンツフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/ | 英国で外科手術を介したvCJD伝播のリスクを低減させるため、通知活動の次なる段階が開始される。輸血を受けた約50例が追跡調査され、潜在的なvCJD暴露を通知される。これはvCJDキャリアからの血液を輸血され、vCJDを発症した患者が3例報告されたことによる予防措置である。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------|----------------------------|--------------------------|------|-----------------|------|----|----|------|-------------|---|---|
| | | | | | | | | | | | | HIV | CDR Weekly 2006; 16(4) HIV/STIs Reports | 英国におけるHIVおよびAIDSの四半期最新情報(2005年12月末までのデータ)。HIV診断総数は増加を続けており、2005年度は7,700例を越えると予想される。2004年から2005年のHIV診断数増加の大部分は男性と性交渉を持つ男性が占める。現在のところ2005年の新規のAIDS診断数は474例であった。1982年のサーベイランス開始以降の英国での累計はHIV診断数76,850例、AIDS診断数21,898例となった。 |
| 244 | 2006/3/23 | 51050 | 日本製薬株式会社 | 乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン①、② | 乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリンG | 人血液 | ①日本(②現在製造していない) | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | E型肝炎 | CDR Weekly 2005;15(30) | 2004年イギリス全土の血液センターにより34件の輸血伝播感染症(TTI)の疑い例が報告され、1例のみが輸血によるE型肝炎であると確定された。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | N Engl J Med 2005; 353: 451-459 | 2003年と2004年のアメリカ赤十字のウエストナイルウイルス(WNV)検査プログラムからのデータを分析した。ルーチン検査で540例のドナーがWNV RNAに陽性で、そのうち362例がIgM抗体陰性であり、感染するおそれがあった。核酸増幅検査の迅速な実施により、陽性ドナーの同定がされ、感染性のある成分を除去することができた。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | N Engl J Med 2005; 353: 460-467 | 米国の血液システム研究所は2003年7月から、ウエストナイルウイルス(WNV)RNA検査のために16検体のミニプールについて核酸増幅試験を開始した。2003年7月1日から10月31日に、677,603供血が同検査を受け、183例が陽性で、検出率は0.027%であった。高発症地域からの供血で、ミニプールテスト陰性であった23,088供血を個別に検査したところ、低レベルのWNV血症30例が検出された。そのうち数例は抗体陰性で感染性があった。高発症地域での個別検査の必要性が裏付けられた。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------|----------------|------------|------|-----|------|----|----|------|------------------|--|--|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Canadian Blood Service http://www.bloodservices.ca/CentreApps/Internet/UW_V502_MainEngine.nsf/web/ | カナダ血液サービスは、vCJDに関連したドナー規制(英仏滞在累計)および刺青、ピアス、鍼または電気分解治療を行った人、性的背景が不明なパートナーと性的接触を持った人、針で受傷したことのある人でのドナー不適格期間の短縮を決定した。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Nat Med 2005 ;11: 982-985 | PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/ | 英国で外科手術を介したvCJD伝播のリスクを低減させるため、通知活動の次なる段階が開始される。輸血を受けた約50例が追跡調査され、潜在的なvCJD暴露を通知される。これはvCJDキャリアからの血液を輸血され、vCJDを発症した患者が3例報告されたことによる予防措置である。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | CDR Weekly 2006; 16(4) HIV/STIs Reports | 英国におけるHIVおよびAIDSの四半期最新情報(2005年12月末までのデータ)。HIV診断総数は増加を続けており、2005年度は7,700例を越えると予想される。2004年から2005年のHIV診断数増加の大部分は男性と性交渉を持つ男性が占める。現在のところ2005年の新規のAIDS診断数は474例であった。1982年のサーベイランス開始以降の英国での累計はHIV診断数76,850例、AIDS診断数21,898例となった。 |
| 245 | 2006/3/23 | 51051 | 日本製薬株式会社 | 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ | 人アンチトロンビンⅢ | 人血液 | 日本 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | E型肝炎 | CDR Weekly 2005;15(30) | 2004年イギリス全土の血液センターにより34件の輸血伝播感染症(TTI)の疑い例が報告され、1例のみが輸血によるE型肝炎であると確定された。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|---|--|
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | N Engl J Med 2005; 353: 451-459 | 2003年と2004年のアメリカ赤十字のウエストナイルウイルス(WNV)検査プログラムからのデータを分析した。ルーチン検査で540例のドナーがWNV RNAに陽性で、そのうち362例がIgM抗体陰性であり、感染するおそれがあった。核酸増幅検査の迅速な実施により、陽性ドナーの同定がされ、感染性のある成分を除去することができた。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | N Engl J Med 2005; 353: 460-467 | 米国の血液システム研究所は2003年7月から、ウエストナイルウイルス(WNV)RNA検査のために16検体のミニプールについて核酸増幅試験を開始した。2003年7月1日から10月31日に、677,603供血が同検査を受け、183例が陽性で、検出率は0.027%であった。高発症地域からの供血で、ミニプールテスト陰性であった23,088供血を個別に検査したところ、低レベルのWNV血症30例が検出された。そのうち数例は抗体陰性で感染性があった。高発症地域での個別検査の必要性が裏付けられた。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Canadian Blood Service http://www.bloodservices.ca/CentreApps/Internet/UW_V502_MainEngine.nsf/web/ | カナダ血液サービスは、vCJDに関連したドナー規制(英仏滞在累計)および刺青、ピアス、鍼または電気分解治療を行った人、性的背景が不明なパートナーと性的接触を持った人、針で受傷したことのある人でのドナー不適格期間の短縮を決定した。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Nat Med 2005 ;11: 982-985 | PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイパー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------------|---------------------------|----------------|---------|---------------------|------|----|----|------|------------------|---|---|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/ | 英国で外科手術を介したvCJD伝播のリスクを低減させるため、通知活動の次なる段階が開始される。輸血を受けた約50例が追跡調査され、潜在的なvCJD暴露を通知される。これはvCJDキャリアからの血液を輸血され、vCJDを発症した患者が3例報告されたことによる予防措置である。 |
| | | | | | | | | | | | | HIV | CDR Weekly 2006; 16(4) HIV/STIs Reports | 英国におけるHIVおよびAIDSの四半期最新情報(2005年12月末までのデータ)。HIV診断総数は増加を続けており、2005年度は7,700例を越えると予想される。2004年から2005年のHIV診断数増加の大部分は男性と性交渉を持つ男性が占める。現在のところ2005年の新規のAIDS診断数は474例であった。1982年のサーベイランス開始以降の英国での累計はHIV診断数76,850例、AIDS診断数21,898例となった。 |
| 246 | 2006/3/24 | 51052 | 武田薬品工業株式会社 | 日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン | マウス脳 | マウス脳 | 日本 | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 247 | 2006/3/24 | 51053 | ニプロファーマ株式会社 | ヘパリンナトリウム注射液 ヘパリンナトリウム | ヘパリンナトリウム | ブタの小腸粘膜 | 中国、アメリカ、カナダ、オーストラリア | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 248 | 2006/3/24 | 51054 | ニプロファーマ株式会社 | コンドロイチン硫酸ナトリウム・サリチル酸ナトリウム | コンドロイチン硫酸ナトリウム | ウシの軟骨 | 米国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 249 | 2006/3/24 | 51055 | 財団法人化学及血清療法研究所 | 乾燥抗破傷風人免疫グロブリン | 抗破傷風人免疫グロブリン | ヒト血液 | 米国 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | ウエストナイルウイルス | Emerg Infect Dis 2005; 11: 1648-1649 | 2003年米国で、ウエストナイルウイルス(WNV)に感染したカラスの脳の飛散物を目に曝露したヒトが7日後に発症し、核酸増幅法でWNV RNAが検出された。14日目にはWNVに対するIgM抗体が検出された。初めての、結膜からの感染例と思われる。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3 (2005年10月5日) | 2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4例中3例に西ナイルウイルス(WNV)感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|--------|----------|----------|------|-----|------|----|----|------|-----------|-------------------------------------|--|
| | | | | | | | | | | | | バルボウイルス | Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154 | 米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。 |
| 250 | 2006/3/27 | 51056 | 日本赤十字社 | 人血清アルブミン | 人血清アルブミン | 人血液 | 日本 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | HIV | J Med Virol 2006; 78: 311-317 | ドイツで初めてB/Gサブタイプ間組換え型ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)が同定された。このウイルスは、NucliSense HIV-1 QT assay (Organon Technika/bioMerieux)では検出不能であり、Monitor v1.5 test (Roche Molecular Systems)ではLCx HIV RNA Quantitative assay (Abbott Laboratories)に比べ有意に低値を示した。プライマーとプローブ結合部位でのヌクレオチドの不整合が、定量差の原因である。HIV-1の遺伝的多様性がアッセイにおける検出と定量に影響を与えることに注意すべきである。 |
| | | | | | | | | | | | | インフルエンザ | AABB Weekly Report 2006; 12(2): 1-3 | 2006年1月5~6日に米国保健省血液安全安定供給諮問委員会で、インフルエンザの大流行とその血液供給に及ぼす影響について議論された。特に短期生存型血小板の供給が脅かされることが強調された。また血液供給者の潜在的ウイルス感染問題も含めて、安全な血液供給に関する研究がさらに必要であるとされ、保健省が取り組むべき対応策を可決した。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | Nature 2005; 437: 1108 | 2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。 |
| | | | | | | | | | | | | バルボウイルス | Clin Infect Dis 2005; 41: 1201-1203 | バルボウイルスに急性感染後のウイルス動態の再評価により、症状が早期に消失したにもかかわらず、本ウイルスは宿主から急速には除去されないことが示された。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来 成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正 使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|-------------|------|-----|------|----|----|----------|------------------|--|--|
| | | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ヤコブ病 | J Virol 2006; 80: 322-331 | 酸性ドデシル硫酸ナトリウム(SDS)によるプリオンの不活性化について検討した。ハムスターSc237プリオンおよびヒト散在性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)プリオンの酸性SDS暴露による不活性化には、SDS濃度、暴露期間、温度が関係した。ヒトsCJDプリオンはハムスターSc237プリオンに比べ、不活性化に10万倍以上抵抗性を示した。ステンレス鋼線に付着したヒトsCJDプリオンは酸性SDSとオートクレーブの併用で除去された。この知見は手術器具や歯科用機器などのプリオン不活性化に適したシステムの基礎となる。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Eurosurveillance weekly release 2005;10(8) | 2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表した。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中である。 |
| | | | | | | | | | | | | BSE | Vet Rec 2005; 157: 206 | 6月齢の雌ヒツジ30頭にBSEウンの脳5gを経口投与し、6ヶ月後に、同月齢のBSE脳非投与のヒツジ20頭と、一つの群れとして生活させ、自然交配させ、出産させた。投与群では30頭のうち24頭が投与後655日から1056日の間に死亡した。2003年に生まれた2頭の子羊はBSEで死亡した。子羊の母親2頭は臨床症状を呈した。ヒツジにおいてBSEが、子宮内や出産前後に伝播しうることが初めて確認された。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | AABB Weekly Report 2005;11(25):3 | カナダ血液サービスは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更する予定である。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は不適格である。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|-------------------------------|---|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Nat Med 2005; 11: 982-985 | PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Nature 2005; 437: 257-261 | 伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | J Virol 2005; 79: 13794-13796 | 慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Nat Med 2005; 11: 1137-1138 | イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPmp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がることが示された。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|--------------------------------------|--|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMED 20060112-0070 | 英国保健省の月間統計によると2006年1月6日時点でCJD死亡患者総数(BSEと関連があると思われるvCJDを含む)は153例で、内訳はvCJD確定例における死亡患者109例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)43例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的確定実施中)1例であった。存命中のvCJD患者は6例で、vCJD確定例および可能性例総数は159例で前月から変化はなかった。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | ProMed 20050824-0080 | スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスをHuman bocavirusと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | Am J Trop Med Hyg 2005; 73: 428-434 | 2003年コンゴ共和国の医療機関において、サル痘のヒト-ヒト感染が発生した。ヒトにおけるサル痘の流行を確認した初めての報告である。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。患者のすべてが18歳以下で、1名が死亡、1名に重度の後遺症が認められた。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434 | 米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソーム型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|-----------|--------------------------------------|---|
| | | | | | | | | | | | | コロナウイルス感染 | Science 2005; 310: 676-679 | 2004年3月から12月に、中国の4地区から408匹のコウモリを集め、血液、糞、唾液を採取し、血清検体および糞または唾液由来cDNAを、各々独立に、異なった方法で、二重盲検により分析した。その結果、ある種のコウモリが重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体であるSARSコロナウイルス(SARS-CoV)に非常に近いコロナウイルスの自然宿主であることが明らかになった。これらのウイルスはSARS様コロナウイルス(SL-CoV)と名づけられ、ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVより遺伝的多様性が高い。 |
| | | | | | | | | | | | | エボラ出血 | Nature 2005; 438: 575-576 | ガボンおよびコンゴで2001年から2003年にかけて発生したヒトと大型霊長類におけるエボラ流行時に採集された1030の小型脊椎動物において、エボラウイルスについて調べた。エボラウイルスに特異的な抗体が3種類のコウモリの血清中で検出された。エボラウイルスのヌクレオチド配列が同じ種類のコウモリの肝臓と脾臓で検出されたが、腎臓、心臓、肺からは検出されなかった。また他の動物からは検出されなかった。驚くべきことに、抗体陽性の動物はすべてPCR陰性であり、PCR陽性の動物はすべて抗体陰性であった。これはPCR陽性の動物は感染から日が浅く、免疫反応が検出できる前に検査されたためと思われる。 |
| | | | | | | | | | | | | デング熱 | ProMed 20050928-0040 | 2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、カリブ海マルチニーク島、マレーシアでデング熱が流行している。死亡者も多数でている。 |
| | | | | | | | | | | | | デング熱 | Blood 2005; 106 (11): Abstract #5331 | 骨髄移植後の最初の再発時に敗血症と不可逆性ショックを発症し、死後解剖でデングウイルス4型感染が判明した急性リンパ性白血病(ALL)小児患者について報告する。1994年11月にプエルトリコで兄弟からの骨髄移植を受けた6歳の少女は移植後5日目に全身紅斑、6日目に発熱を発症し、抗生物質の投与にかかわらず、不可逆的ショックを起こし、11日目に死亡した。死後解剖で血液、腹水、肝臓、脾臓からデングウイルス4型が検出され、PCRで確認された。ドナーの血液をさらに検査したところ、デングウイルス4型のIgM抗体が検出され、患者ウイルスの培養は、ドナーの急性力価と一致した。デングウイルス感染は流行地域で輸血や骨髄移植を受けた患者の死亡原因となりうる。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|-------------|----------------------------------|---|
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | N Engl J Med 2005; 353: 460-467 | 米国の血液システム研究所は2003年7月から、ウエストナイルウイルス(WNV)RNA検査のために16検体のミニプールについて核酸増幅試験を開始した。2003年7月1日から10月31日に、677,603供血が同検査を受け、183例が陽性で、検出率は0.027%であった。高発症地域からの供血で、ミニプールテスト陰性であった23,088供血を個別に検査したところ、低レベルのWNV血症30例が検出された。そのうち数例は抗体陰性で感染性があつた。高発症地域での個別検査の必要性が裏付けられた。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | N Engl J Med 2005; 353: 451-459 | 2003年と2004年のアメリカ赤十字のウエストナイルウイルス(WNV)検査プログラムからのデータを分析した。ルーチン検査で540例のドナーがWNV RNAに陽性で、そのうち362例がIgM抗体陰性であり、感染するおそれがあつた。核酸増幅検査の迅速な実施により、陽性ドナーの同定がされ、感染性のある成分を除去することができた。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | ABC Newsletter 2005年8月19日 | 2005年7月、米国農務省はウマのウエストナイルウイルスを予防するため、初めてDNAワクチンを認可した。DNAワクチンはウイルスの遺伝物質の小片を使用して対象の感染防御免疫を活性化させる。ヒトへの応用が期待される。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | 朝日新聞 2005年10月3日 | 厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウエストナイル熱と診断されたと発表した。国内初の感染例である。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3 | 2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4名中3名にWNV感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来 成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正 使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|-------------|------|-----|------|----|----|----------|-----------------|---|--|
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイル ウイルス | CDC http://www.cdc.gov/ /ncidod/dvbid/west nile/qa/transfusion. htm | 2005年8月-9月にニューヨークとペンシルバニアで臓器移植を受けたレシピエントがウエストナイルウイルス感染した件に関連するQ&A。臓器移植による感染は、ドナーの血液が核酸増幅試験陰性、IgM、IgG抗体陽性の場合にも起こる可能性がある。 |
| | | | | | | | | | | | | B型肝炎 | 第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日 広瀬ら | 化学療法および造血細胞移植療法実施後に、重篤なB型肝炎を生じた症例を複数経験した。全例とも治療前のHBs抗原は陰性であり、治療中の感染はなかった。HBs抗体およびHBc抗体陽性の症例があったことから、免疫状態の変動に伴いHBVの再活性化が生じたと推測される。 |
| | | | | | | | | | | | | B型肝炎 | 第47回日本臨床血液学会総会2005年9月17-19日 藤巻ら | 移植前HBsAg陰性、HBsAb陽性で、同種造血幹細胞移植を受けた患者6例のうち1例が、移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した。このような患者ではHBウイルスをモニタリングする必要があると考えられる。 |
| | | | | | | | | | | | | B型肝炎 | 第29回日本血液事業学会総会2005年10月12-14日 | 2004年に全国の医療機関から日赤へ報告された輸血後HBV感染疑い症例の現状とその傾向について解析した。 |
| | | | | | | | | | | | | C型肝炎 | J Clin Microbiol 2005; 43: 4413- 4417 | HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNAを定量したところ、18例中14例で、唾液検体では陰性であったが、GCFではHCV-RNAが認められた。また26例中20例で唾液中よりGCF中のHCV-RNA値が高かった。HCVの感染経路を考察する必要がある。 |
| | | | | | | | | | | | | C型肝炎 | The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005年10月6-9日 | 2003年3月~4月にかけて、あるベインクリニックで3回の処置を受けた急性C型肝炎患者を調査した。感染リスク患者35例中4例が新たにHCVに感染していた。複数回使用したリドカインのバイアルが汚染されていたためと考えられた。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|--------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|---------|---|---|
| 251 | 2006/3/27 | 51057 | 日本赤十字社 | 合成血 | 合成血 | 人血液 | 日本 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | HIV | J Med Virol 2006; 78: 311-317 | ドイツで初めてB/Gサブタイプ間組換え型ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)が同定された。このウイルスは、NucliSense HIV-1 QT assay (Organon Technika/bioMerieux)では検出不能であり、Monitor v1.5 test (Roche Molecular Systems)ではLCx HIV RNA Quantitative assay (Abbott Laboratories)に比べ有意に低値を示した。プライマーとプローブ結合部位でのヌクレオチドの不整合が、定量差の原因である。HIV-1の遺伝的多様性がアッセイにおける検出と定量に影響を与えることに注意すべきである。 |
| | | | | | | | | | | | | 細菌感染 | Clin Microbiol Infect 2005; 11: 919-924 | スペインの2つの大病院で行われた成人における肺炎連鎖球菌菌血症回顧試験で、1020例中108例(10.6%)が病院内肺炎球菌血流感染(NPBI)と同定された。この内77例のデータが分析可能であったが、入院後、血液培養が陽性になるまでは3~135日(中央値17日)で、基礎疾患は悪性腫瘍(31%)、慢性閉塞性肺疾患(28.6%)、心不全(16.9%)、慢性腎不全(15.6%)、肝硬変(13%)、HIV感染(13%)であった。患者の31.2%が重度の敗血症、11.7%が敗血症ショック、3.9%が多臓器不全を呈した。原因菌の血清型のうち、78%は23価多糖体ワクチンに含まれていた。35名(45.5%)の患者が死亡し、そのうち21名(27.3%)がNPBIに関連すると考えられた。 |
| | | | | | | | | | | | | 細菌感染 | Transfusion 2005; 45: 1845-1852 | 2004年3月にアメリカ赤十字の36の地域血液センターすべてにおいて、成分採血由来の血小板製剤における細菌汚染についてルーチンの品質管理試験を行った。細菌試験の最初の10ヶ月で350,658例中226例が初期陽性であった。初期陽性のもにつき再度検体採取したところ、68例で細菌汚染が確認され、陽性率は0.019%であった。分離された細菌はブドウ球菌属(47.1%)、連鎖球菌属(26.5%)、グラム陰性菌(17.6%)であった。スクリーニングで陰性であった成分に対して、敗血症性輸血反応と疑わしい症例が3例特定され、これらはすべてコアグララーゼ陰性ブドウ球菌が原因とされた。 |
| | | | | | | | | | | | | 感染 | Eurosurveillance 2005; 10(11): 051110 | 1999年以来、スウェーデンでは梅毒症例数が増加している。男性と性交渉する男性の間で激増しているためで、2004年は前年比7%増の192例で、1980年代半ば以来最高となった。感染の60%は男性間性交渉、38%は男女間性交渉によるもので、約半数(97例)がストックホルム郡で報告されている。ストックホルム郡外の症例のうち2例は海外で血液製剤により感染した。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|-----------|-------------------------------------|---|
| | | | | | | | | | | | | マラリア | AABB Weekly Report 2005年8月5日 | 2004年12月26日の津波/地震に伴うマラリア予防勧告がインドネシアのアチェ州を除いて災害前の勧告基準に戻っていた。 |
| | | | | | | | | | | | | マラリア | AABB Weekly Report 2005年8月5日 | 2004年11月24日から実施されていたCDCによるドミニカ共和国アルタグラシアとドゥアルテ州への渡航に関連するマラリア予防勧告が解除されていた。 |
| | | | | | | | | | | | | マラリア | ProMed 20051015-0070 | フランス人旅行者1名が2005年8月~9月ドミニカ共和国東部を旅行した後に熱帯性マラリアを発症した。マリア薬の服用歴なし。過去12ヶ月以内に輸血、臓器移植歴もなし。 |
| | | | | | | | | | | | | インフルエンザ | AABB Weekly Report 2006; 12(2): 1-3 | 2006年1月5~6日に米国保健省血液安全安定供給諮問委員会で、インフルエンザの大流行とその血液供給に及ぼす影響について議論された。特に短期生存型血小板の供給が脅かされることが強調された。また血液供給者の潜在的ウイルス感染問題も含めて、安全な血液供給に関する研究がさらに必要であるとされ、保健省が取り組むべき対応策を可決した。 |
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | Nature 2005; 437: 1108 | 2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。 |
| | | | | | | | | | | | | バルボウイルス | Clin Infect Dis 2005; 41: 1201-1203 | バルボウイルスに急性感染後のウイルス動態の再評価により、症状が早期に消失したにもかかわらず、本ウイルスは宿主から急速には除去されないことが示された。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|--|--|
| | | | | | | | | | | | | クロイツフェルト・ヤコブ病 | J Virol 2006; 80: 322-331 | 酸性トデシル硫酸ナトリウム(SDS)によるプリオンの不活性化について検討した。ハムスターSc237プリオンおよびヒト散在性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)プリオンの酸性SDS暴露による不活性化には、SDS濃度、暴露期間、温度が関係した。ヒトsCJDプリオンはハムスターSc237プリオンに比べ、不活性化に10万倍以上抵抗性を示した。ステンレス鋼線に付着したヒトsCJDプリオンは酸性SDSとオートクレーブの併用で除去された。この知見は手術器具や歯科用機器などのプリオン不活性化に適したシステムの基礎となる。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Eurosurveillance weekly release 2005;10(8) | 2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表した。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中である。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Vet Rec 2005; 157: 206 | 6月齢の雌ヒツジ30頭にBSEウシの脳5gを経口投与し、6ヶ月後に、同月齢のBSE脳非投与のヒツジ20頭と、一つの群れとして生活させ、自然交配させ、出産させた。投与群では30頭のうち24頭が投与後655日から1056日の間に死亡した。2003年に生まれた2頭の子羊はBSEで死亡した。子羊の母親2頭は臨床症状を呈した。ヒツジにおいてBSEが、子宮内や出産前後に伝播しうることが初めて確認された。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | AABB Weekly Report 2005;11(25):3 | カナダ血液サービスは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更する予定である。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は不適格である。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|-------------------------------|---|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Nat Med 2005; 11: 982-985 | PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Nature 2005; 437: 257-261 | 伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | J Virol 2005; 79: 13794-13796 | 慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。 |
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Nat Med 2005; 11: 1137-1138 | イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPmp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPscが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPscが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPscの沈着が予期せぬ組織に広がることが示された。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|------------------|--------------------------------------|--|
| | | | | | | | | | | | | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMED 20060112-0070 | 英国保健省の月間統計によると2006年1月6日時点でCJD死亡患者総数(BSEと関連があると思われるvCJDを含む)は153例で、内訳はvCJD確定例における死亡患者109例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)43例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的確定実施中)1例であった。存命中のvCJD患者は6例で、vCJD確定例および可能性例総数は159例で前月から変化はなかった。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | ProMed 20050824-0080 | スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスをHuman bocavirusと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | Am J Trop Med Hyg 2005; 73: 428-434 | 2003年コンゴ共和国の医療機関において、サル痘のヒトヒト感染が発生した。ヒトにおけるサル痘の流行を確認した初めての報告である。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。患者のすべてが18歳以下で、1名が死亡、1名に重度の後遺症が認められた。 |
| | | | | | | | | | | | | ウイルス感染 | J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434 | 米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソーム型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|-----------|----------------------------|---|
| | | | | | | | | | | | | コロナウイルス感染 | Science 2005; 310: 676-679 | 2004年3月から12月に、中国の4地区から408匹のコウモリを集め、血液、糞、唾液を採取し、血清検体および糞または唾液由来cDNAを、各々独立に、異なった方法で、二重盲検により分析した。その結果、ある種のコウモリが重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体であるSARSコロナウイルス(SARS-CoV)に非常に近いコロナウイルスの自然宿主であることが明らかになった。これらのウイルスはSARS様コロナウイルス(SL-CoV)と名づけられ、ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVより遺伝的多様性が高い。 |
| | | | | | | | | | | | | エボラ出血 | Nature 2005; 438: 575-576 | ガボンおよびコンゴで2001年から2003年にかけて発生したヒトと大型霊長類におけるエボラ流行時に採集された1030の小型脊椎動物において、エボラウイルスについて調べた。エボラウイルスに特異的な抗体が3種類のコウモリの血清中で検出された。エボラウイルスのヌクレオチド配列が同じ種類のコウモリの肝臓と脾臓で検出されたが、腎臓、心臓、肺からは検出されなかった。また他の動物からは検出されなかった。驚くべきことに、抗体陽性の動物はすべてPCR陰性であり、PCR陽性の動物はすべて抗体陰性であった。これはPCR陽性の動物は感染から日が浅く、免疫反応が検出できる前に検査されたためと思われる。 |
| | | | | | | | | | | | | デング熱 | ProMed 20050928-0040 | 2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、カリブ海マルチニーク島、マレーシアでデング熱が流行している。死亡者も多数でている。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|-------------|--------------------------------------|---|
| | | | | | | | | | | | | デング熱 | Blood 2005; 106 (11): Abstract #5331 | 骨髄移植後の最初の再発時に敗血症と不可逆性ショックを発生し、死後解剖でデングウイルス4型感染が判明した急性リンパ性白血病(ALL)小児患者について報告する。1994年11月にプエルトリコで兄弟からの骨髄移植を受けた6歳の少女は移植後5日目に全身紅斑、6日目に発熱を発生し、抗生物質の投与にかかわらず、不可逆的ショックを起こし、11日目に死亡した。死後解剖で血液、腹水、肝臓、脾臓からデングウイルス4型が検出され、PCRで確認された。ドナーの血液をさらに検査したところ、デングウイルス4型のIgM抗体が検出され、患者ウイルスの培養は、ドナーの急性力価と一致した。デングウイルス感染は流行地域で輸血や骨髄移植を受けた患者の死亡原因となりうる。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | N Engl J Med 2005; 353: 460-467 | 米国の血液システム研究所は2003年7月から、ウエストナイルウイルス(WNV)RNA検査のために16検体のミニプールについて核酸増幅試験を開始した。2003年7月1日から10月31日に、677,603供血が同検査を受け、183例が陽性で、検出率は0.027%であった。高発症地域からの供血で、ミニプールテスト陰性であった23,088供血を個別に検査したところ、低レベルのWNV血症30例が検出された。そのうち数例は抗体陰性で感染性があった。高発症地域での個別検査の必要性が裏付けられた。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | N Engl J Med 2005; 353: 451-459 | 2003年と2004年のアメリカ赤十字のウエストナイルウイルス(WNV)検査プログラムからのデータを分析した。ルーチン検査で540例のドナーがWNV RNAに陽性で、そのうち362例がIgM抗体陰性であり、感染するおそれがあった。核酸増幅検査の迅速な実施により、陽性ドナーの同定がされ、感染性のある成分を除去することができた。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | ABC Newsletter 2005年8月19日 | 2005年7月、米国農務省はワムのウエストナイルウイルスを予防するため、初めてDNAワクチンを認可した。DNAワクチンはウイルスの遺伝物質の小片を使用して対象の感染防御免疫を活性化させる。ヒトへの応用が期待される。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|-------------|--|---|
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | 朝日新聞 2005年10月3日 | 厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウエストナイル熱と診断されたと発表した。国内初の感染例である。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3 | 2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4名中3名にWNV感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。 |
| | | | | | | | | | | | | ウエストナイルウイルス | CDC http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/qa/transfusion.htm | 2005年8月-9月にニューヨークとペンシルバニアで臓器移植を受けたレシピエントがウエストナイルウイルス感染した件に関連するQ&A。臓器移植による感染は、ドナーの血液が核酸増幅試験陰性、IgM、IgG抗体陽性の場合にも起こる可能性がある。 |
| | | | | | | | | | | | | B型肝炎 | 第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日 広瀬ら | 化学療法および造血細胞移植療法実施後に、重篤なB型肝炎を生じた症例を複数経験した。全例とも治療前のHBs抗原は陰性であり、治療中の感染はなかった。HBs抗体およびHBc抗体陽性の症例があったことから、免疫状態の変動に伴いHBVの再活性化が生じたと推測される。 |
| | | | | | | | | | | | | B型肝炎 | 第47回日本臨床血液学会総会2005年9月17-19日 藤巻ら | 移植前HBsAg陰性、HBsAb陽性で、同種造血幹細胞移植を受けた患者6例のうち1例が、移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した。このような患者ではHBウイルスをモニタリングする必要があると考えられる。 |
| | | | | | | | | | | | | B型肝炎 | 第29回日本血液事業学会総会2005年10月12-14日 | 2004年に全国の医療機関から日赤へ報告された輸血後HBV感染疑い症例の現状とその傾向について解析した。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|-----------|--------------------|--------------------|---------|-----|------|----|----|------|---------|---|--|
| | | | | | | | | | | | | C型肝炎 | J Clin Microbiol 2005; 43: 4413-4417 | HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNAを定量したところ、18例中14例で、唾液検体では陰性であったが、GCFではHCV-RNAが認められた。また26例中20例で唾液中よりGCF中のHCV-RNA値が高かった。HCVの感染経路を考察する必要がある。 |
| | | | | | | | | | | | | C型肝炎 | The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005年10月6-9日 | 2003年3月~4月にかけて、あるペインクリニックで3回の処置を受けた急性C型肝炎患者を調査した。感染リスク患者35例中4例が新たにHCVに感染していた。複数回使用したリドカインのバイアルが汚染されていたためと考えられた。 |
| 252 | 2006/3/27 | 51058 | バクスター株式会社 | 乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体 | 乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体 | 人血漿 | 米国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 253 | 2006/3/27 | 51059 | バクスター株式会社 | 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子 | 人血清アルブミン | 人血漿 | 米国 | 添加物 | 無 | 有 | 無 | | | |
| 254 | 2006/3/27 | 51060 | バクスター株式会社 | 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子 | 乾燥人血液凝固第Ⅷ因子 | 人血漿 | 米国 | 有効成分 | 無 | 有 | 無 | | | |
| 255 | 2006/3/27 | 51061 | バクスター株式会社 | 乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体 | ヘパリンナトリウム | ブタ腸 | 中国 | 添加物 | 無 | 有 | 無 | | | |
| 256 | 2006/3/27 | 51062 | バクスター株式会社 | 乾燥人血液凝固第Ⅹ因子複合体 | 乾燥人血液凝固第Ⅹ因子複合体 | 人血漿 | 米国 | 有効成分 | 無 | 有 | 無 | | | |
| 257 | 2006/3/27 | 51063 | 光製薬株式会社 | ダルテパリンナトリウム注射液 | ダルテパリンナトリウム | ブタの小腸粘膜 | 中国 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | レンサ球菌感染 | OIE Disease Information 18(36) 2005年9月9日 | 中国四川省で647頭のブタがStreptococcus suis感染で死亡した。この流行病は2005年6月後半に始まり、7月20日頃ピークとなり、その後急速に減少した。抗生物質の投与、衛生状態の改善、ワクチン接種などが流行病を抑えるのに有効であった。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|-------------|--|----------|------|-----------------------|-------------------|----|----|------|-------------|--|---|
| | | | | | | | | | | | | レンサ球菌感染 | Science 2005; 309: 1308-1309 | WHOが中国でのブタ由来の感染症について調査した。中国衛生部の報告によると中国四川省で流行した感染症は2005年7月中旬がピークで、同年8月5日以降は新たな感染例はない。ブタは600頭以上が死亡し、ヒトでは感染例204例のうち38例が死亡した。ほぼ全ての患者が病気のブタとの接触があった。ヒトとブタの検体を調べたところ、Streptococcus suis serotype 2の存在が確認され、その他の細菌やウイルスは認められなかった。当局によるとヒトからヒトへの伝播は見られなかった。WHOによると、新しい変異型か毒性の強い2型serotypeかは今のところ明らかではない。 |
| | | | | | | | | | | | | レンサ球菌感染 | Weekly epidemiological record 2005; 80: 269-276 http://www.who.int/wer | 中国衛生部は2005年8月3日に、ブタでのStreptococcus suis流行に関連した疾病がヒトで206例見られたと報告した。そのうち38例が死亡し、18例が重篤である。全例が四川省で発生し、そこでは同時期にブタでStreptococcus suis感染が流行していた。中国の疫学者によると、ヒトでの最初の発症は2005年の6月末であった。患者のほとんどが農家の成人男性であり、病気や死んだブタに接触したことが感染の原因とみられる。この件に関してWHOはさらに詳しく調査中である。 |
| 258 | 2006/3/28 | 51064 | ZLBベリング株式会社 | 人血清アルブミン①~③ 人血液凝固第ⅩⅢ因子④ フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子⑤、⑥ | 人血清アルブミン | ヒト血液 | ①④⑤⑥米国、ドイツ、オーストリア②③米国 | ①~③有効成分 ④~⑥添加物 | 有 | 有 | 無 | ウエストナイルウイルス | N Engl J Med 2005; 353: 460-467 | 米国の血液システム研究所は2003年7月から、ウエストナイルウイルス(WNV)RNA検査のために16検体のミニプールについて核酸増幅試験を開始した。2003年7月1日から10月31日に、677,603供血が同検査を受け、183例が陽性で、検出率は0.027%であった。高発症地域からの供血で、ミニプールテスト陰性であった23,088供血を個別に検査したところ、低レベルのWNV血症30例が検出された。そのうち数例は抗体陰性で感染性があった。高発症地域での個別検査の必要性が裏付けられた。 |
| 259 | 2006/3/28 | 51065 | ZLBベリング株式会社 | フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子 | アプロチニン液 | ウシ肺 | ウルグアイ、ニュージーランド | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|-----------------|---|--------------------|-----------------------|---|------|----|----|------|-----------|-----------------------------------|--|
| 260 | 2006/3/24 | 51066 | メルク・ホエイ株式会社 | ダルテパリンナトリウム | ダルテパリンナトリウム | ブタ小腸 | 中国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 261 | 2006/3/29 | 51067 | ジェンザイム・ジャパン株式会社 | アガルシダーゼベータ(遺伝子組換え) | アガルシダーゼベータ(遺伝子組換え) | 遺伝子組換えチャイニーズハムスター卵巣細胞 | | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 262 | 2006/3/29 | 51068 | ジェンザイム・ジャパン株式会社 | アガルシダーゼベータ(遺伝子組換え) | ドナー子ウシ血清 | ドナー子ウシ血清 | ニュージーランド | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 263 | 2006/3/30 | 51069 | 日新製薬株式会社 | 塩化マンガン・硫酸亜鉛配合剤 | コンドロイチン硫酸ナトリウム | ウシの気管 | アメリカ合衆国、カナダ、ウルグアイ、アルゼンチン、オーストラリア、ニュージーランド | 添加物 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 264 | 2006/3/30 | 51070 | 日新製薬株式会社 | ダルテパリンナトリウム製剤 | ダルテパリンナトリウム | ブタの小腸 | 中国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 265 | 2006/3/30 | 51071 | 三菱ウェルファーマ株式会社 | ヘパリンナトリウム | ヘパリンナトリウム | ブタの小腸粘膜 | 中国、アメリカ、カナダ、オーストラリア | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 266 | 2006/3/30 | 51072 | 財団法人化学及血清療法研究所 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン | 胚初代培養細胞 | ニワトリ | メキシコ | 製造工程 | 有 | 無 | 無 | トリインフルエンザ | J Infect Dis 2005; 192: 1318-1322 | 1999年から2003年に養鶏場労働者から集めた血清検体983例を分析し、イタリアで流行したインフルエンザの原因となったトリインフルエンザウイルスについて調べた。低病原性トリインフルエンザH7N3ウイルスが流行した2003年に集められた検体の3.8%で、抗H7N3抗体および高病原性インフルエンザH7N1に対する抗体である抗H7N1抗体の両方が検出された。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|-----|-----------|-------|----------------|--|-------------|--------|-----------|------|----|----|------|-----------|---|---|
| | | | | | | | | | | | | トリインフルエンザ | 厚生労働省 平成18年1月10日 http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html | 平成17年6月以降、高病原性鳥インフルエンザが確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等及び防疫業者の一部に対し、感染症の有無を確認するために健康状態及びウイルス検査を実施したが、インフルエンザ様症状を示す者はなく、PCR検査によるウイルス遺伝子検査の結果はすべて陰性であった。また、血清中和抗体検査では、第1回抗体検査と第2回抗体検査との間で4倍以上の抗体価上昇が15例で見られた。全体としては353名中77名が陽性と判定された。 |
| 267 | 2006/3/30 | 51073 | 財団法人化学及血清療法研究所 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン | トリブシン | ブタ膵臓 | カナダ、アメリカ | 製造工程 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 268 | 2006/3/30 | 51074 | 財団法人化学及血清療法研究所 | 乾燥ガスえそウマ抗毒素 ガスえそウマ抗毒素 乾燥ジフテリア抗毒素 乾燥ボツリヌス抗毒素 | ウマ免疫グロブリン | ウマ血液 | | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 269 | 2006/3/31 | 51075 | 日医工株式会社 | ウリナスタチン | ウリナスタチン | ヒト尿 | 中華人民共和国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 270 | 2006/3/31 | 51076 | 日医工株式会社 | ダルテパリンナトリウム | ダルテパリンナトリウム | ブタ小腸粘膜 | 中華人民共和国 | 有効成分 | 無 | 無 | 無 | | | |
| 271 | 2006/3/31 | 51077 | 扶桑薬品工業株式会社 | ヘパリンナトリウム | ヘパリンナトリウム | ブタの腸粘膜 | 米国、カナダ、中国 | 有効成分 | 有 | 無 | 無 | E型肝炎 | 日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 922 | 北海道における急性E型肝炎患者を対象とし、E型肝炎ウイルス感染および重症化の危険因子について検討した。急性E型肝炎患者27例中25例(93%)が発症の2週から8週前にブタレバーホルモンを摂取していた。IV型感染例はIII型より重症であった。また基礎疾患の有無が重症化と密接な関連があった。 |

| ID | 受理日 | 番号 | 報告者名 | 一般名 | 生物由来成分名 | 原材料名 | 原産国 | 含有区分 | 文献 | 症例 | 適正使用 | 感染症(PT) | 出典 | 概要 |
|----|-----|----|------|-----|---------|------|-----|------|----|----|------|---------|-----------------------------------|--|
| | | | | | | | | | | | | サルモネラ | ProMed 20051002-0040 | 米国ウィスコンシン州Walworth郡健康局は、同郡で発生したサルモネラ感染症12例の患者のうち7例が農産物品評会に参加していたと発表した。ブタ小屋にいたことが原因と考えられたが、ブタの糞からはサルモネラ菌は検出されなかった。患者は全員回復した。 |
| | | | | | | | | | | | | サルモネラ | Z Gastroenterol 2005; 43: 707-713 | 2004年の春から夏にかけて、ドイツの多くの州で、Salmonella enterica serovar Giveによる感染症が流行した。感染源や感染の特徴を明らかにするために調査を行った。その結果、生のブタ挽肉の消費と本感染症と相関があることが示された。ブタ肉から分離された菌株は患者から分離されたものと一致した。 |